

青森県立美術館

年報

平成27年度

目次

青森県立美術館の沿革

展覧会

- 006 企画展
- 032 常設展
- 036 重点事業

学芸

- 048 美術資料収集
- 054 美術資料貸出状況
- 055 作品保存修復

教育普及

- 058 普及プログラム
- 062 スクールプログラム
- 064 サポートスタッフ
- 065 メンバーシッププログラム

パフォーミングアーツ

- 068 演劇
- 077 ダンス
- 080 音楽
- 083 映画

サービス等

- 088 貸館
- 090 図書室
- 091 キッズルーム
- 092 博物館実習

資料

- 096 広報
- 097 広聴
- 098 入館者数
- 099 運営予算・決算
- 100 組織
- 101 関係規程等
- 104 施設設備概要

青森県立美術館の沿革

1990年3月	美術館の設置について検討を開始することを表明
1991年1月	美術館、音楽・演劇ホール等の複合文化ゾーンである「総合芸術パーク」の検討開始
1996年2月	総合芸術パークの建設場所を三内丸山遺跡に隣接した移転予定の総合運動公園跡地に決定 総合芸術パークの核となる美術館を先行し整備することが決定
1999年度	美術館設計競技を実施、最優秀者に青木淳氏
2000年度	建築基本設計
2001年度	建築実施設計
2002年度	美術館建築工事着工
2003年度	別棟で建築予定であったアトリエとレジデンスを休止、同じく別棟で建築予定であったレストラン、ミュージアムショップを美術館本体に組み込むなどの見直しを行う
2005年9月20日	美術館竣工
2006年3月17日	「運営諮問会議」設置
2006年4月1日	青森県立美術館開館準備室設置
2006年10月17日	「青森県立美術館条例」制定
2006年6月13日	開館プレス発表開催
2006年7月13日	開館（館長 三村申吾）
2007年7月24日	博物館法に基づく博物館相当施設登録（青森県教育委員会告示第11号）
2007年9月13日	「県民のための美術館づくり懇話会」設置
2008年7月19日	あおもり犬屋外連絡通路開通
2008年7月20日	青森県立美術館2周年記念シンポジウム開催
2009年1月1日	新館長 鷹山ひばり 就任
2010年5月7日	入館者150万人達成
2010年7月8日	あおもり犬えさ皿完成
2011年7月11日	入館者200万人達成
2011年7月13日	開館5周年
2012年11月14日	入館者250万人達成
2013年11月14日	入館者300万人達成
2016年7月13日	開館10周年

展覧会

企画展
成田亨展
化け物展

常設展
第1-2期

重点事業（アートプロジェクト）
PHASE 2015
青森 EARTH 2015

凡例

- 1 出品作品の項は、出品番号、作家・作品名、制作年、材質技法、寸法（高さ×縦×横、cm）、所蔵先の順に記した。
- 2 掲載記事は新聞記事のみを記載している。

成田 亨 美術／特撮／怪獣

～出品点数 700 点！史上最大の大回顧展！

“時代”に苦悩した天才芸術家の「軌跡」とその「閃光」

開催概要

2015 年 4 月 11 日（土）－ 5 月 31 日（日）

主催：成田亨展実行委員会（青森県立美術館、青森朝日放送、
東奥日報社、青森県観光連盟）

企画協力：スパンアートギャラリー

協力：青い森鉄道、アートボックス

後援：NHK 青森放送局、エフエム青森、青森ケーブルテレビ、
岩手日報社、秋田魁新報社、青森県教育委員会

観覧料：

一般 1,200（1,000）円、高大生 800（600）円

小中生 200（160）円

※（ ）内は 20 名以上の団体料金

※心身に障がいがある方と付添者 1 名は無料

入場者数

18,257 人

関連企画

1. 記念講演会

(1) 成田流里氏（成田亨夫人）、成田カイリ氏（成田亨ご子息・
俳優）

日時：4 月 12 日（日）14:00 - 16:00（開場 13:30）

(2) 村上隆氏（アーティスト）

日時：4 月 25 日（土）14:00 - 15:30（開場 13:30）

(3) 榎木野衣氏（美術批評家、多摩美術大学教授）

日時：5 月 9 日（土）14:00 - 15:30（開場 13:30）

会場：青森県立美術館シアター

2. 展覧会担当学芸員トークショー

日時：4 月 11 日（土）13:30 - 15:00（開場 13:00）

講師：三木敬介（富山県立近代美術館学芸員）、山口洋三（福
岡市美術館学芸員）、工藤健志（青森県立美術館学芸員）

会場：青森県立美術館ワークショップ A

3. 関連映画上映会

「麻雀放浪記」（1984 年／KADOKAWA 角川／109 分）

日時：5 月 5 日（火・祝）10:00 - 11:49 / 13:30 - 15:19

会場：青森県立美術館シアター

4. 親子ギャラリーツアー

日時：5 月 2 日（土）－ 6 日（水・祝）

各日とも 14:00 - 14:30

対象：小学生以上の親子

5. 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：5 月 24 日（日）、5 月 31 日（日）14:00 - 15:00

展覧会カタログ

『成田亨作品集』

著者：成田亨

監修：富山県立近代美術館

福岡市美術館

青森県立美術館

編集：三木敬介（富山県立近代美術館）

山口洋三（福岡市美術館）

工藤健志（青森県立美術館）

装丁・デザイン：大西隆介（direction Q）

レイアウト：山口潤（direction Q）

発行：株式会社羽島書店

発行日：2014 年 7 月 19 日



ポスター



展示風景



美術館では成田亨（1929 - 2002）を重要作家のひとりと位置づけ、これまで常設展において怪獣デザイン原画の一部を常時公開してきました。「ウルトラ」の仕事が中心だったその展示は、成田亨という芸術家の一側面を伝えるに過ぎませんでした。

成田亨は彫刻家、画家、デザイナー、特撮美術監督とジャンルの垣根を越えた多彩な表現活動を行った作家です。旧制青森中学（現青森高等学校）在学中に画家・阿部合成と出会い、絵を描く技術よりも「本質的な感動」を大切に考える考え方を、さらに彫刻家の小坂圭二からモチーフの構造とその構成を重視する手法を学んだ後、武蔵野美術学校（現武蔵野美術大学）で絵画、彫刻を学び、新制作展を舞台に気鋭の彫刻家として脚光を浴びていきます。一方、アルバイトとして映画「ゴジラ」（1954年）の製作に参加したことをきっかけに、以降特撮美術の仕事も数多く手がけていきました。1965年から68年にかけて制作、放映された「ウルトラQ」、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」ではヒーロー、宇宙人、怪獣、メカニックやセット等のデザインを担当し、「成田怪獣」と称される名キャラクターを次々に

生み出していきました。成田の高い芸術的感性が反映された卓越した造形センスにより、「成田怪獣」は放映から50年近く経った現在もなお愛され続けています。「ウルトラ」以降も、テレビ番組では「マイティジャック」や「突撃ヒューマン」、「円盤戦争バンキッド」など、映画では「新幹線大爆破」や「戦争と人間」、「この子を残して」、「麻雀放浪記」などの特撮を手がける一方で、個展を中心に油彩画や彫刻の作品発表も続けていきます。また古今東西のモンスターへの関心と知識を深めた成田は、1990年に巨大彫刻「鬼モニュメント」（京都府福知山市）を制作しますが、本作は彫刻家としての成田の集大成的作品と言えます。

今回の回顧展では、こうした多岐にわたる成田の仕事の全貌を紹介。青森県立美術館所蔵のウルトラ関係デザイン原画187点をはじめとする特撮関連の作品、未公開の怪獣デザイン原画、初期、および1970年代以降の絵画・彫刻など総点数700点により、非凡なる才能を秘めていた奇跡の芸術家の知られざる全貌に迫りました。

出品作品

映画「海底大戦争」戦闘機
1966
色鉛筆、ペン、水彩・紙

映画「海底大戦争」大型追跡魚雷・シーウルフ
1966
鉛筆、ペン・紙

ウルトラ Q 1966 年

「南海の怒り」登場予定怪魚
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

「南海の怒り」登場予定怪魚
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

「南海の怒り」登場予定怪魚
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

「南海の怒り」登場予定怪魚
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

「南海の怒り」登場予定怪魚
1965
水彩・紙
青森県立美術館蔵

ピーター初稿
1965
ペン・紙
青森県立美術館蔵

ピーター決定稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

バルンガ
1965
鉛筆、水彩・紙
青森県立美術館蔵

ガラダマ
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

ガラモン初稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

ガラモン決定稿
1965
ペン・紙
青森県立美術館蔵

ボスタングの卵
1965
水彩・紙
青森県立美術館蔵

ボスタング
1965
水彩、ペン・紙
青森県立美術館蔵

ボスタング
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

カネゴン初稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

カネゴン初稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

カネゴン決定稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

カネゴン決定稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

バゴス
1965
ペン・紙
青森県立美術館蔵

バゴス
1965
ペン・紙
青森県立美術館蔵

バゴス頭部
1965
コンテ、ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

ラゴン
1965
ペン・紙
青森県立美術館蔵

ラゴン
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

ゴーガ
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

ゴーガ
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

ゴーガ注意書き
1965
ペン・紙
青森県立美術館蔵

ケムール人
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

ケムール人
1965
水彩・紙
青森県立美術館蔵

ゴルゴス
1965
ペン・紙
青森県立美術館蔵

ゴルゴス
1965
ペン・紙
青森県立美術館蔵

ゴルゴス
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

人工生命M1号初稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

人工生命M1号初稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

人工生命M1号決定稿
1965
ペン・紙
青森県立美術館蔵

クラブトン決定稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

クラブトン初稿
1965
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

雲怪獣
1965
水彩・紙
青森県立美術館蔵

初期作品 1950-60 年代

海・舟・男
1950-60 年代
ペン、水彩・紙

母子
1950-60 年代
ペン、水彩・紙

顔と手
1950-60 年代
ペン、水彩・紙

牛
1957
水彩、クレヨン・紙

唄（素描）
1961 年頃
ペン、水彩・紙

唄
1961
FRP

Yata
1962-71
ペン、水彩・紙

八咫
1962-71
ペン、水彩・紙

八咫
1962-71
ペン、水彩・紙

八咫
1962-71
ペン、水彩・紙

翼の丸
1964
鉄、漆

映画「宇宙快速船」アイアン
1961
シャープペン、水彩・紙

映画「宇宙快速船」海王星人宇宙船
1961
ペン、水彩・紙

映画「宇宙快速船」海王星人円盤
1961
ペン、水彩・紙

セミ人間 1965 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ウルトラマン初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	バルタン星人決定稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	バラージの青い石 神殿正面の壁画 1966 鉛筆、水彩・紙 青森県立美術館蔵
セミ人間 1965 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ウルトラマン 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ネロンガ初稿 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵	レッドキング 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
セミ人間頭部 1965 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ウルトラマンイラスト 1983 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ネロンガ決定稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	レッドキング 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵
セミ人間頭部 1965 ペン・紙 青森県立美術館蔵	ウルトラマンイラスト 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	グリーンモンス初稿 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵	スフラン 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
「キリがない」登場予定怪獣 1965 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ビートル、S号ドッキング案 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	グリーンモンス決定稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ガボラ 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
いなづま号 1965 鉛筆、ペン・紙	ビートル2号試作 1966 水彩、ペン、鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	ゲスラ初案 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ガボラ 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
新東京駅 1965 ペン、水彩・紙	ビートル2号試作 1966 水彩、ペン、鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	ゲスラ初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ジラス 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ルパーツ星人円盤 1965 ペン、水彩・紙	ビートル2号試作 1966 水彩、ペン・紙 青森県立美術館蔵	ゲスラ決定稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	キャンゴ 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵
ナキラ 1966 ペン、水彩・紙	ビートル2号 1966 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	アントラー初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	キャンゴ 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ガラモンの逆襲 円盤 1965 ペン、水彩・紙	特殊潜水艇S号(3面図) 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	アントラー初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ドドンゴ初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ウルトラマン 1966-67年 ベムラー(ウルトラマン)初稿 1965 ペン・紙 青森県立美術館蔵	科学特捜隊基地セット 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	アントラー決定稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ドドンゴ 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ウルトラマン初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ベムラー 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵	アントラー頭部 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵	ミイラ人間 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ウルトラマン初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	バルタン星人初稿 1966 ペン、鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	バラージ「ノアの神」神殿セット 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ベスター 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵

ベスター 1966 水彩、クレヨン・紙 青森県立美術館蔵	ケムラー 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ゴモラ決定稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	メフィラス星人 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ガマクジラ 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	テレスドン 1966 ペン、コンテ・紙 青森県立美術館蔵	ダダ 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	スカイドン 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ガヴァドン初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ダダ頭部 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵	シーボーズ 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ガヴァドン幼獣 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ジャミラ 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ダダAイラスト 1983 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ザラガス 1967 ペン・紙 青森県立美術館蔵
ガヴァドン成獣 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	グビラ初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ダダBイラスト 1983 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ザラガス 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ブルトン 1966 鉛筆、水彩・紙 青森県立美術館蔵	グビラ初稿 1966 鉛筆、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ダダCイラスト 1983 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	キーラ 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ブルトン 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	グビラ初稿 1966 鉛筆、マーカー・紙 青森県立美術館蔵	ゴルドン初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	キーラ初稿 1967 ペン、墨・紙 青森県立美術館蔵
ザラブ星人 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	グビラ前面図 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵	ゴルドン 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	サイゴ初稿 1967 ペン・紙 青森県立美術館蔵
にせウルトラマン 1983 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	グビラ決定稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ウーA案 1967 ペン・紙 青森県立美術館蔵	サイゴ 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
アボラス 1966 鉛筆、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ギガス 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ウー決定稿 1967 ペン・紙 青森県立美術館蔵	ゼットン 1967 ペン、マーカー・紙 青森県立美術館蔵
バニラ 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ドラコ初稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ウー頭部 1967 ペン・紙 青森県立美術館蔵	ゼットンイラスト 1983 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ヒドラ 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ドラコ決定稿 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ケロニア 1966 ペン・紙 青森県立美術館蔵	ゼットンイラスト 1983 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ケムラー 1966 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ゴモラ初稿 1966 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	ザンボラー 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ゾフィーイラスト 1983 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵

ヤマトン 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ウルトラセブン初稿 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ウルトラ警備隊セット（ホーク1号発進口） 1967 鉛筆、水彩・紙 青森県立美術館蔵	キュラツ星人 1967 ペン、鉛筆・紙 青森県立美術館蔵
メバ（メカニック・バルタン） 1967 鉛筆、ペン・紙	ウルトラセブン初稿 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	マグマライザー 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	キュラツ星人頭部デザイン 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵
メバ 1983 ペン・紙	ウルトラセブン初稿 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	エレキング幼獣 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	メトロン星人 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
ウルトラマンマスク（制作：佐々木明） 1966-67 FRP、プラスチック、塗料	ウルトラセブン決定稿B案 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	エレキング 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	チブル星人 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
タイトル・ウルトラQ 1966 色鉛筆、切り紙・紙、セル	ウルトラセブン頭部 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ビット星人 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	ワイルド星人 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
タイトル・ウルトラマン 1966 切り紙・紙	ウルトラ警備隊マーク 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ビット星人 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	アイロス星人 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
科学特捜隊マーク 1966 色鉛筆・紙	ウルトラ警備隊隊員コスチューム 1967 鉛筆、ペン・紙 青森県立美術館蔵	ミクラス 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	クモンガ 1967 鉛筆、ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
科学特捜隊マーク 1966 水彩・紙	ウルトラ警備隊隊員コスチューム 1967 鉛筆、ペン・紙 青森県立美術館蔵	ワイアール星人 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ベル星人 1967 鉛筆、ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵
特殊潜水艇S号試作デザイン 1966 ペン、水彩・紙	ウルトラ警備隊隊員コスチューム 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ベガッサ星人 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	ベル星人 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵
フェニックス号 1966 ペン、水彩・紙	ウルトラ警備隊隊員コスチューム 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ゴドラ星人 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ポール星人 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵
金星ロケット“オオトリ” 1966 ペン、水彩・紙	ウルトラ警備隊隊員コスチューム 1967 ペン、水彩・紙 青森県立美術館蔵	ゴドラ星人 1967 ペン・紙 青森県立美術館蔵	ユートム 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵
原爆デザインA 1966 ペン、水彩・紙	ウルトラホーク2号 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	ピラ星人決定稿 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	キングジョー初稿 1967 鉛筆、水彩・紙 青森県立美術館蔵
原爆デザインB 1966 鉛筆、ペン、水彩・紙	ウルトラホーク2号 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵	イカルス星人イラスト 1983 ペン・紙 青森県立美術館蔵	キングジョー決定稿 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵
ウルトラセブン 1967-68年			
ウルトラセブン初稿 鉛筆、ペン・紙 1967 青森県立美術館蔵	ウルトラホーク2号 1967 鉛筆・紙 青森県立美術館蔵		

バド星人
1967
鉛筆・紙
青森県立美術館蔵

バド星人頭部デザイン
1967
鉛筆・紙
青森県立美術館蔵

ギラドラス初稿
1967
鉛筆・紙
青森県立美術館蔵

シャブレー星人初稿
1967
鉛筆・紙
青森県立美術館蔵

シャブレー星人初稿
1967
鉛筆・紙
青森県立美術館蔵

ブラコ星人
1967
鉛筆・紙
青森県立美術館蔵

ガブラ
1967
鉛筆・紙
青森県立美術館蔵

シャドー星人イラスト
1983
ペン、水彩・紙
青森県立美術館蔵

ガンダー
1967
鉛筆、ペン・紙
青森県立美術館蔵

ブラチク星人
1968
鉛筆、水彩・紙
青森県立美術館蔵

スペル星人
1967
鉛筆・紙

PDF UG (ウルトラ警備隊)
1967
色鉛筆、ペン・紙

ウルトラ警備隊マーク
1967
色鉛筆・紙

ウルトラホーク1, 2, 3号、ポインター、
ウルトラガン
1967
鉛筆・紙

ウルトラホーク1号 NGデザイン
1967
鉛筆・紙

ウルトラホーク1号 α 、 β 、 γ
1967
鉛筆、水彩・紙

ウルトラホーク1号 コックピット
1967
鉛筆、色鉛筆・紙

ウルトラホーク1号 デザイン原画
1967
鉛筆、ペン、水彩・紙

ウルトラホーク3号
1967
鉛筆、水彩・紙

ポインターペン
1967
水彩・紙

ウルトラホーク3号 NGデザイン
(ステーションホーク1号)
1967
鉛筆、水彩・紙

ウルトラ警備隊セット (ホーク3号発進口)
1967
ペン、水彩・紙

ウルトラ警備隊作戦室? 参謀室扉
1967
ペン・紙

宇宙ステーションV3 デザイン
1967
ペン、水彩・紙

地球防衛軍作戦室ドアおよび額縁
1967
ペン・紙

マイティジャック 1968年

MJ マーク
1968
水彩・紙

MJ マーク
1968
水彩・紙

MJ マーク
1968
水彩・紙

MJ マーク
1968
水彩・紙

MJ マーク
1968
水彩・紙

MJブリッジ内部
1968
鉛筆・紙

MJ号
不詳
ペン・紙

MJ BAGGY
1968
ペン、水彩・紙

HIOCTER
1968
ペン、水彩・紙
MINI-BAGGY
1968

ペン、水彩・紙

SHIPLY-H
1968
ペン、水彩・紙

SHIPLY-M
1968
ペン、水彩・紙

偵察機 エキゾスカウト
1968
ペン・紙

MJ 隊員服
1968
鉛筆、水彩・紙

フライングスカイラル
1968
鉛筆、水彩・紙

スワロー
1968
鉛筆、水彩・紙

ビブリダー
不詳
鉛筆、水彩・紙

エキゾスカウト 前面/後面図
1968
鉛筆・紙

エキゾスカウト 平面/立面図
1968
鉛筆・紙

ホエール 平面/立面図
1968
鉛筆・紙

マイティジャック 図面
1968
鉛筆・紙

レイブ 図面
1968
鉛筆・紙

ヒューマン 1972年

ヒューマン1号
1972年頃
アクリル・紙

ヒューマン2号
1972年頃
アクリル・紙

ヒューマン1号、2号
1972年頃
アクリル・紙
ヒューマン
1972年頃
鉛筆、水彩・紙

ヒューマンマスク
1972
ステンレス、塗料

ヒューマンバックル
1972
金属 (着色)

キングフラッシュャー
1972
クレパス、水彩・紙

ジャイロック (全身)
1972
鉛筆・紙

ジャイロック (頭部)
1972
鉛筆、水彩・紙

ブランカー
1972
鉛筆、ペン、水彩・紙

ブラックインパルス (正面)
1972
鉛筆・紙

ブラックインパルス (側面)
1972
鉛筆・紙

ヒューマン (頭部)
1972
鉛筆、水彩・紙

ヒューマン (頭部)
1972
鉛筆、水彩・紙

キングフラッシュャー
1972
水彩・紙

セグロ1号 1972 ペン、水彩・紙	エルドン中尉 1976 アクリル・鏡	エヌバル少佐 1976 鉛筆、水彩・紙	マヤラー（赤） 1970年代 水彩・紙
レッドロック 1972 鉛筆、水彩・紙	キーガ大佐（キューガ大佐） 1976 ペン、水彩・紙	ケイタボ少佐 1976 鉛筆、水彩・紙	題不詳（宇輪型ヒーロー） 1970年代 水彩・紙
キングタコラス 1972 ペン・紙	エヌバル少佐 1976 水彩・紙	ジェーデ少佐 1976 水彩・紙	反射ヘルメットをかぶったUジン 1970年代 ペン、水彩・紙
アントガラス 1972 鉛筆、ペン、水彩・紙	エイッチドバ中佐 1976 水彩・紙	アイビルン大尉 1976 水彩・紙	Uジン（全身） 1970年代 鉛筆、水彩、コラージュ・紙
（未使用デザイン） 1972 鉛筆・紙	ジードウ中佐（ジイドウ中佐） 1976 ペン、水彩・紙	エイッチドバ中佐 1976 水彩・紙	ヘルメットをかぶった星ミコ 1970年代 水彩・紙
（未使用デザイン） 1972 鉛筆・紙	シイバス少将 1976 鉛筆、ペン、水彩・紙	ジードウ中佐（ジイドウ中佐） 1976 鉛筆、水彩・紙	Uジン宇宙船 1970年代 アクリル・紙
フラッシュャー・ブルーアイ 1972 水彩・紙	グザレ司令 1976 水彩、銀紙・紙	モフゾロ中佐（エフゾロ中佐） 1976 水彩・紙	
ゲジル 1970年代 水彩・紙	グザレ司令 1976 アクリル・紙	イーグラン大佐 1976 鉛筆、水彩・紙	特撮美術 この子を残して 原爆投下1 1983 鉛筆、水彩・紙
ブルゲリラ 1970年代 水彩・紙	グザレ司令（側頭部） 1976 アクリル・紙	ディーゲル大佐 1976 鉛筆、水彩・紙	この子を残して 原爆投下2 1983 鉛筆、水彩・紙
メガヘルツ 1970年代 水彩・紙	ダヴリュス中尉 1976 水彩・紙	エノグラン大佐 1976 水彩・紙	この子を残して 原爆投下3 1983 鉛筆、水彩・紙
タンゲット 1970年代 水彩・紙	ユープロ少佐 1976 水彩・紙	ビーゴメス少将（ビイゴメス少将） 1976 水彩・紙	この子を残して 浦上天主堂 1983 鉛筆、水彩・紙
ギリンガ 1970年代 水彩・紙	ターバス中尉／ターフン中尉（ティーバス大尉／ティーフン中尉） 1976 水彩・紙	エーガリン中尉 1976 水彩・紙	この子を残して 浦上天主堂とキノコ雲 1983 鉛筆、水彩・紙
ストック 1970年代 水彩・紙	ターバス中尉／ターフン中尉（ティーバス大尉／ティーフン中尉） 1976 水彩・紙	エーガリン中尉（頭部） 1976 水彩・紙	この子を残して 廃墟の長崎 1983 鉛筆、水彩・紙
インバルス 1970年代 水彩・紙	オーダコフ大尉 1976-77 水彩・紙	六つの目を持つ女王とバルタンの末裔 1982 水彩・紙	この子を残して GREAT ARTIST1 1983 鉛筆、水彩・紙
バンキッド 1976年 宇宙人ダヴリュス（アルバレン中尉） 1976 ペン、水彩・コピーされた紙	ピーグル伍長 1976-77 鉛筆、水彩・紙	マヤラー／Uジン 実現しなかった企画案1 1970年代 マヤラー 1970年代 水彩・紙	この子を残して GREAT ARTIST2 1983 鉛筆、水彩・紙
ティーバス大尉 1976 鉛筆、アクリル・紙	エルドン中尉 1976 鉛筆、水彩・紙		この子を残して GREAT ARTIST3 1983 鉛筆、水彩・紙
			この子を残して 特撮プラン（5?） 1983 鉛筆、水彩・紙

この子を残して 特撮プラン6 1983 鉛筆、水彩・紙	麻雀放浪記 廃墟の上野セット (制作：堀井敏之ほか) 1984 (2014) ミクストメディア	宇宙人の影 (シャドー星人) 1987-88 アクリル・紙	ゼットン 1980-83 アクリル・紙
この子を残して 特撮プラン7 1983 鉛筆、水彩・紙		四次元 1987-88 水彩・紙	ベガッサ星人 1988 アクリル・紙
この子を残して 特撮プラン8 1983 鉛筆、水彩・紙	無人島マリノア (巨大貝と浜辺) 1978-79 油彩・紙	四次元の試作・星への道 1987-88 水彩、写真パネル、紙、木	ウルトラマン 1991 アクリル・紙 個人蔵
この子を残して 特撮プラン9 1983 鉛筆、水彩・紙	無人島マリノア 1978-79 油彩・キャンバス	四次元の試作・星からの道 1987-89 水彩、石膏、木	題不詳 1980年代 紙粘土、アルミ板、プラスチック他
この子を残して 特撮プラン10 1983 鉛筆、水彩・紙	オホーツク 1970年代前半 油彩・キャンバス	ビット星人 1983年頃 アクリル・紙	題不詳 1980年代 紙粘土、アルミ板、木
この子を残して 特撮プラン11 1983 鉛筆、水彩・紙	テトラポット 1980-90年代 油彩・キャンバス	ジェロニモン怪獣大進撃 1993 アクリル・紙 ウー	題不詳 1980年代 紙粘土、針金、アルミ板
この子を残して 特撮プラン12 1983 鉛筆、水彩・紙	慟哭 1980-90年代 油彩・キャンバス	1980年頃 アクリル・紙	四次元の宇宙人 立体試作 1988 石膏
この子を残して 特撮プラン13 1983 鉛筆、水彩・紙	ヌードとケムール 1970年代以降 油彩・キャンバス	カネゴン 2000 アクリル・紙	ウルトラマンの墓 1991 石膏、木、塗料
この子を残して 特撮プラン15 1983 鉛筆、水彩・紙	ヌードとダダ 1970年代以降 油彩・キャンバス	カネゴン 1993 アクリル・紙	ガラモン 立像 1999 石塑粘土
この子を残して 特撮プラン16 1983 鉛筆、水彩・紙	ひまわり 1991 油彩・キャンバス	カネゴン 2000 アクリル・紙	ガラダマ 1999 FRP
この子を残して 特撮プラン17 1983 鉛筆、水彩・紙	木澤雅博氏蔵 銅の森 1983年以前 アクリル・紙	ビッグモン 1991 水彩・紙、木、油性塗料 個人蔵	ケムール人 1999 石塑粘土
この子を残して 特撮プラン18 1983 鉛筆、水彩・紙	鉄の翼 I 1965 ? アクリル・紙	ガラダマ落下 1983年以前 水彩・紙	メバ 跳躍像 1991 石塑粘土、ペーパーボード
この子を残して 特撮プラン19 1983 鉛筆、水彩・紙	宇宙人の気配C (バルタン星人) 1987-88 カラーコピー、透明ブラ板、鏡、木	ケムール人 1993 アクリル・紙	翼をもった人間の化石 1971 FRP
この子を残して 特撮プラン20 1983 鉛筆、水彩・紙	宇宙人の気配F 1980年代 水彩、石膏、木	ゴーガ 1993 アクリル・紙	波間のM J 1983年頃 油彩・キャンバス
麻雀放浪記 廃墟の上野セットデザイン 1984 鉛筆、水彩・紙、写真	宇宙人の気配G 1980年代 ペン、水彩、紙、透明ブラ板、銀紙、木	ベギラ 1993 アクリル・紙	ビブリダーの帰投 1980年代 油彩・キャンバス
麻雀放浪記 廃墟の上野セット図面 1984 ペン、鉛筆・紙	宇宙人の影 (チブル星人) 1980年代 水彩、発泡スチロール、ステンレス、木	ピラ星人 1980年頃 色鉛筆、アクリル・紙	ホエール 1980年代 油彩・キャンバス

むささび行く 1980年代 油彩・キャンバス	ウルトラホーク2号 1980年代 油彩・キャンバス	ガルバ 1984 鉛筆・紙	サニザ 1984 鉛筆・紙
夕陽のスワロー 1980年代 油彩・キャンバス	ウルトラホーク3号 1983年頃 油彩・キャンバス	ガルバ頭部 1984 鉛筆・紙	シーザ 1984 鉛筆・紙
レイブン 1980年代 油彩・キャンバス	雲一面 1990年頃 アクリル・紙	ギーガ 1984 鉛筆・紙	シード 1984 鉛筆・紙
題不詳（シブリーとフライングスカイラル） 1980年代 アクリル・紙	ウルトラマン・ウルトラセブン・ヒューマン 1987 レジン	ギース 1984 鉛筆・紙	シノビマン 1984 鉛筆、水彩・紙
雷撃 1980年代 アクリル・紙	ウルトラマン・ウルトラセブン・ヒューマン像 1980年代 水彩・紙、板	ギモブド 1984 鉛筆・紙	シャドー 1984 鉛筆、水彩・紙
雷鳴下の出動 1980年代 アクリル・紙	真実と正義と美の化身 1983 油彩・キャンバス	ギル 1984 鉛筆・紙	ジャビ 1984 鉛筆・紙
エキゾスカウト発進 1980年代 アクリル・紙	未発表怪獣 1984 - 87 年頃	キングホーン 1984 鉛筆・紙	ジャンゴ 1984 鉛筆・紙
撃墜 1980年代 アクリル・紙	宇輪 1988 ミクストメディア	グラド 1984 鉛筆・紙	ステラウルス 1984 鉛筆・紙
浮上するホエール 1980年代 アクリル・紙	宇輪 1983 ペン、水彩・紙 増山努氏蔵	グラン 1984 鉛筆・紙	スネークドック 1984 鉛筆・紙
捕捉 1980年代 アクリル・紙	宇輪 1983 ペン・紙	クロウ 1984 鉛筆・紙	スネール 1984 鉛筆・紙
二方面攻撃 1980年代 アクリル・紙	クラッシュホーン 1980 アクリル・ボード	グロモア 1984 鉛筆・紙	ゾロス 1984 鉛筆・紙
浮上するMJ 1980年代 アクリル・紙	アストロ 1984 鉛筆・紙	ゴーザー 1984 鉛筆・紙	タイガーホーン 1984 鉛筆・紙
出撃 1980年代 アクリル・紙	ウルフ 1984 鉛筆・紙	ゴードン 1984 鉛筆・紙	タイガドロン 1984 鉛筆・紙
海底会戦 1980年代 アクリル・紙	ガーラン 1984 鉛筆・紙	ゴーラ 1984 鉛筆・紙	ダブルホーン 1984 鉛筆・紙
ダダ 1980年代 鉛筆、ペン、水彩・紙、板	ガルーゴー 1984 鉛筆・紙	ゴール 1984 鉛筆・紙	ダンカー 1984 鉛筆・紙
ウルトラホーク1号 1980年代 アクリル・紙	ガルダン 1984 鉛筆・紙	ザザン 1984 鉛筆・紙	ダンバ 1984 鉛筆・紙
		ザダーン 1984 鉛筆・紙	

チャンドラー 1984 鉛筆・紙	ファルコン 1984 鉛筆・紙	題不詳 1980年代 木炭、水彩・紙	宇竜剣 1987年頃 水彩・紙
ドーゴン 1984 鉛筆・紙	ブール 1984 鉛筆・紙	題不詳 1980年代 鉛筆、水彩・紙	飛竜剣 1997年頃 水彩・紙
ヌウー 1984 鉛筆・紙	フェニックス 1984 鉛筆・紙	題不詳 1980年代 木炭、水彩・紙	宇輪 1988 ミクストメディア
ネビュラ 1984 鉛筆・紙	フロール 1984 鉛筆・紙	題不詳 1980年代 鉛筆、水彩・紙	宇輪 1983 ペン、水彩・紙 増山努氏蔵
バーム 1984 鉛筆・紙	ベドム 1984 鉛筆・紙	天空獣 1987年頃 色鉛筆、ペン、水彩・紙	宇輪 1983 ペン・紙
パウ 1984 鉛筆・紙	ポウドン 1984 鉛筆・紙	天空獣 1987年頃 色鉛筆、ペン、水彩・紙	クラッシュホーン 1980 アクリル・紙
バグダー 1984 鉛筆・紙	ホークムーン 1984 鉛筆・紙	宇輪 不詳 木炭、水彩・紙	MU／ネクスト 実現しなかった 企画案2 1989年+1990年代
ハゼガー 1984 鉛筆・紙	メギド 1984 鉛筆・紙	飛竜剣 1999 水彩・紙	MU（初期稿）（頭部） 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙
バドーラ 1984 鉛筆・紙	メジ 1984 鉛筆・紙	角飛獣 1987年頃 水彩・紙	MU（初期稿）（頭部正面） 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙
バラサウス 1984 鉛筆・紙	メフィス 1984 鉛筆・紙	金天龍 1987年頃 水彩・紙	MU（中間稿） 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙
バラン 1984 鉛筆・紙	ヤンヤ 1984 鉛筆・紙	甲核獣 1987年頃 水彩・紙	MU（決定稿） 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙
バルダン 1984 鉛筆・紙	ラムグォ 1984 鉛筆・紙	天華獣 1987年頃 水彩・紙	MU（飛行形態） 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙
バルチク 1984 鉛筆・紙	レトラ 1984 鉛筆・紙	天空弾 1987年頃 水彩・紙	魔塵ゴグ・モビルビースト 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙
ビーラ 1984 コラージュ、鉛筆・紙	題不詳 1984 鉛筆、水彩・紙	天空飛襲鬼 1987年頃 水彩・紙	宇宙人A（全身） 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙
ビグラ 1984 鉛筆・紙	題不詳 1984 鉛筆・紙	宇甲竜 1987年頃 水彩・紙	宇宙人A（頭部） 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙
ビッグホーン 1984 鉛筆・紙	題不詳 1984 鉛筆・紙	飛龍輪 1987年頃 水彩・紙	宇宙人B 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙

宇宙人C 1989 鉛筆、水彩、ペン・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ コスモスの怪獣 ベガサス 1985 鉛筆・紙	エルフ 1986 水彩、鉛筆・紙	ティーターン 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクスト (A案) 1992-95 水彩・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ グリフィン 1985 鉛筆・紙	ホビット 1986 水彩、鉛筆・紙	サイクロプス 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクスト (B案) 1992-95 水彩・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ 半人半獣ケンタウロス 1985 鉛筆・紙	ノーム 1986 水彩、鉛筆・紙	ヘッドレス 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクスト (C案) 1992-95 水彩・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ 邪悪怪獣竜 (Dragon) 1985 鉛筆・紙	コボルド 1986 水彩、鉛筆・紙	エッティン 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクスト (D案) 1992-95 水彩・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ デュラーの竜 1985 鉛筆・紙	オーガ 1986 水彩、鉛筆・紙	スキュイド 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクスト (E案) 1992-95 水彩・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ 迷える魂 1985 鉛筆・紙	オーク 1986 水彩、鉛筆・紙	クラケン 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクスト (F案) 1992-95 水彩・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ 金翅鳥・ガルーダ Garuda 1985 鉛筆・紙	トリル 1986 水彩、鉛筆・紙	スライム 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクスト (頭部) 1992-95 水彩、金紙・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ ガネーシャ 1985 鉛筆、水彩・紙	リザード・マン 1986 水彩、鉛筆・紙	クリーピング・クラッド 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクストマスク 1992-95 FRP	ナリタ・モンスター・ヒストリカ シムルグ / ブラーク 1985 鉛筆、水彩・紙	ゴブリン 1986 水彩、鉛筆・紙	ガス・クラウド 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクストマスク 1992-95 プラスチック、塗料	ナリタ・モンスター・ヒストリカ 八頭の大蛇 (YAMATA NO OROCHI) 1985 鉛筆、水彩・紙	ホブゴブリン 1986 水彩、鉛筆・紙	モールド 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクスト (頭部) 1992-95 石膏、着色	ナリタ・モンスター・ヒストリカ キメラ 1986 水彩・紙	ファイヤー・ジャイアント 1986 水彩、鉛筆・紙	ジェリー 1986 水彩、鉛筆・紙
ネクスト (頭部) 1992-95 石膏	ナリタ・モンスター・ヒストリカ ユニコーン 1986 水彩・紙	フロスト・ジャイアント 1986 水彩、鉛筆・紙	ドラゴン・ゾンビ 1986 水彩、鉛筆・紙
モンスター大図鑑 1985-87年	ナリタ・モンスター・ヒストリカ ミアの怪獣 1985 鉛筆・紙	ストーン・ジャイアント 1986 水彩、鉛筆・紙	ライス (別名: ナイト・ストーカー) 1986 水彩、鉛筆・紙
ナリタ・モンスター・ヒストリカ エジプトの怪獣 1985 鉛筆・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ ドラゴン 1986 水彩・紙	ボイゾン・ジャイアント 1986 水彩、鉛筆・紙	グレーブ・ミスト 1986 水彩、鉛筆・紙
ナリタ・モンスター・ヒストリカ 怪獣は力の典型 1985 鉛筆、水彩・紙	ナリタ・モンスター・ヒストリカ ドワーフ 1986 水彩、鉛筆・紙	クラウド・ジャイアント 1986 水彩、鉛筆・紙	メイジ・リッチ 1986 水彩、鉛筆・紙
		ストーム・ジャイアント 1986 水彩、鉛筆・紙	ファントム 1986 水彩、鉛筆・紙

グール (別名: ロッティング・コープス) 1986 水彩、鉛筆・紙	グリフォン 1986 水彩、鉛筆・紙	ギャザー 1986 水彩、鉛筆・紙	ドラゴン 1986 水彩、鉛筆・紙
スピリット 1986 水彩、鉛筆・紙	ヒボグリフ 1986 水彩、鉛筆・紙	ガーゴイル 1986 水彩、鉛筆・紙	ドラゴン・パビー 1986 水彩、鉛筆・紙
シャドウ 1986 水彩、鉛筆・紙	マンティコア 1986 水彩、鉛筆・紙	グレムリン 1986 水彩、鉛筆・紙	ブルー・ドラゴン 1986 水彩、鉛筆・紙
ヴァンパイヤー 1986 水彩、鉛筆・紙	バルロン 1986 水彩、鉛筆・紙	ハービー 1986 水彩、鉛筆・紙	カッパー・ドラゴン 1986 水彩、鉛筆・紙
スペクター 1986 水彩、鉛筆・紙	デーモン・ロード 1986 水彩、鉛筆・紙	リビング・アイドル 1986 水彩、鉛筆・紙	グレイ・ドラゴン 1986 水彩、鉛筆・紙
ワイト (別名: ライフ・スティール) 1986 水彩、鉛筆・紙	デビル 1986 水彩、鉛筆・紙	ミーミック 1986 水彩、鉛筆・紙	ワイバーン 1986 水彩、鉛筆・紙
ゾンビ 1986 水彩、鉛筆・紙	レッサー・デーモン 1986 水彩、鉛筆・紙	マーメイド 1986 水彩、鉛筆・紙	ホワイト・ドラゴン 1986 水彩、鉛筆・紙
マミー 1986 水彩、鉛筆・紙	メイルフィック 1986 水彩、鉛筆・紙	メデューサ (別名: メデューサ・リザード) 1986 水彩、鉛筆・紙	サーベント 1986 水彩、鉛筆・紙
スケルトン 1986 水彩、鉛筆・紙	サラマンダー 1986 水彩、鉛筆・紙	ニクシー 1986 水彩、鉛筆・紙	ヒドラ 1986 水彩、鉛筆・紙
ワー・ベア 1986 水彩、鉛筆・紙	デュラハン 1986 水彩、鉛筆・紙	ベガサス 1986 水彩、鉛筆・紙	レッド・ドラゴン 1986 水彩、鉛筆・紙
ワー・ラット 1986 水彩、鉛筆・紙	ストーン・エレメンタル 1986 水彩、鉛筆・紙	リーパー 1986 水彩、鉛筆・紙	ブラック・ドラゴン 1986 水彩、鉛筆・紙
ワー・タイガー 1986 水彩、鉛筆・紙	バンリスク (別名: ゲイズ・ハウンド) 1986 水彩、鉛筆・紙	ヒボカンバス (別名: シー・ホース) 1986 水彩、鉛筆・紙	グリーン・ドラゴン 1986 水彩、鉛筆・紙
ワー・ウルフ 1986 水彩、鉛筆・紙	セントール 1986 水彩、鉛筆・紙	タロス 1986 水彩、鉛筆・紙	ラバー・リザード 1986 水彩、鉛筆・紙
ワー・ジャッカル 1986 水彩、鉛筆・紙	クリーピング・コイン 1986 水彩、鉛筆・紙	ユニコーン 1986 水彩、鉛筆・紙	ジャバー・ウオーク 1986 水彩、鉛筆・紙
キメラ 1986 水彩、鉛筆・紙	ダブルゲンガー 1986 水彩、鉛筆・紙	ウィル・オー・ウィスプ 1986 水彩、鉛筆・紙	日本・東洋のモンスター 1980-90年代
ミノタウルス 1986 水彩、鉛筆・紙	ゴーゴン 1986 水彩、鉛筆・紙	ゾルン 1986 水彩、鉛筆・紙	
			黄龍-金龍 1987 アクリル・紙

青龍－東龍 1987 アクリル・紙	相模大山伯耆坊 1987年頃 アクリル・紙	馬頭鬼 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼モニュメント 酒吞童子 1990 FRP
赤龍－南龍 1987 アクリル・紙	首なし武士 1987 アクリル・紙	餓鬼 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼モニュメント 茨木童子 1990 FRP
白龍－西龍 1987 アクリル・紙	四神獣 1988 アクリル・紙	桃太郎の鬼 1980年代 アクリル・油彩・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼モニュメント 星熊童子 1990 FRP
黒龍－北龍 1987 アクリル・紙	玄武 1990 アクリル・紙	鬼 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼幻影 阿傍（地獄の鬼より） 1994 FRP
龍王・降り龍 1987年頃 アクリル・キャンバス	白虎 1990 アクリル・紙	酒吞童子 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼幻影 阿修羅 1994 FRP
龍王・昇り龍 1987年頃 アクリル・紙	鳳凰 1990 アクリル・紙	茨木童子 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼幻影 般若 1994 FRP
応龍 1987年頃 水彩・紙	羅刹 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	星熊童子 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼幻影 大江山 1994 FRP
走龍 1987年頃 アクリル・キャンバス	般若 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	善鬼 1987 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼幻影 夜叉・羅刹 1994 FRP
虹、？ 1987年頃 水彩・紙	阿木の鬼 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	阿修羅 1987 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼幻影 風神・雷神 1994 FRP
蛟龍 1987年頃 水彩・紙	阿傍 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	羅刹女 1987 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	鬼幻影 蝦夷 1994 FRP
役の小角 1987年頃 アクリル・紙	八牛頭阿傍 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	夜叉 1987 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	
鞍馬の魔王大僧正 1987年頃 アクリル・紙	鍾馗 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	十道連勝高東日流荒吐鬼 1987 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	
鞍馬の僧正坊 1987年頃 アクリル・紙	鬼婆 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	大墓阿弓流為東日流荒吐鬼 1987 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館	
飯綱の三郎 1987年頃 アクリル・紙	牛頭鬼 1980年代 アクリル・紙 日本の鬼の交流博物館		
てんぐー山伏くずれ 1987年頃 アクリル・紙			
天狗倒し 1987年頃 アクリル・紙			

掲載記事

朝日新聞（全国）

2015年2月11日
サブカル展 地方で光る

2015年2月16日
視線 成田亨作品集

東奥日報

2015年2月21日
未公開「怪獣」現る 県立美術館 4月から
成田亨展

2015年2月22日
成田亨 美術／特撮／怪獣 時代に苦悩した
天才芸術家の軌跡とその閃光（社告）

2015年4月4日
成田亨 最大の回顧展

2015年4月11日
ウルトラマンの原点

2015年4月11日
成田亨 創作の軌跡

2015年4月13日
「作ることを楽しんだ」

2015年4月28日
入場5千人突破
戦争の悲惨さ 二度と…

2015年5月6日
成田亨展入場1万人

2015年5月8日
孤高の芸術家 成田亨

2015年5月20日
天地人

2015年5月26日
成田亨1万5,000人突破

河北新報

2015年3月1日
青森県立美術館 来月から回顧展 ウルトラ
怪獣創作や特撮美術監督 成田亨ワールド再
現

陸奥新報

2015年3月4日
来月11日から県美で「成田亨回顧展」『多
才ぶり知って』

2015年5月15日
前例のない「形」を追求 「ウルトラ」怪獣
生みの親

2015年5月19日
現代文化の「先駆者」 「芸術」と「特撮」の
はざまで葛藤

2015年5月29日
記憶に焼き付く造形

朝日新聞青森版

2015年3月6日
昭和の特撮、よみがえる 成田亨の回顧展
来月、県立美術館

読売新聞

2015年3月26日
青森・成田芸術の神髄に迫る展覧会

2015年4月3日
美少女の美術史 美連協奨励賞 成田亨展カ
タログは優秀賞

北鹿新聞

2015年4月2日
情報ステーション「成田亨 美術／特撮／怪
獣」展

毎日新聞

2015年4月11日
魅力はウルトラマンだけじゃない

化け物展

開催概要

会期：2015年8月1日（土）－9月13日（日）

開催日数：43日間

主催：化け物展実行委員会（青森放送、青森県観光連盟、青森県立美術館）

協賛：A-FACTORY、アサヒビール

協力：国立民族学博物館、青い森鉄道

後援：NHK青森放送局、青森ケーブルテレビ、東奥日報社、陸奥新報社、デーリー東北新聞社、河北新報社青森総局、毎日新聞社青森支局、読売新聞青森支局、朝日新聞青森総局、産経新聞社青森支局、青森県教育委員会

県美土曜ゼミ 化け物展

日時 9月12日（土）13:30－15:00

場所 ワークショップA

展覧会カタログ

「化け物 想像力が生み出す異世界に住人」

監修：青森県立美術館

アートディレクション・カバーデザイン：大原大次郎

発行：株式会社青幻舎

発行日：2015年9月25日

観覧料：

一般 1,100（800）円、高大生 540（440）円

※こども美術館デイ開催期間中 [8月1日－9月13日] は、小・中学生観覧無料

※（ ）内は 20名以上の団体料金

※心身に障がいのある方と付添者1名は無料

※小・中・特別支援学校の引率者が、学校教育活動として観覧する場合は、常設展に準じて無料

会場デザイン：村山徹、加藤亜矢子（ムトカ建築事務所）

アートディレクション：大原大次郎

入場者数

32,984人

関連企画

ワークショップ「おばけをつくろう おばけになろう」

日時 8月9日（日）13:30－15:00

場所 ワークショップA

講師 飛内源一郎（クリエイター）

こどもギャラリーツアー

日時 8月16日（日）、23日（日）14:00－16:00

場所 企画展示室

キッズルームおはなし会 2015 化け物展 Ver.

日時 8月22日（土）10:30－11:30

場所 ワークショップA



ポスター



展示風景

本展覧会は、人間によって創造され、信仰され、且つ畏れられてきた「化け物」という存在を多彩な造形表現をとおして紹介するものであり、『化ける～人間が捉えた異世界の住人たちのイメージ』『浮き世の化け物』『化け物が引き出す「想像力」』『化け物たちの棲むところ』『現代美術における「化け物」、あるいは「青森県立美術館お化け屋敷」の5つの章から構成された。

『化ける～人間が捉えた異世界の住人たちのイメージ』では、ヨーロッパ諸国で祭祀・儀礼等に用いられた装束をまとった人々を撮影したフランス写真家シャルル・フレジェによる写真作品や、国立民族博物館所蔵の世界各地で用いられた仮面等を展示し、人々の暮らしの中で化け物がどのように表現されてきたかを紹介。『浮き世の化け物』では、近世から近代初期に至る時代、主に浮世絵に描かれた日本の代表的な「化け物」の姿を紹介した。『化け物たちの棲むところ』では、化け物たちが存在する「場」を彷彿とさせる空間を、川田喜久治の写真作品によって紹介。『物語に描かれた化け物たち』では絵本の世界に登場する化け物を紹介し、世代を超えて「化け物」のイメー

ジを共有するために重要な役割を果たしてきた物語と化け物の関係を考察した。その他、5人の現代美術家が考える現代の「化け物」を展示室内外に展開させた。

展覧会の会場構成・デザインは、若手建築家、ムトカ建築事務所が担当。“青森県美を「化かして」みる”をコンセプトに、美術館の外壁に用いられているレンガの3倍の大きさのダンボール箱1800個を、実際のレンガのように様々な積み方で組み上げて間仕切り壁や展示台、結界等を効果的に設え、鑑賞者を化け物たちが待ち潜むかのようなユニークな空間を作り上げた。

出品作品

化ける ～人間が捉えた異世界の住人たちのイメージ

日本（秋田）の仮面〈なまはげ〉
不詳（1975年収集）
60.0 × 25.0 × 11.0cm
国立民族学博物館蔵

日本（秋田）の仮面〈なまはげ〉
不詳（1975年収集）
60.0 × 22.0 × 7.2cm
国立民族学博物館蔵

日本（京都）の仮面〈土蜘蛛〉
不詳（1975年収集）
18.0 × 13.0 × 7.7cm
国立民族学博物館蔵

日本（沖縄、八重山列島）の仮面〈ダートゥーダー〉
不詳（1978年収集）
47.0 × 28.0 × 22.0cm
国立民族学博物館蔵

北朝鮮の仮面〈ライオン〉
不詳（1978年収集）
54.0 × 50.0 × 30.0cm
国立民族学博物館蔵

インドネシア、バリ島の仮面
不詳（1978年収集）
170.0 × 44.0 × 39.0cm
国立民族学博物館蔵

インドネシア、バリ島の仮面
不詳（1978年収集）
20.0 × 17.0 × 13.0cm
国立民族学博物館蔵

バブアニューギニアの仮面
不詳（1988年収集）
60.0 × 20.0 × 5.5cm
国立民族学博物館蔵

バブアニューギニアの仮面
不詳（1975年収集）
49.0 × 28.0 × 25.0cm
国立民族学博物館蔵

スリランカの仮面〈ナーガ魔神〉
不詳（1980年収集）
53.0 × 65.0 × 26.0cm
国立民族学博物館蔵

スリランカの仮面〈悪霊ばらい〉
不詳（1981年収集）
20.0 × 16.0 × 7.4cm
国立民族学博物館蔵

インド、ジャンム・カシミール州の仮面
不詳（1982年収集）
55.0 × 33.0 × 15.5cm
国立民族学博物館蔵

マレーシア、キャリー島の仮面
不詳（1987年収集）
28.0 × 20.0 × 11.0cm
国立民族学博物館蔵

西アフリカ（シエラレオネ）の仮面
不詳（1976年収集）
30.0 × 21.0 × 18.0cm
国立民族学博物館蔵

西アフリカ（ギニア共和国）の仮面
不詳（1978年収集）
80.0 × 34.0 × 28.0cm
国立民族学博物館蔵

西アフリカ（コートジボアール）の仮面
不詳（1978年収集）
43.0 × 18.0 × 11.0cm
国立民族学博物館蔵

西アフリカ（コートジボアール）の仮面
不詳（1978年収集）
40.0 × 19.0 × 9.3cm
国立民族学博物館蔵

中部アフリカ（コンゴ）の仮面
不詳（1978年収集）
24.0 × 22.0 × 9.1cm
国立民族学博物館蔵

南アメリカ（ボリビア）の仮面
不詳（1983年収集）
20.0 × 23.0 × 18.0cm
国立民族学博物館蔵

中部アフリカ（ザイール）の仮面
不詳（1983年収集）
73.0 × 33.0 × 27.0cm
国立民族学博物館蔵

西アフリカ（ナイジェリア）の仮面〈女性〉
不詳（1983年収集）
33.0 × 22.0 × 23.0cm
国立民族学博物館蔵

ザイールの仮面〈キフェベ・ムカシ〉
不詳（1977年収集）
88.0 × 22.0 × 20.0cm
国立民族学博物館蔵

ルーマニアの仮面
不詳（1982年収集）
43.0 × 23.0 × 29.0cm
国立民族学博物館蔵

ルーマニアの仮面
不詳（1998年収集）
50.0 × 42.0 × 17.0cm
国立民族学博物館蔵

スイスの仮面〈荒々しいクラウス〉
不詳（1981年収集）
37.0 × 35.0 × 11.0cm
国立民族学博物館蔵

カナダ先住民〈クワクワカワクウ〉の仮面
不詳（2000年収集）
125.0 × 118.0 × 21.0cm
国立民族学博物館蔵

カナダの仮面〈野牛〉
不詳（1978年収集）
51.0 × 45.0 × 18.0cm
国立民族学博物館蔵

カナダの仮面〈つむじ風〉
不詳（1978年収集）
28.0 × 16.0 × 12.0cm
国立民族学博物館蔵

カナダ先住民〈クワクワカワクウ〉の仮面
不詳（1975年収集）
62.0 × 67.0 × 63.0cm
国立民族学博物館蔵

メキシコの仮面〈虎〉
不詳（1983年収集）
42.0 × 33.0 × 17.0cm
国立民族学博物館蔵

メキシコの仮面〈カエル〉
不詳（1979年収集）
73.0 × 79.0 × 19.0cm
国立民族学博物館蔵

メキシコの仮面〈イナゴ〉
不詳（1979年収集）
42.0 × 49.0 × 76.0cm
国立民族学博物館蔵

メキシコの仮面〈クモ〉
不詳（1979年収集）
22.0 × 66.0 × 64.0cm
国立民族学博物館蔵

メキシコの仮面〈悪魔〉
不詳（1979年収集）
48.0 × 26.0 × 14.0cm
国立民族学博物館蔵

メキシコの仮面〈兎〉
不詳（1979年収集）
38.0 × 15.0 × 9.7cm
国立民族学博物館蔵

メキシコの仮面〈悪魔〉
不詳（1983年収集）
57.0 × 42.0 × 17.0cm
国立民族学博物館蔵

メキシコの仮面〈悪魔〉
不詳（1985年収集）
38.0 × 34.0 × 23.0cm
国立民族学博物館蔵

南アメリカ（ベネズエラ）の仮面
不詳（1984年収集）
27.0 × 43.0 × 49.0cm
国立民族学博物館蔵

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ヴィルダー 〈オーストリア / テルプス〉
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, コロンガノス 〈イタリア / サルデーニャ島 / アウスティス〉
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ウルツとコロンガノス 〈イタリア / サルデーニャ島 / アウスティス〉
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ジボンチャリ 〈クロアチア / ヴィスコボ〉
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, クレンティ 〈スロベニア / ブトウイ〉
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, メヒカリ 〈マケドニア / プレリプ〉
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ウルスル（熊） 〈ルーマニア / パランカ〉
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ウルス (フランス / アルル
=シュール=テック)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, カレト (ポルトガル / ラザ
ヒン)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ルツィフェア・ウント・ク
ライネ・トイフェル (ルシファーとその悪魔)
(オーストリア / タウブリッツ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ボエス (イタリア / サルデー
ニャ島 / オッターナ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, カブラ (山羊) (ルーマニ
ア / マリニ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ヌッテブッキ (フィンラン
ド / サスタマラ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, マチヌラ (ポーランド / チ
ェツ)
2010-2011
インクジェットプリント
101.0 × 77.0cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, チャウシ (ブルガリア / ラ
ズログ)
2010-2011
インクジェットプリント
101.0 × 77.0cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, バブゲリ (ブルガリア / バ
ンスコ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, スマルト (死) (チェコ共
和国 / トウシェビチ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, スコロマティ (スロベニア
/ ボドグラート)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ハーベルガイズ (山羊) (ス
ロベニア / ボドグラート)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ベルヒト (オーストリア /
ヴェルフェン)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ジャディ・スミグスン (ポー
ランド / ドブラ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, シュトローベア (ワラの熊)
(ドイツ / エヴァッティンゲン)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, シュトローベア (ワラの熊)
(ドイツ / エヴァッティンゲン)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ブルシュ (スイス / エヴォ
レーヌ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, カブラ (山羊) (ルーマニ
ア / マリニ / フモール修道院)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ブショー (ハンガリー / モ
ハーチ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, チェルプス (イタリア / サ
ルデーニャ島 / シンナイ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, シルバチカリ (ブルガリア
/ ガプロフ・ドル)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, トラボ (スペイン / メセ
イエスのサラマカダス)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ウエソ (スペイン / メセ
イエスのサラマカダス)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, ウルス (フランス / サン=
ローラン=ド=セルダン)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

シャルル・フレジェ
WILDER MANN, シュナップフィーセ (イタ
リア / テルメーノ)
2010-2011
インクジェットプリント
34.5 × 26.5cm
courtesy MEM

浮き世の化け物

河鍋曉斎
動物図巻二十回
不詳
紙本着色、卷子
30.5 × 1229.0cm
河鍋曉斎記念美術館蔵

河鍋曉斎
奪衣婆と若衆 下絵
不詳
紙本墨画
110.0 × 41.0cm
河鍋曉斎記念美術館蔵

河鍋曉斎
閻魔大王浄玻璃の鏡 下絵
不詳
紙本墨画
41.2 × 57.1cm
河鍋曉斎記念美術館蔵

河鍋曉斎
地獄鬼の切りの絵
不詳
紙本墨画
51.0 × 37.7cm
河鍋曉斎記念美術館蔵

河鍋曉斎
変化図 下絵
不詳
紙本墨画
51.2 × 37.6cm
河鍋曉斎記念美術館蔵

河鍋曉斎
閻魔と美女相合傘 下絵
不詳
紙本墨画
92.5 × 46.4cm
河鍋曉斎記念美術館蔵

河鍋曉斎
鬼の諸態 下絵
不詳
紙本墨画
26.0 × 38.0cm
河鍋曉斎記念美術館蔵

河鍋曉斎 学問天狗 下絵 不詳 紙本墨画 37.1 × 27.5cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「砂乃仲の黄金」「ながいものにはまかれる」「でい中の蓮」「ぬかにくぎ・とうふにかすがい」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 36.1 × 23.7cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「一寸さ記ハヤミ・人をいのらば穴二つ」「おたふくに白酒・ばかにつける葉はまかくして尻かくさず」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 36.1 × 23.6cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 『曉斎酔画』初編 松崎半造出版 1882 (明治15) 18.7 × 12.4cm 河鍋曉斎記念美術館蔵
河鍋曉斎 風神と雷神の墓打ち 下絵 不詳 紙本墨画 24.7 × 33.0cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「海人浦人」「地獄の休日」「ばかされ」「和藤内・はりこの名人」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 36.0 × 23.6cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「思ふねん力岩ヲとふス」「鬼の留守にせんたく・をやににぬ子は鬼児」「下戸のたつたる蔵もなし」「地藏のかをも三度なずればはらをたつ・をれはいはぬがわれ云な」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 36.0 × 23.7cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 『曉斎酔画』二編 松崎半造出版 1883 (明治16) 18.7 × 12.5cm 河鍋曉斎記念美術館蔵
河鍋曉斎 猿と狐の曲芸 下絵 不詳 紙本墨画 52.5 × 37.5cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「山のいもうなぎ二成」「三老人」「坂公のゆめ」「れん木鳥と化ス 田鼠化してうずらと成」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 36.0 × 23.6cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 落雷戯画 — 1870 (明治3) 錦絵 19.0 × 26.0cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 『曉斎漫画』初編 牧野吉兵衛 1881 (明治14) 22.5 × 14.9cm 河鍋曉斎記念美術館蔵
河鍋曉斎 化猫百福図 下絵 不詳 紙本墨画 240.3 × 33.2cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「女さかしく志て牛売そこのふ・くらやみから牛を引出す」「ふたのかるわざ」「をんをあだでなす」「あいた口へおはぎ・恋に上下のへだてなし」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 36.0 × 23.4cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 曉斎楽画第三号 七々学校 1874 (明治7) 大判錦絵 39.0 × 26.5cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 『曉斎鈍画』 武田文永堂板 1881 (明治14) 12.2 × 18.1cm 河鍋曉斎記念美術館蔵
河鍋曉斎 神獸 白澤 下絵 不詳 紙本墨画 16.8 × 23.9cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「なく子と地頭にはかたれぬ・百日の説法尻一つ」「佐渡国同三狸」「壘登城」「高砂」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 36.1 × 23.8cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 僧正坊牛若丸 1863 (文久3) 大判錦絵3枚続 39.0 × 79.5cm 公文教育研究会蔵	河鍋曉斎 『曉斎百鬼画談』 岩本俊発行、大倉屋孫兵衛板 1889 (明治22) 21.3 × 12.2cm 河鍋曉斎記念美術館蔵
河鍋曉斎 河童の学校 画稿 不詳 紙本墨画 14.4 × 22.0cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「柿の曲食」「群盲ノ図」「鼻風」「鬼頭天王」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 36.1 × 23.6cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 曲結雅画手本 1863 (文久3) 大判錦絵 36.0 × 24.0cm 公文教育研究会蔵	河鍋曉斎 『曉斎百鬼画談 全』 アトリエ・ド・ビブリアグラフィ・ポピュレール (フランス) 21.3 × 12.2cm 河鍋曉斎記念美術館蔵
河鍋曉斎 うとう物語 1864 (元治元) 大判錦絵3枚続 36.3 × 74.4cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「一寸さ記ハヤミ・人をいのらば穴二つ」「おたふくに白酒・ばかにつける葉はない」「実のなる木は花からしれる」「あたまかくして尻かくさず」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 36.0 × 23.5cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 曲結雅画手本 1863 (文久3) 大判錦絵 35.8 × 25.0cm 公文教育研究会蔵	歌川国輝 花のゑん日面売あきふど 1843-1847 (天保14-弘化3) 年頃 大判錦絵3枚続 37.5 × 76.0cm 公文教育研究会蔵
河鍋曉斎 東海道名所之内 秋葉山 1863 (文久3) 大判錦絵 32.8 × 22.1cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「ていしゆのすきな赤えぼし・こんにゃくの幽霊」「鳩の三枝のれいあり・鷹にはんほの考あり」「坂車・先導」「にくまれ物予にはばかり・うのまねをするからす」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 35.6 × 22.1cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 機部鉦泉 妖怪団扇絵 1886 (明治19) 年頃 錦絵 22.0 × 24.5cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	歌川国芳 流行逢部絵希代稀物 1847-1852 (弘化4-嘉永5) 大判錦絵3枚続 36.5 × 73.1cm 公文教育研究会蔵
河鍋曉斎 狂斎百図「ていしゆのすきな赤えぼし・こんにゃくの幽霊」「鳩の三枝のれいあり・鷹にはんほの考あり」「坂車・先導」「にくまれ物予にはばかり・うのまねをするからす」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 35.6 × 22.1cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 狂斎百図「ていしゆのすきな赤えぼし・こんにゃくの幽霊」「鳩の三枝のれいあり・鷹にはんほの考あり」「坂車・先導」「にくまれ物予にはばかり・うのまねをするからす」 1863-1866 (文久3-慶応2) 大判錦絵 35.6 × 22.1cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	河鍋曉斎 機部鉦泉 妖怪団扇絵 1886 (明治19) 年頃 錦絵 22.0 × 24.5cm 河鍋曉斎記念美術館蔵	歌川周重 志ん板だるまのたはむれ 1860 (万延元年) 大判錦絵 35.0 × 22.4cm 公文教育研究会蔵

歌川貞房 新板おぼけ尽 1847-1852 (弘化 4- 嘉永 5) 大判錦絵 35.0 × 23.5cm 公文教育研究会蔵	歌川国芳 源頼光公館土蜘蛛妖怪図 1843 (天保 14) 大判錦絵 3 枚続 35.3 × 71.9cm 公文教育研究会蔵	歌川国芳 ほうづきづくし 1844-1848 (弘化年間) 頃 大判二丁掛錦絵 35.7 × 49.4cm 公文教育研究会蔵	歌川国芳 相馬の古内裏 1844 - 1847 (弘化年間) 頃 大判錦絵 3 枚続 37.7 × 76.7cm 公文教育研究会蔵
歌川芳藤 五拾三次之内猫之怪 1848-1849 (嘉永元 -2) 年頃 大判錦絵 35.3 × 24.9cm 公文教育研究会蔵	歌川芳虎 大江山鬼賊住家図 1847-1852 (弘化 4- 嘉永 5) 大判錦絵 3 枚続 36.8 × 76.3cm 公文教育研究会蔵	不詳 子供あそび百ものがたり 1868 (慶應 4/ 明治元) 年頃 36.5 × 49.4cm 公文教育研究会蔵	紅齋 御代春豆蒔之図 1854-1859 (安政年間) 大判錦絵 3 枚続 36.6 × 75.8cm 公文教育研究会蔵
歌川芳藤 新板猫の湯屋 1868-1872 (明治 2-5) 大判錦絵 35.2 × 22.7cm 公文教育研究会蔵	歌川芳豊 道戯手遊合戦 不詳 大判錦絵 3 枚続 36.4 × 73.9cm 公文教育研究会蔵	歌川貞益 道化手遊合戦 1830-1848 (天保年間) 頃 大判錦絵 3 枚続 33.6 × 71.8cm 公文教育研究会蔵	月岡芳年 鞍馬山僧正躰牛孺磨撃刀練磨之図 1880 (明治 13) 大判錦絵 3 枚続 35.8 × 72.0cm 公文教育研究会蔵
歌川国芳 道外とうもろこし 1843-1847 (天保 14- 弘化 3) 中判錦絵 18.0 × 25.0cm 公文教育研究会蔵	歌川国芳 大江山福寿酒盛 1852-53 (嘉永 5-6) 大判錦絵 3 枚続 36.6 × 74.1cm 公文教育研究会蔵	歌川国長 四天王と土蜘蛛妖怪 1804-1830 (文化年間) 頃 大判錦絵 3 枚続 38.0 × 78.0cm 公文教育研究会蔵	歌川芳幾 昔咄赤本寿語録 1868 (万延元) 大判錦絵 4 枚 71.9 × 50.0cm 公文教育研究会蔵
二代長谷川貞信 舌切雀桃太郎一代記 (一) 1891 (明治 24) 大判錦絵 各 23.9 ~ 24.5cm × 36.0 ~ 36.3cm 公文教育研究会蔵	玉國 画本西遊記 百鬼夜行ノ図 不詳 大判錦絵 3 枚続 37.0 × 74.9cm 公文教育研究会蔵	月岡芳年 和漢百物語 小野川喜三郎 1865 (慶應元) 大判錦絵 2 枚続 34.5 × 23.2cm 公文教育研究会蔵	不詳 地藏菩薩靈驗絵巻 室町時代 紙本着色 (卷子) 27.9 × 596.2cm 公文教育研究会蔵
舌切雀桃太郎一代記 (組上) [複製] 29.5 × 85.0 × 55.0cm 公文教育研究会蔵	月岡芳年 和漢百物語 頓欲ノ婆々 1865 (慶応元) 年 大判錦絵 34.4 × 22.8cm 公文教育研究会蔵	月岡芳年 一魁随筆 朝比奈三郎義秀 1872-1873 (明治 5-6) 大判錦絵 34.8 × 23.3cm 公文教育研究会蔵	不詳 木幡狐 江戸時代前期 紙本着色絵巻 (残欠八枚) 各 38.0 × 99.0cm 公文教育研究会蔵
歌川艶長 新はんどうけ 不詳 大判錦絵 34.0 × 23.2cm 公文教育研究会蔵	二代歌川国麿 志ん板げけものよめいり 1868-1872 (明治元 -5) 大判錦絵 35.6 × 23.1cm 公文教育研究会蔵	歌川国芳 曲亭翁精著八犬伝随一 犬村大角 1837 (天保 8) 大判錦絵 36.4 × 24.4cm 公文教育研究会蔵	森口裕二 牛鬼 2014 キャンバス・アクリルガッシュ 90.5 × 62.5cm 個人蔵
不詳 昔囃猿ヶ島 昔咄さるがしま 1860-1867 (万延元 - 慶應 3) 大判錦絵 3 枚続 37.5 × 73.7cm 公文教育研究会蔵	歌川重歳 朝比奈嶋めぐり 1861 (文久元) 大判錦絵 36.4 × 23.5cm 公文教育研究会蔵	歌川芳藤 武勇三題 1856 (安政 3) 大判錦絵 36.0 × 23.7cm 公文教育研究会蔵	森口裕二 かいじゅうと 21 人の乙女 2015 キャンバス・アクリルガッシュ 作家蔵
歌川国芳 龍宮城 田原藤太 秀郷に三種の土産を贈 1858 (安政 5) 大判錦絵 3 枚続 36.1 × 74.8cm 公文教育研究会蔵	歌川芳藤 麻疹退治戯の図 1862 (文久 2) 大判錦絵 37.0 × 25.1cm 公文教育研究会蔵	四代歌川国政 新板 甲子温泉 1886 (明治 19) 大判錦絵 35.1 × 23.4cm 公文教育研究会蔵	化け物が引き出す「想像力」 武井武雄 妖精伝記 2 不詳 紙・水彩 26.0 × 22.0cm イルフ童画館 (長野県岡谷市) 蔵
歌川芳艶 金太郎の子をとり子とろ 1860 (万延元) 大判錦絵 3 枚続 36.2 × 74.4cm 公文教育研究会蔵			

武井武雄
妖精伝記 4
不詳
紙・水彩
26.0 × 22.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
妖精伝記 7
不詳
紙・水彩
25.8 × 22.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
妖精伝記 8
不詳
紙・クレヨン、水彩
25.8 × 22.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
妖精伝記 12
不詳
紙・クレヨン、水彩
25.7 × 22.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
妖精伝記 13
不詳
紙・クレヨン、水彩
25.7 × 22.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
妖精伝記 15
不詳
紙・水彩
25.7 × 22.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
あめはどうしてふるか
1954
紙・水彩
25.7 × 38.7cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
みかんのおひめさま
1954
紙・クレヨン、水彩
25.5 × 35.8cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
むかしのとけいまいのとけい
1955
紙・水彩
28.2 × 39.1cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
おつきさまのぼうし 1
1956
紙・水彩
33.1 × 42.2cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
おつきさまのぼうし 2
1956
紙・水彩
25.5 × 36.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
こびととくつやさん
1956
紙・水彩
29.8 × 42.2cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
（作品名不詳）
1956
紙・クレヨン、水彩
31.0 × 30.3cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
しものこびと
1956
紙・クレヨン、水彩
30.1 × 44.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
そらのたび
1957
紙・水彩
30.0 × 42.1cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
ちょうちょのくに
1961
紙・クレヨン、水彩
29.8 × 41.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
あしたはにゅうえんしき
1961
紙・クレヨン、水彩
28.5 × 60.5cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
かぜさんだって
1963
紙・水彩
28.8 × 39.6cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
おじいさんのひ
1966
紙・水彩
33.3 × 45.5cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
したきりすずめ
1970
紙・クレヨン、水彩
29.8 × 40.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
森で見た馬車（森の小径）
1974
紙・クレヨン、水彩
44.0 × 52.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

武井武雄
EKABO 号
1974
紙・クレヨン、水彩
37.2 × 45.0cm
イルフ童画館（長野県岡谷市）蔵

佐々木マキ
『おばけがぞろぞろ』原画
1988 福音館書店
紙・水彩
21.6 × 20.3cm（表紙、月刊誌用裏表紙、2点）
11.5 × 15.0cm（単行本用裏表紙、1点）
21.6 × 20.3cm（本文 P.1～p.23、14点）
21.6 × 20.3cm（本文 p.24、1点）
作家蔵

長 新太
『はんぶんタヌキ』原画
1988 こぐま社
紙・ガッシュ
29.3 × 23.0cm（表 1・表 4、2点）
28.5 × 22.0cm（見返し・P.1、P.32、3点）
28.5 × 44.5cm（P.2-P.31、14点）
ちひろ美術館蔵

化け物たちの棲むところ

川田喜久治
聖なる森 地獄の入口 ヴィテルボ、イタリア
1969/2011
ピグメント・インクジェットプリント
33.7 × 51.2cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 松穂とドングリ ヴィテルボ、イタリア
1966/69
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
30.1 × 20.3cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 闘う巨人 ヴィテルボ、イタリア
1966/69
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
26.9 × 18.2cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 巨女 ヴィテルボ、イタリア
1966/69
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
21.2 × 31.4cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 巨亀 ヴィテルボ、イタリア
1966/69
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
20.1 × 30.2cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 闘う男女 ヴィテルボ、イタリア
1966/69
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
30.3 × 20.2cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 怪人の面 ヴィテルボ、イタリア
1969
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
30.2 × 20.2cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 闘う龍とライオン ヴィテルボ、イタリア
1966/69
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
20.3 × 30.1cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 怪人群 ヴィテルボ、イタリア
1966/69
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
20.3 × 30.1cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 ケルベロス ヴィテルボ、イタリア
1969
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
20.2 × 30.2cm
作家蔵

川田喜久治
聖なる森 ネプチューン ヴィテルボ、イタリア
1966/69
ゼラチンシルバープリント、セレン調色
20.3 × 30.1cm
作家蔵

川田喜久治 聖なる森 怪人の首 ヴィテルボ、イタリア 1966/69 ゼラチンシルバープリント、セレン調色 30.2 × 20.3cm 作家蔵	地獄の赤鬼（阿形） 江戸時代 木造一木造彩色彫眼 49.0 × 25.0 × 13.2cm 林泉寺蔵	土橋とし子 はながさく 2015 紙・アクリル、蠟 20.0 × 10.0cm 作家蔵	土橋とし子 つぎのぼりはじめる 2015 紙・アクリル、蠟 25.0 × 15.0cm 作家蔵
川田喜久治 聖なる森 闘う龍たち ヴィテルボ、イタリア 1966/69 ゼラチンシルバープリント、セレン調色 30.2 × 20.2cm 作家蔵	地獄の黒鬼（吽形） 江戸時代 木造一木造彩色彫眼 49.6 × 23.9 × 13.2cm 林泉寺蔵	土橋とし子 あたらしいつば 2015 紙・アクリル、蠟 20.0 × 10.0cm 作家蔵	土橋とし子 つぎのめ 2015 紙・アクリル、蠟 16.0 × 24.0cm 作家蔵
川田喜久治 聖なる森 「聖なる森」入口 1966/69 ゼラチンシルバープリント、セレン調色 20.3 × 30.1cm 作家蔵	地獄の天秤 江戸時代 木造彩色 32.0 × 30.0 × 14.8cm 林泉寺蔵	土橋とし子 そらにかえす 2015 紙・アクリル、蠟 30.0 × 15.0cm 作家蔵	土橋とし子 おどるあほう 2015 紙・アクリル、蠟 24.2 × 30.3cm 作家蔵
川田喜久治 聖なる森 怪人の首 ヴィテルボ、イタリア 1966/69 ゼラチンシルバープリント、セレン調色 20.3 × 30.1cm 作家蔵	地獄の人頭幢 江戸時代 木造彩色 52.0 × 14.2 × 11.7cm 林泉寺蔵	土橋とし子 いっぼんみち 2015 紙・アクリル、蠟 15.0 × 30.0cm 作家蔵	土橋とし子 たびのよにん 2015 紙・アクリル、蠟 28.0 × 21.0cm 作家蔵
川田喜久治 聖なる森 ニンフ ヴィテルボ、イタリア 1966/69 ゼラチンシルバープリント、セレン調色 20.3 × 30.1cm 作家蔵	火車と亡者之像 江戸時代 木造彩色 25.8 × 18.5 × 21.4cm 林泉寺蔵	土橋とし子 げっかるうじん 2015 紙・アクリル、蠟 27.0 × 20.5cm 作家蔵	土橋とし子 きねんさつえい 2015 紙・アクリル、蠟 28.0 × 21.0cm 作家蔵
地獄の奪衣婆像 江戸時代 木造一木造彩色玉眼 46.0 × 45.0 × 32.5cm 林泉寺蔵	地獄の浄玻璃鏡 江戸時代 木造彩色 59.3 × 27.8 × 11.0cm 林泉寺蔵	土橋とし子 やかんひこう 2015 紙・アクリル、蠟 20.0 × 40.0cm 作家蔵	土橋とし子 おいしくいただく 2015 紙・アクリル、蠟 28.0 × 21.0cm 作家蔵
閻魔大王像 江戸時代 木造一木造彩色玉眼 65.0 × 56.0 × 40.5cm 林泉寺蔵	地獄の桶 江戸時代 木造彩色 19.4 × 18.0 × 18.0cm 林泉寺蔵	土橋とし子 まんげつのあかちゃん 2015 紙・アクリル、蠟 15.0 × 25.0cm 作家蔵	土橋とし子 つきにおどる 2015 紙・アクリル、蠟 21.0 × 28.0cm 作家蔵
司命像 江戸時代 木造一木造彩色玉眼 47.0 × 42.0 × 21.0cm 林泉寺蔵	釘打ち亡者像 江戸時代 木造一木造 19.0 × 7.5 × 5.0cm 林泉寺蔵	土橋とし子 ないしょのはなし 2015 紙・アクリル、蠟 18.0 × 25.7cm 作家蔵	土橋とし子 つきをひろう 2015 紙・アクリル、蠟 25.0 × 34.0cm 作家蔵
司録像 江戸時代 木造一木造彩色玉眼 47.5cm × 40.5cm × 21.0cm 林泉寺蔵	松岡北翠 十王図 江戸時代 紙本着色 右幅：202.3 × 153.2cm 左幅：202.3 × 152.9cm 悟真寺蔵	土橋とし子 またのぞき 2015 紙・アクリル、蠟 22.5 × 16.0cm 作家蔵	土橋とし子 よるのひと 2015 紙・アクリル、蠟 36.0 × 25.5cm 作家蔵
木造十王像 江戸時代 木造一木造（7体） 各 22.2 × 24.2 × 14.2 ~ 16.5 × 7.6 ~ 10.8cm 林泉寺蔵	現代美術における「化け物」、 あるいは「青森県立美術館版 お化け屋敷」 土橋とし子 まんげつによる 2015 紙・アクリル、蠟 18.1 × 13.1cm 作家蔵		

土橋とし子
たびのはじまり
2015
紙・アクリル、蠟
36.0 × 25.0cm
作家蔵

土橋とし子
たびのはじまり
2015
紙・アクリル、蠟
36.0 × 25.0cm
作家蔵

土橋とし子
つきのふね
2015
紙・アクリル、蠟
34.0 × 49.0cm
作家蔵

土橋とし子
いちにのさん
2015
紙・アクリル、蠟
15.0 × 30.0cm
作家蔵

土橋とし子
いそぎんちゃくこ
2015
紙・ペン
13.0 × 8.0cm
作家蔵

土橋とし子
かんくらげん
2015
紙・ペン
13.5 × 8.0cm
作家蔵

土橋とし子
たいようのめ
2015
紙・ペン
9.0 × 14.0cm
作家蔵

土橋とし子
こういかぞう
2015
紙・ペン
12.0 × 8.0cm
作家蔵

土橋とし子
まぎがいがい
2015
紙・ペン
6.0 × 13.0cm
作家蔵

土橋とし子
らくとちん
2015
紙・ペン
8.0 × 12.0cm
作家蔵

土橋とし子
らくなしせい
2015
紙・ペン
10.0 × 11.0cm
作家蔵

土橋とし子
ふたりであるく
2015
紙・ペン
13.0 × 7.0cm
作家蔵

土橋とし子
はとはとは
2015
紙・ペン
8.0 × 13.0cm
作家蔵

土橋とし子
うたたね
2015
紙・ペン
8.0 × 13.0cm
作家蔵

土橋とし子
くも
2015
紙・ペン
16.0 × 11.0cm
作家蔵

土橋とし子
ばらんすかんかく
2015
紙・ペン
20.0 × 10.0cm
作家蔵

土橋とし子
つぼのなかみ
2015
紙・ペン
12.0 × 13.0cm
作家蔵

土橋とし子
おいしいみず
2015
紙・ペン
11.0 × 15.0cm
作家蔵

土橋とし子
さんになたび
2015
紙・ペン
10.0 × 15.0cm
作家蔵

土橋とし子
だいじなたま
2015
紙・ペン
20.0 × 9.0cm
作家蔵

土橋とし子
たいようさん
2015
紙・ペン
19.0 × 11.0cm
作家蔵

土橋とし子
まいまいさん
2015
紙・ペン
15.5 × 10.0cm
作家蔵

土橋とし子
よっつめ みっつのくち むっつのはなの
あな ひとつのころ
2015
紙・ペン
12.6 × 13.6cm
作家蔵

土橋とし子
つめをのぼす
2015
紙・ペン
15.0 × 10.0cm
作家蔵

土橋とし子
せみがなく
2015
紙・ペン
15.5 × 11.0cm
作家蔵

土橋とし子
きつねのまど
2015
紙・ペン
11.0 × 15.0cm
作家蔵

土橋とし子
だいじなもの
2015
紙・ペン
19.5 × 10.6cm
作家蔵

土橋とし子
へびがよんひき
2015
紙・ペン
14.6 × 12.7cm
作家蔵

土橋とし子
おちゃのじかん
2015
紙・ペン
10.5 × 14.6cm
作家蔵

土橋とし子
おでかけ
2015
16.0 × 11.5cm
作家蔵

土橋とし子
ひとやすみ
2015
紙・ペン
11.0 × 15.0cm
作家蔵

土橋とし子
みちづれ
2015
紙・ペン
11.0 × 15.0cm
作家蔵

土橋とし子
そらのひと
2015
紙・ペン
11.0 × 18.0cm
作家蔵

土橋とし子
くびかざり
2015
紙・ペン
18.0 × 10.0cm
作家蔵

土橋とし子
ひどけい
2015
紙・ペン
26.0 × 18.0cm
作家蔵

土橋とし子
なわとび
2015
紙・ペン
19.2 × 29.3cm
作家蔵

土橋とし子 たいようつきのいちにち 2015 ミクストメディア 250.0 × 100.0 × 25.0cm 作家蔵	岡本光博 UFO - unidentified falling object (未確認1 分間に5回転物体) 2015 日清やきそば、モーター 18.0 × 18.0 × 5.0cm 作家蔵	荒川朋子 毛棒 2014 楠、つけまつげ、カシュー 25.0 × 8.0 × 8.0cm 作家蔵	谷澤紗和子 無名 2014 陶、貝 28.0 × 14.0 × 19.0cm 作家蔵
土橋とし子 あくん 2010 ミクストメディア 135.0 × 57.0 × 40.0cm 作家蔵	荒川朋子 いつもみてるよ 2012 楠、ウィッグ、ガラス 160.0 × 110.0 × 110.0cm 作家蔵	荒川朋子 歯鏡 2013 楠、鏡、カシュー 25.0 × 40.0 × 5.0cm 作家蔵	谷澤紗和子 無名 2014 陶、貝 6.0 × 17.0 × 7.0cm 作家蔵
土橋とし子 いくん 2010 ミクストメディア 250.0 × 55.0 × 50.0cm 作家蔵	荒川朋子 おば毛 2011 楠、人毛 18.0 × 7.0 × 7.0cm 作家蔵	荒川朋子 化けたい 2015 楠、人毛、つけまつげ、カシュー 20.0 × 16.0 × 7.0cm 作家蔵	谷澤紗和子 無名 2014 陶、貝 12.5 × 7.0 × 7.0cm 作家蔵
岡本光博 UFO - unidentified falling object (未確認墜 落物体) 2015 塩化ビニールシートに油性インク、木材他 360.0 × 360.0 × 100.0cm 作家蔵	荒川朋子 コック棒 2011 楠、人毛 11.0 × 3.0 × 2.5cm 作家蔵	島本了多 しらない言葉の百鬼夜行～壹～ 2011 紙・水彩 45.0 × 740.0cm 作家蔵	谷澤紗和子 無名 2014 陶、貝 10.0 × 15.0 × 9.0cm 作家蔵
岡本光博 フザソン / 不在存 2015 映像 (編集: 宮崎遼) サイズ可変 作家蔵	荒川朋子 ふさふさ 2014 楠、つけまつげ、カシュー 32.0 × 23.0 × 10.0cm 作家蔵	島本了多 しらない言葉の百鬼夜行～貳～ 2015 紙・水彩 45.0 × 750.0cm 作家蔵	谷澤紗和子 無名 2014 陶、貝 15.0 × 10.0 × 9.0cm 作家蔵
フザソン・ザ・ジャイアント 2015 映像 (編集: 宮崎遼) サイズ可変 作家蔵	荒川朋子 たらし 2014 楠、人毛、カシュー 36.0 × 10.0 × 60.0cm 作家蔵	島本了多 地獄の自刻像 2015 陶器、桐箱 各 33.0 × 25.0 × 9.0cm 作家蔵	谷澤紗和子 無名 2014 陶、貝 17.0 × 16.0 × 17.0cm 作家蔵
岡本光博 Inrai 2015 障子、樹脂、LED 他 169.5 × 102.0 × 14.0cm 作家蔵	荒川朋子 怒り泣き 2014 楠、人毛、カシュー 35.0 × 23.0 × 15.0cm 作家蔵	島本了多 サバイバー 2010 樹脂、石粉粘土、塗装、装備 155.0 × 120.0 × 97.0cm 作家蔵	
岡本光博 LIFE jacket 4 2015 綿にインクジェットプリント、ジャケット 108.0 × 55.0 × 40.0cm 作家蔵	荒川朋子 赤鼻白髭 2013 楠、人毛、カシュー 40.0 × 7.0 × 5.0cm 作家蔵	島本了多 ネバイバー 2015 樹脂、石粉粘土、塗装、装備 50.0 × 238.0 × 87.0cm 作家蔵	
岡本光博 虎縄文 / F 2009 トラロープ (標識ロープ) 300m、透明樹脂 ほか 78.0 × 40.0 × 174.0cm 作家蔵	荒川朋子 髪さま 2012 楠、ウィッグ、ガラス 50.0 × 7.0 × 7.0cm 作家蔵	谷澤紗和子 おやさま 2015 紙、ライト 850.0 × 1600.0cm 作家蔵	

掲載記事

北陸新聞

8月6日(木)
化け物展

河北新報

7月8日(水)
世界の「化け物」一堂に

8月6日(木)
「UFOの件」

陸奥新報

7月19日(日)
古今東西の「化け物」展

8月1日(土)
「化け物」作品ずらり

8月16日(日)
造形に込めた変身願望

8月22日(土)
県立美術館・化け物展：2万人を突破し記念
セレモニー／青森

東奥日報

7月25日(土)
人間との関係読み解く「化け物展」来月1
日から

7月31日(金)
ひと味違う「化け物」展

8月1日(土)
「化け物展」「PHASE」2展覧会きょう開幕

8月24日(月)
眼前におどる多様な姿

毎日新聞

7月28日(火)
怪談で夏をヒヤ〜リ

The Japan Times

7月29日(火)
"Bakemoo"

定年時代

8月1日(土)
旅&イベント 化け物展

平成 27 年度常設展示 Permanent Exhibition 2015

アレコホール：「マルク・シャガールによるバレエ〈アレコ〉の背景画」(通年展示)

展示室 F 奈良美智インスタレーション (通年展示)

青森県弘前市出身の奈良美智(1959-)は、弘前市の高校を卒業後、東京と名古屋の大学で本格的に美術を学び、1980年代半ばから絵画や立体作品、ドローイングなど精力的に発表を続けている。当館では、1997年から奈良美智作品の収集をはじめ、現在その数は150点を超える。

《Hula Hula Garden》(1994年)と《ニュー・ソウルハウス》(2006-2008年)という2点のインスタレーション(空間設置作品)を中心に、奈良美智の世界を紹介。

第1期

成田亨展関連展示、ジャンルを越境する表現者たち ほか

会期：2015年3月28日(土) - 5月31日(日)

※展示室 G, I, K, J, M は 2015年4月11日(土) - 5月31日(日)

展示室 H | 成田亨の師：阿部合成と小坂圭二

成田亨が生涯師として尊敬しつづけたのが青森市浪岡出身の画家・阿部合成(青森市浪岡町生まれ、1910-1972年)である。阿部合成は旧制青森中学卒業後京都絵画専門学校に学び、ひとたび帰郷して野辺地中学の代用教員などをつとめたあと上京、画家として活動した。二科展に出品した出征兵士を送る人々を描いた「見送る人々」が日本人としてふさわしくないとの批判をうけ、画壇から決別、満州に出征して敗戦後シベリアに抑留され、1947年に帰国する。青森に帰ってきた直後、偶然出会った成田は阿部合成から芸術家としての誠実さと情熱を学んだと言う。阿部合成が成田亨に出会った頃の作品を含め、浪漫的な情緒と祈りに満たされた油彩画を展示。また、新制作で活躍し、青森高校時代の成田亨に素描を教えた小坂圭二(野辺地町生まれ、1918-1992年)は、阿部の野辺地時代の教え子であり、のちに東京藝大に学び、キリスト教を主題とする作品を中心に彫刻家として独自の造形を遺した。ここでは戦争で深く傷つき信仰を異形の造形に結晶させた小坂圭二の代表作「世界の破れを担うキリスト」他の作品を展示した。

展示室 N | 野沢如洋と鳥谷幡山：異端の日本画家たち

明治時代から昭和初期にかけて、西洋美術の影響をうけた新しい日本画がひろまっていく時流に背を向け、伝統的な水墨画の

道を究めながらも世界を旅して個性的な作品を描いた弘前市出身の日本画家野沢如洋(弘前市出身、1865-1937年)、そして十和田湖の神秘に魅了され、生涯をその顕彰に捧げるとともに、戸来の「キリストの墓」発見などにも関わった鳥谷幡山(七戸町生まれ、1876-1966年)という2人の異端の日本画家の作品を紹介した。

展示室 P、Q | 立石大河亞：タイガードラマの迷宮

レッテルを貼られることを拒み、立石紘一という本名からタイガー立石、立石大河亞と改名を繰り返しつつ、油彩、彫刻といった旧来的な美術の枠組みに収まらないユニークな作品を手がけ、さらには漫画やデザイン、絵本といった分野でも活躍した立石大河亞(福岡県生まれ、1941-1998年)。表現領域は多岐にわたったが、時間と空間、事象や観念の集積による視覚と思考の回路が幾重にもはりめぐらされ、どこまでも「観ることの快楽」が追求されている点はすべての作品に一貫している。立石作品をとおして、「ジャンル」という概念の曖昧さと「表現」の豊かな可能性について考える展示を行った。

展示室 O | 寺山修司：生誕 80 年記念「イメージの宇宙一映像と幻想写真」

寺山修司(弘前市生まれ、1935-1983年)が活躍した1960~70年代はいわゆるアングラ文化が全盛の時代である。高度成長によって近代化が急速に進む一方、社会的な構造と人間の精神との間に様々な歪みが生じ、そうした近代資本主義社会の矛盾を告発するかのよう権力や体制を批判、従来の価値観を否定していく活動が盛んとなっていった。特に寺山は大衆の興味や関心をひきつける術に特異な才能を発揮した。演劇や映像作品にはそれが顕著で、演劇、映画のあらゆる「約束事」が否定され、感情や欲望を刺激するイメージで覆い尽くされた寺山の斬新な作品は多くの人々を虜にしていった。

この展示では、寺山が作り出した豊かなイメージの世界を、映像、ポスター、映画のスチールパネルなど様々な作品、資料で紹介した。

協力：テラヤマ・ワールド、三沢市寺山修司記念館

棟方志功展示室 | 「倭画」の世界—花鳥風景を描く

板画家・棟方志功のもうひとつの芸業「倭画(やまとが)」の世界を紹介。

墨絵に日本画用の絵の具で彩色した自らの肉筆画を、棟方は「倭画」と呼び表した。板画では対象の模様化や、繊細な装飾表現で咲きほこる花々を描き表した棟方だが、倭画では、軽や

かで勢いのある筆致で、動植物のみずみずしい生命力を描き表した。《御巨銘薫樹図》(1952年)や《鷺栖図》(1971年)など、倭画の大作を展示。

2015年4月11日(土) - 5月31日(日)

展示室 G | 安彦良和：漫画とアニメの狭間で

安彦良和(やすひこ よしかず、北海道生まれ、1947年-)は、漫画家、イラストレーター、キャラクターデザイナー、アニメーション監督として活躍する現代日本文化の代表的クリエイターのひとりである。弘前大学に籍をおいた後の1970年に上京。『機動戦士ガンダム』(1979年)でキャラクターデザインとアニメーションディレクターをつとめ、『クラッシュジョウ』(1983年)や『巨人ゴッグ』(1984年)では監督も務めつつ、並行して漫画の執筆も開始。1989年からは漫画に専念し、歴史や政治に着想を得た数々の話題作を発表していった。2001年から連載のはじまった漫画『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』は大ヒット作となり、アニメ版の制作が決定、自ら総監督をつとめ、この春には第1作が公開された。

今回の展示では漫画デビュー作である『アリオン』をはじめ、歴史物の代表作である『ナムジ』(第19回日本漫画家協会賞優秀賞受賞)、『ジャンヌ』、『虹色のトロツキー』、そして話題の『機動戦士ガンダム THE ORIGIN』の漫画原稿を紹介した。

協力：アドシステム、サンライズ

展示室 I | 今和次郎：「考現学」の誕生

「考古学」に対して、“人類の現在”を観察・記録する「考現学」を提唱した今和次郎(弘前市生まれ、1888-1973年)。和次郎は民家研究に従事した後、関東大震災で灰燼と化した東京の光景を見て、「今を記録する」ことの重要性に気付き、考現学を創始した。さらに震災直後に急ごしらえのバラック建築をペンキで装飾する「バラック装飾社」では建築家、デザイナーとして奮闘、戦後には日常生活を考察する「生活学」や「服装研究」などの新しい学問領域も開拓するなど幅広い領域で活動を行った。その活動の根底には、都市と地方を行き交いながらさまざまな暮らしの営みを“ひろい心でよくみる”ことをとおして、これからの暮らしのかたちを、今を生きる人々とともに創造しようと模索し続けた今和次郎の生き方があった。この展示では、和次郎の活動の出発点となった民家調査から関東大震災前後の仕事を紹介することで、なぜ「考現学」が生まれたのかを考察する。

協力：工学院大学図書館

展示室 K | 伊藤隆介：スクリーン・プロセス

映像作家、美術家として活躍する伊藤隆介(北海道生まれ、1963-)。既存の映画を自由にコラージュする「ファウンド・フッテージ」と称される映像作品と、精巧な模型やジオラマをビデオカメラでリアルに撮影、そのライブ映像を拡大投影し、目の前の実物との関係を考える「Realistic Virtuality(現実的な仮想

性)」シリーズを精力的に手がけている。さらに並行して「村雨ケンジ」名義で映画、アニメ、漫画などのメディア評論もしており、文字による批評と視覚に依拠する作品の双方ともに、聖と俗、硬と軟のモチーフを自在かつ柔軟に引用しつつ、様々な切り口で「現代」という時代を浮き彫りにしていく点に伊藤の仕事の大きな特徴がある。

この展示では、特撮映像へのオマージュとも言える映像詩と、特撮美術に着想を得たビデオ・インスタレーションで構成し、戦後日本文化に大きな影響を与えた成田亨の仕事を客観的に検証した。

展示室 J | 高山良策：怪獣／幻想／シュルレアリスム

成田亨のウルトラ怪獣デザインを造形化したことで知られる高山良策(山梨県生まれ、1917-1982年)は、日本にシュルレアリスムを移植した福沢一郎に師事し、美術文化協会を舞台に画家としての活動を開始した。以降、山下菊二や中村宏らとともにシュルレアリスム的な表現に社会風刺を織り交ぜたルポルタージュ絵画を制作し、後年は、異形の人間像や不可思議なオブジェなどが画面を支配する独自の幻想絵画へと到達した。こうした前衛画家としての高山の姿勢は、怪獣造形の仕事においても反映されているようであり、敗北者としての悲哀や愛敬にあふれたその怪獣造形は“高山怪獣”として、半世紀近い時を経た今もなお多くの人々を魅了し続けている。このコーナーでは、シュルレアリスム的な幻想性や抽象性を感じさせる絵画作品に加え、ウルトラ怪獣の関連資料をあわせて紹介した。

展示室 M | 馬場のぼる：ねこ！ねこ！ねこ！

馬場のぼる(三戸町生まれ、1927-2001年)は、絵本「11ぴきのねこ」シリーズの作家として知られる漫画家、絵本作家。一冊目の「11ぴきのねこ」は1967(昭和42)年に出版された作品ですが、40年以上を経た現在もなお、多くの子どもたちに愛され続けている。昭和を代表する漫画家、横山隆一をして「馬場のぼるにはネ。『ネコ』を描かせたくない・・・あんなスゴイ猫はいかん。ばばネコは禁じ手だよ。」と言わしめた馬場のぼるを、漫画家仲間たちは敬意を表して、猫を描く名人“ネコばば”と呼んでいた。今回の展示ではねこをモチーフとした漫画原稿や東北の習俗に題材をとった絵本原画を展示するとともに、代表的な漫画や絵本の閲覧コーナーを設けた。

第2期

特集 ケンジロー・レイナー～七尾謙次郎の版画世界

特集 NHK「日曜美術館」連携企画「みつけよう、美」in 青森県立美術館

企画関連展示 アンリ・マティス、工藤甲人、成田亨、寺山修司、土方巽

展示室 N,PQ

特集 ケンジロー・レイナー～七尾謙次郎の版画世界

画家・版画家の七尾謙次郎は、1929年、青森市に生まれた。青森中学時代には美術の教師だった小館善四郎に学び、卒業後上京し、日本大学経済学部で学ぶ傍ら阿佐ヶ谷学院に籍を置いて美術の基礎を身につけた。そして、美術へのさらなる志を抱いて1960年に渡米、サンフランシスコを中心に活動した。教師としてもカリフォルニア州立大学ハイワード校で教鞭をとるなど長く米国で活躍し、2013年に亡くなった。モノクロームの思索的な人物表現から、多彩な色の表現により静物から濃厚な生命の息づかいを引き出すリトグラフ作品まで、彼の版画による代表的な作品を展示した。

展示室 H, F, 志功展示室

特集 NHK「日曜美術館」連携企画「みつけよう、美」in 青森県立美術館

今年放送40年目を迎えるNHK「日曜美術館」には、これまで、青森県を代表する芸術家たちの当館収蔵作品も取り上げられてきた。

世界的に知られた版画家・棟方志功の傑作《花矢の柵》や、番組放送から大きな反響のあった写真家・小島一郎の作品など、当館のコレクションの魅力をわかりやすく紹介する「日曜美術館」や「極上美の饗宴」の抜粋映像とともに、番組に登場する実際の作品を展示した。

「日曜美術館」放送40年を記念する2015年度、日曜美術館が全国110の美術館と連携し、作品の実物と映像を並べて展示する「みつけよう、美」のキャンペーンの一環として実施。

展示室 M

マティスの版画集《ジャズ》～ブルーナに影響を与えた「線」と「色」と「形」

マティスは、美しい線を描くことができ、色彩に関しても鋭い感覚をもっていた。線と色がお互いの魅力を最大限に引き出し合うという理想を目指したマティスが見出したのが切り絵だった。色がついた紙を切り抜くという方法なら、線と色と形を同時に作り出すことが可能である。マティス自身の言葉によれば「色彩の中でデッサンができる」。

《ジャズ》はマティスの切り絵を元に制作された版画集であり、美しい色彩から美しい輪郭線を切り抜いて、美しい形を作るという、マティスが作り上げた究極の美が溢れている。

オランダのユトレヒトで生まれ育った「ミッフィー」の生みの親ディック・ブルーナは第二次世界大戦終了後に、家業の出

版業を継ぐための研修として、イギリスやパリに赴きまいだが、パリで目にしたマティスやフェルナン・レジェらの作品に強い影響を受け、画家を志した。特にマティスの《ジャズ》におけるグラフィカルな要素は、ブルーナの芸術世界を構築する大きな基礎となっている。常設展第2期の会期中に開催されたミッフィー展にあわせ、ミッフィーと《ジャズ》、その線と色と形の豊かな関連性を紹介する展示を行った。

展示室 L, J

工藤甲人 / 懐・想・一夢と覚醒のはざまにー（生誕100年を機に）

故郷、津軽を創造の源泉として独自の作品世界を築き、日本画に斬新な表現を切り拓いた工藤甲人（1915-2011）。自然を題材としながらも樹、鳥、枯葉や蝶などが現実を超えた存在と化して画面に息づいてる。その作風はしばしば幻想的といわれるが、工藤は自らの作品が幻想的と評されることをよしとせず、夢幻と現実のはざまに漂う世界こそが自分にとっての真実だと繰り返し語っている。生誕100年を機に、あらためて工藤甲人が描き続けた真実の世界をふりかえる。

展示室 I

成田亨：鬼と怪獣

「ウルトラQ」、「ウルトラマン」、「ウルトラセブン」に登場するヒーロー、怪獣、宇宙人、メカニックのデザインを手がけ、その世界観を構築した成田亨。もともとと美術家、彫刻家であった成田は、怪獣デザインに芸術家としての持てる力、すなわち成田が同時代の美術や西洋モダンアートから吸収した造形センスを惜しみなく怪獣デザインにつぎ込み、誰も目にしたことのない意外性を持つ形が次々に生み出された。それらのデザインは今も変わらず愛され続けているが、そこには形そのものを創出する彫刻家の仕事を認めることができるだろう。

この展示では、成田の類い希なる造形センスに加え、モチーフに込められた成田の想いを伝えるべく、酒吞童子の伝説に着想を得た成田彫刻の集大成である《鬼モニュメント》（1991年）をはじめとする鬼の作品と、怪獣のデザイン原画を比較展示した。

展示室 O

寺山修司：生誕80年記念「イメージの宇宙～映像と幻想写真～」

寺山修司（弘前市生まれ、1935-1983年）が活躍した1960～70年代はいわゆるアングラ文化が全盛の時代だった。高度成長によって近代化が急速に進む一方、社会的な構造と人間の精神との間に様々な歪みが生じ、そうした近代資本主義社会の矛盾を告発するかのよう権力や体制を批判、従来の価値観を否定していく活動が盛んとなっていった。特に寺山は大衆の興味や関心をひきつける術に特異な才能を発揮した。演劇や映像作品にはそれが顕著で、演劇、映画のあらゆる「約束事」が否定され、感情や欲望を刺激するイメージで覆い尽くされた寺山の斬新な作品は多くの人々を虜にしていった。

この展示では、寺山が作り出した豊かなイメージの世界を、

映像、ポスター、映画のスチールパネルなど様々な作品、資料で紹介した。

協力：テラヤマ・ワールド、三沢市寺山修司記念館

展示室 K

「国際パフォーマンス・スタディーズ学会 2015 東北大会」連携企画

土方巽の芸術

—DANCE EXPERIENCE から DANCE METHOD へ

土方巽の舞踏は、1950年代末に始まり、その死の年1985年までを数えてもその活動時期は30年に達しない。しかし、死後ほぼ30年を経た現在、「舞踏」は世界に広がっている。世界のダンス史において「舞踏」を外して考えることはもはや不可能であり、海外から多くのダンサーや研究者が、「舞踏」とは何かを探して来日している。今回の展示では、そうした土方巽の「舞踏」研究の新しい成果を示すとともに、その「体験」から「方法」までを発見する、舞踏を巡る旅として構成した。

協力：慶應義塾大学アート・センター

棟方志功展示室

青森讃歌

20代前半で上京して以降、戦中戦後の6年間を富山県福光で過ごした他は、ずっと東京で創作活動をした棟方だが、故郷青森に対する想いは人一倍強くあった。

津軽の冬景色、八甲田山や奥入瀬渓流、十和田湖などの美しい自然、ねぶたの鮮やかな色彩、もの悲しい津軽民謡の旋律など、故郷の風景や風物は棟方の脳裏に強く焼き付いており、作品にも繰り返し描かれている。特に晩年、故郷をテーマとした作品を数多く制作している。望郷の念は故郷発展への祈りの想いとなり、板壁画《花矢の柵》を生み出した。

この展示では、《花矢の柵》ほか、板画《砂山の柵》、《津軽三味線の柵》、倭画《青森頌春夏秋冬の柵》などの作品を展示し、棟方の故郷への想いを紹介した。

プロジェクト

PHASE ファーズ

平成 26 年度から始まった「PHASE (ファーズ)」は若く才能豊かな国内外のアーティストたちに、美術館の空間を最大限活かした展示や企画を実施してもらうプロジェクト。

「PHASE」はドイツ語で、「段階」や「相」を意味する。参加したアーティストたちの新たな「段階」への展開を支援し、青森県立美術館内の一つの場所が持つさまざまな「相」を生み出すことをねらいとしている。

平成 26 年度と平成 27 年度は、本県出身のアーティスト・奈良美智氏をディレクターに迎え、同氏がデザインした当館の「八角堂」を会場に開催した。

PHASE 2014

今年度、ディレクターの奈良氏が企画したのは、2013 年度末に行われた美術系大学の卒業展をリサーチする中で注目した学生たちによる、八角堂を会場にした個展のシリーズ。奈良氏は、八角堂という特殊な形状と趣をもった空間に対して、冒険的な展示を行ってくれることを期待しながら、宮川慶子、伊藤早樹子、永井天陽という、意欲的な 3 人の学生を選んだ。

ディレクター：奈良美智（美術家）

会場：青森県立美術館八角堂

観覧料：無料

入場者数：2,631 人

・part1 宮川慶子

7 月 19 日（土）－ 8 月 24 日（日）

休館日：7 月 28 日（月）、8 月 11 日（月）

わたしがわたしとあなたのためにお祈りしていると

As I pray for you and me



宮川慶子展示「わたしがわたしとあなたのためにお祈りしていると」

[みやがわ・けいこ]

1991 神奈川県横浜市出身

2013 [個展]「あなたの中を歩いていくと」 galerie H / 東京

2014 東京造形大学造形学部美術学科絵画専攻領域卒業

[個展]「向こうの入り口」 gallery 元町 / 神奈川

東京造形大学大学院造形研究科美術研究領域在学

【出品作】

《静かに歩いていると》 As I walk quietly

2014 年

樹脂粘土・キャンバス

27cm × 23cm

《あなたの中を歩きたい》 A wish to walk inside you

2014 年

FRP

H67cm × W28cm × D24cm

《あなたの中を歩いていると》 When I walk inside you

2014 年

樹脂粘土・キャンバス

194cm × 162cm

《わたしがわたしとあなたのためにお祈りしているとき》 As I pray for you and me

2014 年

剥製、樹脂粘土、油彩

H58cm × W32cm × D15cm

《私が歩いているあいだに》 While I'm walking

2014 年

FRP

H59cm × W25cm × D20cm

《あなたの中を歩いていると》 When I walk inside you

2014 年

樹脂粘土・キャンバス

194cm × 162cm

《あのとき見たとき》 That time when I saw

2014 年

樹脂粘土・パネル

46cm × 39cm

《あなたの中を歩いているとⅡ》 When I walk inside you II

2014年

樹脂粘土・キャンバス

60cm × 60cm

○関連企画：アーティスト・ワークショップ

「樹脂粘土で変身しよう！」

日時：2014年8月17日（日）13：30 - 16：30

宮川慶子作品の主要な素材の一つである樹脂粘土を鏡に貼り付けながら、鏡面上での「変身」を試みるワークショップを開催した。

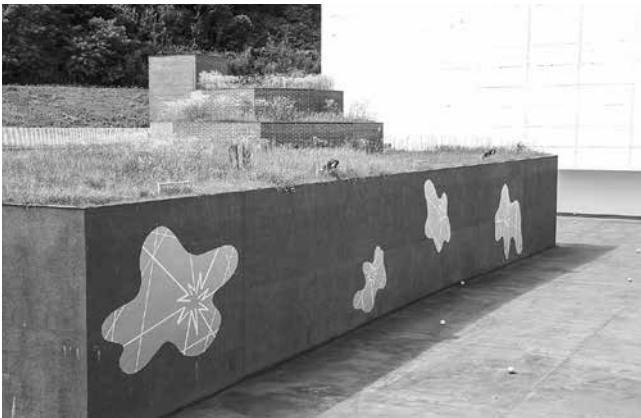
・part2 伊藤早樹子

8月30日（土） - 10月13日（月・祝）

休館日：9月8 - 12日（月 - 金）、29日（月）

イマイマスメロン

Matter Melon



伊藤早樹子展示「イマイマスメロン」

[いとう・さきこ]

1991 宮城県石巻市出身

2014 東北芸術工科大学芸術学部美術科テキスタイルコース
卒業

[グループ展]「アートアワードトーキョー丸の内 2014」
行幸地下ギャラリー / 東京京都市立芸術大学大学院美術
研究科彫刻専攻在学

【出品作】

《イマイマスメロン》

2014年

インスタレーション

○関連企画：アーティスト・トーク

日時：平成2014年10月5日（日）13:30 - 15:00

参加者との展示鑑賞後、これまでの制作活動や今回の展示に込めた思いなど、青森県立美術館学芸員主幹の工藤健志を聞き手

にトークが行われた。

・part3 永井天陽

10月18日（土） - 11月24日（月・祝）

休館日：10月27日（月）、11月10日（月）

北に歩いて南へ向かう

Walk to the north and meet in the south



永井天陽展示「北に歩いて南へ向かう」

[ながい・そらや]

1991 埼玉県飯能市出身

2013 [グループ展]「日韓国際交流展」(Sungsan Art Hall /
韓国、昌原)

2014 武蔵野美術大学造形学部彫刻学科卒業
武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻彫刻コース
在学

【出品作】

《北に歩いて南へ向かう》

2014年

インスタレーション

○関連企画：アーティスト・ワークショップ

「300と60、そして5日のカレンダー」

日時：2014年11月23日（日）13:30 - 16:00

月や曜日といった暦の既存の枠を外し、区切りを変えつつ、再び1年が365日になるように構成し、それぞれオリジナルの2015年カレンダーを作った。

・座談会

3名の参加アーティストとディレクターの奈良美智を招き、各作家の展示について意見交換が行われた。

日時：10月18日（土）14:00 - 15:30

会場：青森県立美術館スタジオ

参加者：宮川慶子、伊藤早樹子、永井天陽、奈良美智、高橋しげみ（青森県立美術館）



PHASE2014 座談会

・記録集

『PHASE 2014 記録集』

判型 B5 / 全 48 頁

編集：高橋しげみ（青森県立美術館）、

片山尊奈（青森県立美術館）、

青森オフセット印刷株式会社

写真：柿崎真子、青森県立美術館

翻訳：アレックス・クイーン

デザイン：山口潤（directionQ）

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行：青森県立美術館

発行日：2015年3月20日



PHASE2014 記録集

PHASE 2015

COMPANY: SECRETS OF NORTHERN JAPAN

カンパニー：ニッポン・北のヒミツ

平成 27 年度の PHASE でディレクターの奈良美智が参加アーティストとして選んだのは、フィンランドのデザインユニット COMPANY（カンパニー）。フィンランド人ヨハン・オリンと韓国人アーム・ソンの二人が 2000 年に設立し、ヘルシンキを拠点に活動する COMPANY は、デザイン大国フィンランドの若い世代を代表するデザイナーである。

近年、COMPANY は、フィンランドをはじめ、韓国、ロシアなど、世界各地の伝統工芸品を、独自の解釈と遊び心溢れる感覚でデザインし、あらたなプロダクトとして生まれ変わらせるシリーズ「シークレッツ Secrets」を行ってきた。このたびは、さまざまな工芸品を有する日本の北の地を舞台に、この「シークレッツ」シリーズを展開した。

平成 26 年から 27 年にかけて、宮城、山形、青森など東北を旅した COMPANY は、こけしや漆塗りなど、伝統工芸の優れた職人たちを訪れるとともに、豊かな自然や、人々の風習、暮らしぶりにも触れた。この旅を通じて深められた東北の風土や精神性に対する理解と、北の職人たちの手仕事に対する敬意の中から、オリジナリティあふれるさまざまなデザインが生み出

した。そして、それらのデザインは、東北とフィンランドといった国境を越えた北の職人たちの熟練した技の饗宴によって、繊細な美しさともくもりをもった作品に仕上げられていった。

人々の生活スタイルの変化や後継者の不足など、近年、伝統工芸を取り巻く状況は厳しさを増している。過去と現在を接続し、国境を軽やかに越える COMPANY の類まれなデザイン力によって実現された本プロジェクトは、東北の手仕事の可能性を広げることを目的としたものだった。

ディレクター：奈良美智（美術家）

展示作家：カンパニー / アーム・ソン & ヨハン・オリン

会場：青森県立美術館 八角堂、地下 2 階奈良美智展示室

会期：2015 年 8 月 1 日（土）－ 9 月 13 日（日）

* 休館日：8 月 24 日（月）

観覧料：無料

入場者数：9,387 人

特別協力・助成：フィンランド教育・文化省、フィンランドセンター

助成：フィンランド文化財団、フレ임・ヴィジュアル・アート・フィンランド、フィンランド芸術推進センター

協賛：EPSON

後援：フィンランド大使館



八角堂内の展示風景

・COMPANY からのメッセージ

2014 年の夏と 2015 年の冬、私たち COMPANY（カンパニー）は日本の北部を旅し、地域に古くから伝わる手工芸の職人たちに会いました。

日本が伝統に恵まれた手仕事の国であることは既に知っていましたが、今回の旅を通じてあらたに発見したことが一つありました。それは「精霊」です。

下北半島の恐山、津軽地方の川倉賽の河原地蔵尊、そしてこけし職人たちの仕事を通じて、「思い」というものが、悲しくも美しい目に見える姿をとって、普段の生活の中にとけ込んでいることを知ったのです。

そこで今回私たちは、伝統的な手仕事に基づいた新しい製品をデザインするだけでなく、それぞれの品の「精霊」をも創ることにしました。

「よき製品にはよき精霊が宿る」という私たち COMPANY の信念のもとに生み出される「精霊」たち。これらの「精霊」は、展覧会オープニングセレモニーの夕刻に、行進しながら作品の中に入って行くことでしょう。

「ニッポン・北のヒミツ」のために作られた全ての作品は、日本の北の人々の伝統、手仕事を「思い」からインスピレーションを受けて、COMPANY がデザインしました。大部分は日本の職人たちが地方の工場で作られたものですが、中にはフィンランドの手仕事の職人たちによって作られたものもあります。

青森県立美術館の館内では、過去に行ったプロジェクト「フィンランドのヒミツ」と「ロシアのヒミツ」のための作品も展示します。フィンランドから北方ロシアを通して日本へといたる北の地の伝統には、何か強い結びつきがあると感じています。

COMPANY / アーム・ソン & ヨハン・オリン 〇プロフィール

COMPANY はフィンランド人ヨハン・オリンと韓国人アーム・ソンが、2000年に設立したユニットで、デザイナー、アーティスト、プロデューサーとしてヘルシンキを拠点に活躍する。フィンランド国内のみならず、ロンドン・デザイン・フェスティバル(2011)やミラン・ファニチャー・フェア(2008)など、大規模な国際展にも参加。2007年からフィンランド、ロシアや韓国などさまざまな国に古くから伝わる手仕事に触発されながら、現代のデザインと伝統工芸との融合を試みるシリーズ「Secrets」を展開する。2010年には、フィンランドのデザインの分野で最も栄誉あるフィンランド国家デザイン賞を受賞。ヘルシンキ市内に、デザインしたプロダクトを販売する店舗「サラカウッパ Salakauppa」を運営する。

【出品作】

1. 森のきのこ

2015年

素材：カエデ、着色、真鍮、LED球

きのここけし：今晃（大館）

苔をイメージした津軽塗：三上優司（弘前）

[映像]「津軽塗の精霊」



出品作《森のきのこ》

2. フィンランド箆笥（たんす）

2015年

素材：林檎の木とトネリコ

制作：ルディ・メルツ（ロホヤ、フィンランド）

3. ローラー下駄

2015年

素材：桐、ボールベアリング、スチール製棒

制作：弘前で買った下駄をヨハン・オリンが加工

[映像]「フィンランドの木の精霊」／「ローラー下駄の精霊」

4. ①こけしスツールI

2015年

素材：日本産とフィンランド産のカエデ、着色

こけし：橋本恒平（東京／鶴岡）

天板・組立：プナヴォーレン・プーヘヴォネン

②こけしスツールII

2015年

素材：日本産とフィンランド産のカエデ、着色

こけし：五十嵐嘉行（鶴岡）

天板・組立：プナヴォーレン・プーヘヴォネン

[映像]「こけし仲間たちの精霊」

5. Tシャツはんでん

2015年

素材：久留米緋、詰め綿、綿布

制作：[はんでん] 原博子／宮田織物、久留米；[こけし久留米緋]

下川織物、久留米

パターンデザイン：カンパニー／アーム・ソン & ヨハン・オリン

[映像]「こけしの顔の精霊」

6. 作並の木

2015年

素材：日本産カエデ、着色

制作：平賀輝幸（作並）

[映像]「作並の木の精霊」

7. ①ろくろこけし

2015年

素材：日本産カエデ、綿の紐、着色

制作：今晃

②こけしの泉

2015年

素材：日本産とフィンランド産のカエデ、着色

こけし：五十嵐嘉行

漆塗り：三上優司

カエデ材のスツール：アルト・サーリネン（コルピアホ、フィ

ンランド)

③ブナコの木

2015年

素材：ブナ、ラッカー

制作：ブナコ（弘前）

制作（幹部分）：阿保六知秀（黒石）

[映像 Movie] 「ろくろの精霊」 / 「こけしの精霊」 / 「ブナコ
の精霊」

8. こけし家族

2015年

素材：日本産とフィンランド産のカエデ、着色

こけし：阿保六知秀

天板・底板・組立：プナヴォーレン・プーヘヴォネン

[映像] 「こけし家族の精霊」

※作品と映像の「精霊」のデザインはすべてカンパニー/アーム・
ソン & ヨハン・オリン

※映像の撮影はすべてヴィッレ・ヴァイニオ（ヘルシンキ、フィン
ランド）

※作品はすべてカンパニー蔵

9. ロシアのキオスク

2012年

ミクストメディア

作家蔵

* 青森県立美術館地下2階常設展示室内で展示



出品作《ロシアのキオスク》

・関連イベント

○前夜祭

日時：7月31日（金）16:30 - 17:30

場所：青森県立美術館八角堂

COMPANY や奈良美智氏をお迎えし、オープニングセレモニー
が行われた。また、今回展示されたプロダクトの精霊をイメージして
COMPANY がデザインした衣装に身を包んだ当館のボランティアによる
「精霊たちのパレード」が行われた。



前夜祭での「精霊たちのパレード」

○アーティストトーク

COMPANY からこれまでの活動や発表してきた作品について
プレゼンテーションがあった後、今回のプロジェクトについて、
特にプロダクトに宿る「精霊」をめぐる、奈良美智氏と
COMPANY の間でクロストークが行われた。

日時：8月1日（土）14:00 - 15:30

会場：青森県立美術館シアター

スピーカー：COMPANY、奈良美智

通訳：アレックス・クイーン

進行：高橋しげみ（青森県立美術館）

○公開デザインセミナー

講師のCOMPANYによる、彼らのデザインコンセプトや学生
時代の活動についてのトークの後、デザインを学ぶ県内の高校・
大学生による作品のプレゼンテーションが行われた。各校から
の発表を受けて、COMPANY から講評が行われた。

発表1 青森県立青森第一高等養護学校

「テイネイブランド ～ふにゃふにゃヤジルシ～」

発表2 八戸工業大学第二高等学校美術コース

「青森県南地区の観光ポスター」

発表3 八戸工業大学感性デザイン学科 ビジュアルデザイン
コース

「八幡馬のリデザインプロジェクト」

日時：8月2日（日）10:00 ~ 12:00

会場： A-FACTORY 2F ラウンジ

講師： COMPANY

発表校：青森県立青森第一高等養護学校、八戸工業大学第二高
等学校 美術コース、八戸工業大学 感性デザイン学科 ビジュアル
デザインコース

通訳：ラッセル・マロン



アーティストトーク

・記録集

『PHASE 2014 記録集』

判型 A4 / 全 48 頁

編集：高橋しげみ

写真：柿崎真子、青森県立美術館

翻訳（和文英訳、翻訳監修）：

アレックス・クイーン

英文和訳：高橋しげみ

デザイン：小田原 史典

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2016年1月31日



PHASE2015 記録集

青森 EARTH2015

みちの奥へ

開催概要

① 展覧会

津軽半島の3施設を会場に、土地の自然や民俗資料とのコラボレーションによる招へい作家3名の展覧会を実施。

会期：2015年8月28日（金）－9月23日（水・祝）

※下記の期間、青森県立美術館エントランスギャラリーにPRブースを設置

2015年8月1日（土）－9月13日（日）

開催日数：27日間

主催：青森県立美術館

会場：以下3会場

石川直樹作品展示会場＝大山ふるさと資料館（外ヶ浜町）

鴻池朋子作品展示会場＝県立自然ふれあいセンター、六角堂休憩所（梵珠山／青森市）

森永泰弘作品展示会場＝外ヶ浜町中央公民館（外ヶ浜町）

青森県立美術館

※常設展示室内での事業展開として、常設展示室内にて県立郷土館借用の「善知鳥（剥製）」を棟方志功作品《善知鳥板画巻》（1938）等の作品とともに展示。

入場料：無料

※美術館のみ一般510（410）円、高大生300（240）円

入場者数：計2,164人

※いずれも各施設職員や監視スタッフによる個別カウント

大山ふるさと資料館＝503名

外ヶ浜町中央公民館＝337名

県立自然ふれあいセンター、六角堂休憩所＝613名

青森県立美術館＝711名



夏の展覧会の様子

展覧会関連企画

(1) 一日でめぐる！「青森 EARTH2015」バスツアー

担当学芸員の案内で展覧会全会場をめぐるバスツアーを開催。

日時：2015年9月5日（土）10:00－17:00

参加者数：29名（30名定員）

参加無料・要事前申込



夏の展覧会の様子

(2) トークイベント「民話でひらく津軽半島の記憶」

『『そうぞう』（想像／創造）のアーカイヴとしての民話』を継承し、土地に回帰させるための試みとして、津軽半島に伝わる民話を「あおり民話かたりべの会」の方々の語りにより聴き、石倉敏明氏による民話解説を聴く会を開催。

日時：2015年9月11日（金）17:45－19:00

出演：石倉敏明（芸術人類学者／秋田公立美術大学アーツ＆ルーツ専攻講師）、あおり民話かたりべの会の方々

会場：青森県立美術館ワークショップA

参加者数：30名

入場無料・申込不要

② 3作家によるワークショップ「とる、ぬう、きく」

石川直樹ワークショップ

「石川直樹の写真塾」

太宰治の短編「魚服記」を読み合わせ、その世界観をもとに写真を撮影し、写真をもとに展示をつくるためのワークショップを実施。具体的には参加者が撮影してきた写真を講評する形で進行。

日時：2015年9月19日（土）、10月24日（土）、11月21日（土）各日 14:00 - 16:00
会場：外ヶ浜町中央公民館
参加者数：延べ50人（9月19日（18名）、10月24日（16名）、11月21日（16名））



秋の石川ワークショップの様子

鴻池朋子ワークショップ

「物語るテーブルランナー／青森編」

参加者から講師が思い出の物語を聞き取り、それを下絵に描く。それをもとに参加者はテーブルランナー（テーブルクロス的一种）を手芸で制作。ワークショップは講師と秋田の手芸教室「ハンズクラフト秋田」の方々により進行。

日時：2015年8月28日（金）13:00 - 15:00
9月17日（木）、12月12日（土）

【青森市コース】各日 10:00 - 12:00 【外ヶ浜町コース】各日 14:00 - 16:00

※上記公式日程に加え、下記日程でも参加者が美術館に自主的に集まり、制作を行った。

10月7日（水）、10月30日（金）、11月10日（火）、11月30日（月）、2016年1月16日（土）、2月6日（土）

会場：【青森市コース】青森県立美術館会議室 【外ヶ浜町コー



秋の鴻池ワークショップの様子

ス】外ヶ浜町中央公民館

参加者数：延べ83人（8月28日（13名）、9月17日（10名）、10月7日（5名）、10月30日（10名）、11月10日（6名）、11月30日（10名）、12月12日（8名）、1月16日（9名）、2月6日（12名））

森永泰弘ワークショップ

「善知鳥の伝説」

青森にかつて渡来していたといわれる渡り鳥「善知鳥」の民話を皆で読み込み、その物語の場に流れていたかもしれない音をイメージしながら現在の青森から音を採集するワークショップを実施。

日時：2015年10月25日（日）、11月29日（日）、12月6日（日）各日 14:00 - 16:00

会場：青森県立美術館ワークショップA、蟹田の海岸（外ヶ浜町）
※上記公式日程に加え、下記日程において参加者が自主的に集まり、制作を行った。

2016年1月16日（土）、2月20日（土）

参加者数：延べ21人（10月25日（5名）、11月29日（5名）、12月6日（4名）、1月16日（3名）、2月20日（4名））



秋の森永ワークショップの様子

③成果発表展示

参加者がワークショップで制作した作品を展示するとともに、講師による作品や、三内丸山遺跡（青森県教育庁文化財保護課）所蔵の縄文の遺物を組み合わせて展示し、青森に集い・住まう人が土地とつくる新しい青森のイメージの発生する現場を展示室内に制作。

会期：2016年3月12日（土） - 27日（日）

開催日数：16日間

主催：青森県立美術館

会場：展示室E

入場料：無料

入場者数：3,022人 ※監視スタッフによる個別カウント

成果発表展示関連企画

(1) 作品講評会&トークイベント

「みちの奥へ―《手ざわり》と《耳ざわり》をもとに」

「青森 EARTH2015」参加作家とワークショップ参加者による、制作された作品の講評会を開催。講評会終了後は作家によるトークイベントに移行。

日時：2016年3月12日（土）

13:00 - 15:00

出演：鴻池朋子、森永泰弘、各ワークショップ参加者

会場：展示室 E

参加者数：35名

入場無料・申込不要

(2) 担当学芸員によるギャラリートーク

日時：2016年3月19日（土）14:00 - 14:30

会場：展示室 E

参加者数：40名

入場無料・申込不要

企画解説

「青森 EARTH」は縄文に創造の原点をたずね、青森の大地 (EARTH) に根ざした新たなアート (ART) を発掘・発信していくプロジェクト・シリーズ。2012年から継続して実施。2015年度は3人の現代アーティストによる夏の津軽半島全域で展開した「展覧会」と、幅広い世代を対象とした秋の「ワークショップ」、アーティストとワークショップ参加者による作品と三内丸山遺跡の縄文資料を組合せて展示を行う冬の「成果発表展示」という3ステップによるプロジェクトとして実施された。

参加アーティストは石川直樹、鴻池朋子、森永泰弘の3名。石川は自身の「旅」を基点に独自の世界像をつかまえる写真家。鴻池は壮大な規模のインスタレーションで著名であり、近年では自身の故郷である秋田の土地に根ざした「美術館ロジックプロジェクト」などを運営するアーティスト。森永はアジアを基点に土着の音を採集しながら、自身の音楽作品の制作に取り組むサウンドデザイナー。それぞれが用いる写真、縫い物、伝承音楽はいずれも過去、美術の歴史において傍流とされ、埋もれてきたメディアであり、この3分野をもとに企画を展開することで、より多様な芸術のあり方・楽しみ方があることを発信し、「作者」や「鑑賞者」といった従来の立場とは異なるアートの実践の仕方を発信・発信する機会とすることを試みた。

夏の展覧会では美術館を始めとした大山ふるさと資料館、外ヶ浜町中央公民館での民俗資料や考古資料とともに各アーティストの展示を行い、アーティスト紹介の機会であるとともに、津軽半島の豊かな自然／文化との共（競）演の力場をつくった。秋のワークショップは各講師とも小学生から高齢者の方まで、幅広い世代の参加があった。そして一人の作家に帰結しがちな従来の「作品」を共有することを通じて更新させ、一つの「作品」として成立しつつも万人に対してひらかれ得るような価値



冬の成果発表展示の様子

や関係性を生み出す現場として機能した。以上の展覧会とワークショップの成果の紹介のため、成果発表展示ではモノをつくる時に生まれる心の動きや背景を考察するため、展示会場にはワークショップ参加者に加え、参加アーティストの作品と、三内丸山遺跡出土の道具制作のための遺物（砥石や削器等）を併置し、複数のモノが過ごしてきた意識と時間、即ち「地域住民」「アーティスト」「縄文」「現代」を併存させる空間を作成した。地域と人に根ざした「青森」イメージが紡がれ続ける現場をつくり、その現場に人が集うことで、地域でのアート実践の可能性を誘発させる空間とすることが意図された。

半年かけて進行された本企画が考察において重要なのが「人はなぜモノをつくるのか」「制作と場所の関係とは」といった点にある。津軽半島全域で、そして県域を越えた事業展開の結果、人が存在してものをつくる限り、根づき得る場所は、どこにでもひらかれ得るものだということを検証することができ、青森への「根ざし方」に今までとは異なる視点を導入し、更新させることにつなげることができた。



ポスター

学芸

美術資料収集

美術資料貸出状況

作品保存修復

凡例

- 1 「美術資料収集」における作品データは、作家名、作品名、制作年、寸法（高さ×縦×横、cm）、技法、収集区分の順に記した。
- 2 「美術資料貸出状況」における作品データは、作家名、作品の順に記した。

美術資料収集

平成 27 年度収集美術資料

今純三 作品名不詳（男性像 眼鏡） 制作年不明 7.7 × 7.4 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 庭園図 1937 18.8 × 28.7 紙・銅版	今純三 作品名不詳（制服の男性） 1930 10.2 × 8.7 紙・銅版	今純三 関野準一郎像 1936 9.5 × 7.4 紙・銅版
今純三 作品名不詳（娘像左向き） 制作年不明 13.0 × 6.0 紙（郵便ハガキ）・平版	今純三 作品名不詳（女性像） 1929 年？ 11.0 × 5.6 紙（郵便ハガキ）・平版	今純三 作品名不詳（男性像） 制作年不明 10.8 × 6.5 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 関野君横顔 1937 12.2 × 8.6 紙（郵便ハガキ）・平版
今純三 作品名不詳（娘像右向き） 制作年不明 12.2 × 6.6 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 作品名不詳（娘像 読書） 1930 10.3 × 7.6（プレートマーク） 紙・銅版	今純三 作品名不詳（男性像） 制作年不明 11.5 × 8.7 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 鳥 1932 年頃（或いは 24 年頃） 11.9 × 11.5 紙（郵便ハガキ）・木版
今純三 作品名不詳（睡蓮） 制作年不明 6.2 × 8.7 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 魚 1934 年頃 9.0 × 15.4 紙・平版（青）	今純三 作品名不詳（男性像） 制作年不明 8.5 × 7.0 紙（郵便ハガキ）・平版	今純三 夜 1930 6.6 × 9.2 紙・銅版
今純三 作品名不詳（木立と家） 制作年不明 6.6 × 9.1 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 山羊 1931 年頃 8.0 × 8.4 紙・木版	今純三 案山子（ジンク版） 1930 12.0 × 8.0 紙・銅版	今純三 作品名不詳（松と建物） 制作年不明 7.1 × 12.0 紙・平版、手彩色？
今純三 しゃこ 1930 5.4 × 9.1 紙・銅版	今純三 エッチング 制作年不明 6.6 × 10.4 紙・銅版	今純三 作品名不詳（男性像 帽子） 制作年不明 8.6 × 6.1 紙・銅版	今純三 自画像 1931 年頃 9.1 × 6.7 紙・木版
今純三 作品名不詳（山岳風景） 制作年不明 12.2 × 9.7 紙・銅版	今純三 港の元旦 1932 年頃 13.0 × 16.5 紙・平版	今純三 作品名不詳（娘像 座像） 制作年不明 13.0 × 8.0 紙（郵便ハガキ）・平版	今純三 自画像 1943 10.0 × 7.6 紙（郵便ハガキ）・平版
今純三 小雨荘蔵書票 1937 3.7 × 4.6 紙・銅版	今純三 松笠細工 1932 19.3 × 12.7 紙・技法不明	今純三 戦時中の関野君 1942 10.2 × 8.0 紙（郵便ハガキ）・平版	今純三 作品名不詳（松並木と馬槽） 1937 20.5 × 14.0 紙・銅版
今純三 作品名不詳（純一郎像？） 制作年不明 7.3 × 7.4 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 オンドリ 1932 年頃 9.5 × 7.3 紙・技法不明	今純三 関野氏の像 1933 年頃 11.5 × 9.7 紙・平版	今純三 田舎の子供（次女ミキ） 1931 年頃（1933） 12.7 × 8.2 紙・木版

今純三 風景 1933年頃 11.0×13.8 紙・木版	今純三 作品名不詳（純一郎像？） 制作年不明 7.5×3.6 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 奥入瀬溪流連作より「溪流（大滝付近（一）」 1936 24.0×34.5 紙・銅版	創作版画小品集「年中行事ネブタ」1、子供のネブタいろいろ 7.0×11.5 紙（郵便ハガキ）・銅版
今純三 竹内氏肖像 1937 18.3×13.9 紙・銅版	今純三 作品名不詳（節夫人横顔） 1936 13.2×12.5 紙・平版	今純三 千両岩付近 1936 17.2×24.0 紙・銅版	創作版画小品集「年中行事ネブタ」2、人形ネブタ運行の図 7.0×12.7（プレートマーク） 紙（郵便ハガキ）・銅版
今純三 風景 1938 12.5×9.2 紙・銅版	今純三 作品名不詳（娘胸像） 1936 12.5×10 紙・平版	今純三 奥入瀬溪流連作より「阿修羅の流れ」 1935 23.8×35.0 紙・銅版	創作版画小品集「年中行事ネブタ」3、ネブタ連合運行の夜景 5.9×12.2 紙（郵便ハガキ）・銅版
今純三 I氏の像 1932 16.3×11.1 紙（郵便ハガキ）・平版	今純三 純一郎 1935 11.1×7.7 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 奥入瀬溪流連作より「溪流（山小屋）」 1933 24.0×34.6 紙・銅版	今純三 創作版画小品集「海の展望」 1936 創作版画小品集「海の展望」2、東郡野内より青森港遠望 5.5×12.2 紙（郵便ハガキ）・平版
今純三 スロープ遠望（津軽新城） 1932 11.3×22.2 紙・平版	今純三 岩木山 1932 10.3×18.2 紙・銅版	今純三 立てる少年像 1924 18.0×8.5 紙・銅版	創作版画小品集「海の展望」3、善知鳥崎、湯ノ島、夏泊半島 6.8×12.8 紙（郵便ハガキ）・平版
今純三 湯の島遠望（青森市郊外久栗坂より） 1939 17.7×15.7 紙・銅版	今純三 凹版画技法の六種類 1943年頃 11.6×7.5 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 静物（バラ） 1924 18.0×11.9 紙・銅版	今純三 創作版画小品集「初冬の街頭スケッチ」 1936 創作版画小品集「初冬の街頭スケッチ」2、露店風景 11.3×7.6 紙（郵便ハガキ）・平版
今純三 メッセージカード（富士山） 制作年不明 (7.7×13.0) 紙・銅版	今純三 楠公銅像 1943年頃？ 30.0×20.8 紙・平版	今純三 大震災風景（バラック小屋） 1923 12.0×18.1 紙・銅版	創作版画小品集「初冬の街頭スケッチ」3、路行く人のさまざま 1936 12.4×7.4 紙（郵便ハガキ）・平版
今純三 作品名不詳（街道を行く二人の人物） 制作年不明 17.4×11.5 紙・銅版	今純三 おでんや 1933年頃 8.2×12.2 紙・木版	今純三 風景（雪景） 1935 13.3×19.8 紙・銅版	今純三 創作版画小品集「山の眺望」 1936
今純三 男（浜田正二） 制作年不明 12.0×12.3 紙・銅版	今純三 大震災風景（焼けたる樹） 1923 12.0×8.9 紙・銅版	今純三 測候所 1930 16.0×35.7 紙・木版	創作版画小品集「山の眺望」1、酸湯温泉より岩木山を望む 6.3×10.0 紙（郵便ハガキ）・銅版
今純三 純一郎 制作年不明 8.0×6.3（プレートマーク） 紙（郵便ハガキ）・銅版	今純三 作品名不詳（八甲田山系） 制作年不明 12.4×20.0 紙・銅版	今純三 弘前城 1931 24.5×17.0 紙・木版	創作版画小品集「山の眺望」3、青森市東部より見たる八甲田山 4.6×12.2 紙（郵便ハガキ）・銅版
今純三 習作（ジंक版） 1935 9.5×8.0 紙・平版	今純三 松尾鉦山 1937 26.2×20.9 紙・銅版	今純三 創作版画小品集「年中行事ネブタ」 1936	今純三 創作版画小品集「春の風景」 1936 創作版画小品集「春の風景」1、富士見橋畔橋畔にて（弘前市） 7.8×13.0 紙（郵便ハガキ）・平版

創作版画小品集「春の風景」3、路上点景 (草花屋その他) 13.0 × 7.8 紙 (郵便ハガキ)・平版	関野準一郎 ニコライ堂 (聖堂) 1950 23.5 × 32.0 紙・銅版	関野準一郎 舞坂「東海道五十三次 31」 1969 32.0 × 46.0 紙・木版	関野準一郎 函館ハリストス 1976 33.0 × 46.0 紙・木版
今純三 創作版画小品集「青森市内スケッチ」2、街頭風景 (乗合馬車) 1936 10.6 × 7.5 紙・銅版	関野準一郎 郊外の景 1948/50 28.2 × 36.0 紙・銅版	関野準一郎 三島「東海道五十三次 12」 1969 33.0 × 46.0 紙・木版	関野準一郎 津軽金木 1976 32.9 × 46.2 紙・木版
今純三 青森県画譜 1033-34 26.5 × 38.5 (紙寸)	関野準一郎 椿 1952 年頃 29.4 × 20.0 紙・銅版	関野準一郎 伏見稲荷 (ローソク) 1971 19.8 × 29.5 紙・木版	関野準一郎 奥尻島 1976 33.0 × 46.0 紙・木版
佐藤米次郎 風景 (仁川郷土館から見た仁川閣) 1943 21.9 × 29.3 紙・木版	関野準一郎 朝の浴泉 1952 年頃 19.3 × 29.7 紙・銅版	関野準一郎 保土ヶ谷「東海道五十三次 5」 1972 32.0 × 46.0 紙・木版	関野準一郎 日本海鯨ヶ沢 1976 33.0 × 46.0 紙・木版
田村清 郊外風景 1935 18.5 × 24.3 紙・木版	関野準一郎 雪の摺上川 1952 20.3 × 31.0 紙・銅版	関野準一郎 京細雨 1972 45.0 × 65.0 紙・木版	関野準一郎 桜島 (九州) (金箔) 1976 33.0 × 46.0 紙・木版
松木満史 わらしこ 1928 10.2 × 13.0 紙・木版	関野準一郎 水晶の番人 1952 27.4 × 20.2 紙・銅版	関野準一郎 京都「東海道五十三次 55」 1973 32.0 × 46.0 紙・木版	関野準一郎 龍飛崎 1976 46.8 × 65.4 紙・木版
松木満史 裸婦 1932 14.5 × 9.7 紙・木版	関野準一郎 赤い風車 新宿 1951 21.4 × 34.2 紙・銅版	関野準一郎 出を待つ (琉球舞踏家佐藤太主子像) 1973 70.0 × 47.0 紙・木版	関野準一郎 風蓮湖 1977 33.0 × 46.0 紙・木版
武藤完一 作品名不詳 (石仏) 制作年不明 15.3 × 12.9 紙・銅版	関野準一郎 生活の背景の花 1952 年頃 29.7 × 22.0 紙・銅版	関野準一郎 梅尾 1974 33.0 × 46.0 紙・木版	関野準一郎 木曾路 (奈良井) 1977 33.0 × 46.0 紙・木版
関野準一郎 関野準一郎旧蔵資料一式	関野準一郎 結晶と鳩 1952 年頃 29.0 × 19.5 紙・銅版	関野準一郎 新宿「東海道五十三次」表紙 1974 32.0 × 46.0 紙・木版	関野準一郎 赤坂見附 1977 33.0 × 46.0 紙・木版
関野準一郎 堤川工事場 1938 35.8 × 46.5 紙・銅版	関野準一郎 赤坂「東海道五十三次 37」 1963 32.0 × 46.0 紙・木版	関野準一郎 夏の花 1974 73.4 × 46.8 紙・木版	関野準一郎 不知火海 1978 33.0 × 46.0 紙・木版
関野準一郎 波太の春 1942 74.4 × 53.5 紙・木版	関野準一郎 桑名「東海道五十三次 43」 1964 33.0 × 46.0 紙・木版	関野準一郎 糸満にての自画像 1975 50.0 × 71.0 紙・木版	関野準一郎 三千院 1980 57.1 × 86.1 紙・木版

関野準一郎 ゴムの花 (別府) 1981 34.0 × 46.0 紙・木版	関野準一郎 ウジェーヌ・ダビの宿 1986 49.0 × 60.0 紙・木版	「花物語」より 3月 こぶし (太海) 1973-74年頃 20.4 × 21.0 紙・木版	関野準一郎 裸婦 (『少年画集』出版記念) (1958) 1981 18.5 × 13.8 紙 (色紙)・銅版
関野準一郎 万歴赤絵の牡丹 1981 68.0 × 41.0 紙・木版	関野準一郎 作品名不詳 (旧日本橋) 制作年不明 32.5 × 46.2 紙・木版	「花物語」より 4月 桜 (弘前) 1973-74年頃 21.6 × 20.9 紙・木版	関野準一郎 巻毛 (『少年画集』出版記念) (1958) 1981 15.9 × 9.7 紙・木版
関野準一郎 平泉 (中尊寺)「奥の細道29」 1983 33.2 × 45.4 紙・木版	関野準一郎 作品名不詳 (銅版 非具象) 制作年不明 11.7 × 8.0 紙・銅版	「花物語」より 5月 春の花 1973 21.7 × 20.9 紙・木版	関野準一郎 軽井沢 制作年不明 21.8 × 20.9 紙・木版
関野準一郎 肅衣裸婦 1983 59.0 × 89.0 紙・木版	関野準一郎 作品名不詳 (人物と植物モチーフの組み合わせ) 制作年不明 17.1 × 12.1 紙・木版	「花物語」より 6月 麦秋 1973-74年頃 20.3 × 21.1 紙・木版	関野準一郎 八甲田と風 制作年不明 39.8 × 27.6 紙・木版
関野準一郎 最上川 (戸沢)「奥の細道36」 1984 30.1 × 45.5 紙・木版	関野準一郎 版画集「陸奥の四季」 1980 紙・木版	「花物語」より 7月 ヒヤシンス (カサ プランカ) 1973-74年頃 20.7 × 21.2 紙・木版	関野準一郎 「裸婦と女優」表紙画 1984 25.0 × 35.4 紙・木版
関野準一郎 三春 (デコ屋敷)「奥の細道17」 1984 33.4 × 45.5 紙・木版	「陸奥の四季」より 常磐八幡宮 32.4 × 45.4 紙・木版	「花物語」より 8月 日照草 1973-74年頃 23.8 × 21.0 紙・木版	関野準一郎 西の市・お福 制作年不明 27.1 × 24.1 紙・木版
関野準一郎 瑞巖寺 (洞窟遺跡)「奥の細道27」 1984 33.0 × 45.7 紙・木版	「陸奥の四季」より 弘前城 33.0 × 46.0 紙・木版	「花物語」より 9月 曼珠沙華 1973 21.7 × 21.0 紙・木版	関野準一郎 西の市・お福 制作年不明 27.1 × 24.1 紙・木版
関野準一郎 草加 (松原)「奥の細道8」 1985 33.3 × 45.4 紙・木版	「陸奥の四季」より 奥入瀬 33.0 × 46.0 紙・木版	「花物語」より 10月 葵 1973-74年頃 21.0 × 21.0 紙・木版	関野準一郎 西の市・お福 制作年不明 27.1 × 24.1 紙・木版
関野準一郎 両国 (花火)「奥の細道3」 1985 45.3 × 33.4 紙・木版	「陸奥の四季」より 青森駅 32.4 × 45.8 紙・木版	「花物語」より 11月 蕪 (浅虫) 1973 23.9 × 21.0 紙・木版	関野準一郎 作品名不詳 (舞妓) (1987?) 27.2 × 24.1 紙・木版
関野準一郎 深川 (隅田川)「奥の細道2」 1985 33.6 × 45.3 紙・木版	関野準一郎 花物語 1973/7月-74/6月 紙・木版	「花物語」より 12月 山茶花 (ヴェネチア) 1973-74年頃 22.0 × 21.0 紙・木版	関野準一郎 作品名不詳 (1981?) 23.8 × 26.3 紙・木版
関野準一郎 夜の運河 1986 50.0 × 65.0 紙・木版	「花物語」より 1月 紅梅白梅 1974 21.4 × 20.9 紙・木版	関野準一郎 瀬戸内海 御手洗港 (大崎下島) 1983 25.2 × 36.6 紙・木版	関野準一郎 作品名不詳 (『曼荼羅屏風 版画の鬼』屏風 の中の1点。八甲田山の下を走る蒸気機関車) (1981?) 15.2 × 19.2 紙・木版
	「花物語」より 2月 鬼灯 1973-74年頃 21.6 × 21.0 紙・木版		関野準一郎 作品名不詳 制作年不明 14.0 × 9.4 紙・木版

関野準一郎 カルセオラリア 1982 27.0 × 24.2 紙・木版	川上澄生 「東京回顧図会」より 九段大鳥居 18.3 × 25.8 紙・木版	関野準一郎 版画集「女」より 作品名不詳（舞妓） 1975 45.8 × 34.7 紙・木版	山中現 空の夢Ⅰ 1989 53.7 × 37.0 紙・木版
関野準一郎 花物語 4月 桜（弘前） 1970 20.5 × 21.0 紙・木版	前田政雄 「東京回顧図会」より 帝大赤門 18.5 × 24.4 紙・木版	田村文雄 版画集「女」より 作品名不詳（裸婦等） 1975 40.0 × 31.0	山中現 浜辺の夢 1989 47.8 × 33.5 紙・木版
関野準一郎 作品名不詳（人物） 制作年不明 15.0 × 10.9 紙・木版	斎藤清 「東京回顧図会」より 浅草観音堂 18.5 × 24.6 紙・木版	野間伝治 版画集「女」より 蝶と花 1975年頃 32.2 × 25.2 紙・銅版	阿部合成 グァダルッペの祭り 1961 48.5 × 87.0 板・油彩
関野準一郎 作品名不詳（人物） 制作年不明 15.0 × 10.9 紙・木版	恩地孝四郎 「東京回顧図会」より 上野動物園 18.3 × 24.6 紙・木版	深沢幸雄 版画集「女」より 哀愁（メヒコ） 1975 32.0 × 25.0 紙・銅版	阿部合成 阿部合成関連資料（画集と年賀状） 松木満史 スイトビー 36.8 × 23.7 板・油彩
関野準一郎 作品名不詳（油彩風景） 制作年不明 13.0 × 17.8 板・油彩	山口源 「東京回顧図会」より 芝増上寺 18.2 × 24.0 紙・木版	吉田穂高 版画集「女」より 作品名不詳（女性と柱、円等） 1975 44.4 × 34.9 紙・木版	鷹山宇一 花鳥色紙 10点 1955年頃 各 22.0 × 18.0 紙・水彩
関野準一郎 関野準一郎関連資料一式	関野準一郎 「東京回顧図会」より 赤坂見附弁慶橋 18.0 × 23.8 紙・木版	蘭繁之／編 版画鑑賞会作品集 上下巻 1980/05/01 紙・木版	下澤木鉢郎 寺崎治郎氏所蔵資料 下澤木鉢郎 ① 「目屋風景 素描と句」（本）
恩地孝四郎／編 博物譜 1950 14.5 × 11.5 × 2.4 紙・木版	平塚運一 「東京回顧図会」より 数寄屋橋 18.3 × 24.3 紙・木版	関野洋作 牡丹 1997 46.0 × 33.7 紙・木版	下澤木鉢郎 ② 「方尺の空 木鉢郎句集」（本）
日本版画協会同人連作 東京回顧図会 1945 紙・木版	川上澄生 「東京回顧図会」より 夜の銀座 18.3 × 24.1 紙・木版	関野洋作 薔薇 1989 63.7 × 488.8 紙・木版	下澤木鉢郎 ③ 「緑の苗豆本第98集 津軽」（本、寺崎治郎氏宛書簡付き）
恩地孝四郎 「東京回顧図会」より 二重橋 18.8 × 24.8 紙・木版	畦地梅太郎 「東京回顧図会」より 泉岳寺墓所 18.0 × 24.3 紙・木版	関野洋作 高秋 1994 84.6 × 50.2 紙・木版	下澤木鉢郎 ④ ハガキ 墨画、素描 9枚（寺崎治郎氏宛書簡付き）
平塚運一 「東京回顧図絵」より 赤坂離宮 18.3 × 24.3 紙・木版	前川千帆 「東京回顧図会」より 本所工場地帯 18.0 × 24.1 紙・木版	橋本興家 菖蒲 花連作の内 1974 59.8 × 48.8 紙・木版	下澤木鉢郎 ⑤ 「磯良河童大神」（板画・札）
山口源 「東京回顧図会」より 明治神宮 18.2 × 24.5 紙・木版	前川千帆 「東京回顧図会」より 新宿の夜 18.1 × 24.1 紙・木版	下澤木鉢郎 ⑥ 「句集雪景色」（本）	下澤木鉢郎 ⑦ 「みちのくの句」（本）
恩地孝四郎 「東京回顧図会」より 東京駅 24.5 × 18.6 紙・木版	版画集「女」 1975年頃	下澤木鉢郎 ⑧ 「句と板画 越後路」（本）	下澤木鉢郎 ⑨ 「横の実 句 中島杏子、画 下澤木鉢郎」（色紙）
	小林ドンゲ 版画集「女」より 作品名不詳（女性と蝶） 1975年頃 32.6 × 23.8（プレートマーク） 紙・銅版	山中現 石の夢Ⅰ 1989 21.2 × 32.7 紙・木版	

下澤木鉢郎

⑩ 水彩画

23.3 × 25.5

紙・水彩

下澤木鉢郎

⑪ 水彩画色紙

27.2 × 24.0

紙・水彩

下澤木鉢郎

⑫ 木版画色紙

27.2 × 24.0

紙・水彩

古藤正雄

石膏原型 石楠花

1985

168.0 × 59.0 × 48.8

石膏

古藤正雄

石膏原型 弦月

1978

149.0 × 25.0 × 62.5

石膏

古藤正雄

石膏原型 神亀

1978

98.0 × 6.00 × 57.0 (岩)、

86.0 × 37.0 × 24.0 (亀)

石膏

古藤正雄

石膏原型 山崎岩男氏胸像

1963

46.0 × 30.0 × 21.0

石膏

美術資料貸出状況

高松次郎 制作の軌跡

貸出先

・国立国際美術館

展示施設（会期）

・国立国際美術館（2015/4/7 - 7/5）

貸出点数：2

作品名

・高松次郎「点 No.11」

・高松次郎「点 No.20」

棟方志功

萬鉄五郎に首ったけ展

貸出先

・萬鉄五郎記念美術館・茅ヶ崎市美術館

展示施設（会期）

・萬鉄五郎記念美術館

（2015/7/4 - 8/30）

・茅ヶ崎市美術館

（2015/9/6 - 11/3）

貸出点数：28

作品名

・棟方志功「美魅寿玖と自画像」

・棟方志功「少女のスケッチ」

・棟方志功「日神の柵」

・棟方志功「日出の柵」

・棟方志功「火の願い」

・棟方志功「挿頭花板画集（16枚）」

・棟方志功「ピタゴラス（蔵書票）」

・棟方志功「賊火の柵」

・棟方志功「大和し美し 矢燕の柵」

・棟方志功「女人十二ヶ月（7月俵壺妃の柵）」

・棟方志功「貴理寿渡の柵」

・棟方志功「大和し美し」

・棟方志功「日没の柵」

・棟方志功「コスモス自画像の柵」

・棟方志功「歌舞伎版画動進帳」

・棟方志功「シラノ版画帝劇二月興業」

・棟方志功

「自画像（長頬の柵、筆くわいの柵、杓アゴの柵、くりぐりの柵）」

・棟方志功「ロートレックと自画像」

・棟方志功「奥入瀬溪流」

・棟方志功「鷺囀の柵」

・棟方志功「勝鬘譜善知鳥版画曼陀羅」

・棟方志功「大印度の花の柵」

・棟方志功「桃真盛り」

・棟方志功「青森山之神図」

・棟方志功「山田順造氏像」

・棟方志功「雪国風景図」

・棟方志功「八甲田山麓図」

・棟方志功「雑山房主人像図」

青の時間—佐野ぬいの世界展

貸出先

弘前市立博物館

展示施設（会期）

・弘前市立博物館（2015/7/11 - 8/23）

貸出点数：8

作品名

・佐野ぬい「オペラ・ノート」

・佐野ぬい「青の構図」

・佐野ぬい「くるまの唄」

・佐野ぬい「予告」

・佐野ぬい「様式のラッキョーグリーン」

・佐野ぬい「ブルーノートの領域」

・佐野ぬい「午後のダイアリー」

・佐野ぬい「不定形のアングル」

横尾忠則 続・Y字路

貸出先

・横尾忠則現代美術館

展示施設（会期）

・横尾忠則現代美術館

（2015/8/8 - 11/23）

貸出点数：1

・横尾忠則「青〇の魔人」

道立文学館開館20周年

没後50年 文豪・谷崎潤一郎 —愛と美を求めて—

貸出先

・北海道立文学館

展示施設（会期）

・北海道立文学館（2015/9/19 - 11/15）

貸出点数：1

・棟方志功「癩癩老人日記板画柵」

恩地孝四郎展

貸出先

・東京国立近代美術館・和歌山県立近代美術館

展示施設（会期）

・東京国立近代美術館

（2016/1/13 - 2/28）

・和歌山県立近代美術館

（2016/4/29 - 6/12）

貸出点数：3

・恩地孝四郎「Poème No.9 海」

・恩地孝四郎「Image No.6 母性（3）」

・恩地孝四郎「Lyrique No.11 回想の中で」

第Ⅳ期展示 耽美文学の世界 —吉井勇、谷崎潤一郎作品を 中心に

貸出先

・一般財団法人 棟方志功記念館

展示施設（会期）

・一般財団法人 棟方志功記念館

（2015/12/1 - 3/13）

貸出点数：1

作品名

・棟方志功「癩癩老人日記板画柵」

作品保存修復

保存管理

展示・保管している美術資料の公開と保存を両立させるため、温湿度等の空調や照度の調整、粉塵・有害ガス・虫菌害等の定期的な環境調査の実施などにより展示・収蔵環境を管理している。また、日常的な点検に基づき、必要に応じて収蔵作品等のマット装や表装・額装の改善、保存箱の作成、専門家による調査・保存処置等を行った。さらに、基本データの整理、写真撮影による画像データの記録をおこなった。

教育普及

普及プログラム

スクールプログラム

サポートスタッフ

メンバーシッププログラム

平成 27 年度 普及プログラム

1 こども（親子）プログラム

（1）成田亨展「親子ギャラリーツアー」

成田亨展を親子で楽しむことができるよう、展覧会の概要と見どころを紹介するギャラリーツアーを行った。あわせて、美術館・アレコホールの施設紹介も行い、美術館という建物の魅力についても伝えた。

講師：青森県立美術館スタッフ

開催日時：5月2日（土）－6日（水）5回

各日 14:00－14:30

場所：青森県立美術館企画展示室ほか

参加者数：82人



親子ギャラリーツアー（成田展）

（2）化け物展「こどもギャラリーツアー」

小学生以上を対象に、化け物展を楽しく鑑賞できるようギャラリーツアーを行った。

講師：青森県立美術館スタッフ

日時：8月16日（日）、23日（日）2回

各日 14:00－14:30

場所：青森県立美術館企画展示室

参加者数：38人

2 一般プログラム

（1）県美土曜ゼミ

美術作品の解説に止まらず、社会のあらゆるジャンルとの関わり、様々な視点から「美術とは何か」を参加者と美術館スタッフがディスカッションを重ね、考えるゼミ形式の講座を4月から2月まで月1回開催した。

なお、美術館が休館となった10月から2月までは、青森市民図書館との連携企画として、同館を会場に、青森の美術などに関する蔵書を取り上げ、その内容に沿った解説を行った。

時間：各日 13:30－15:00

① 4月11日（土）

成田亨展関連企画 展覧会担当学芸員トークショー

② 5月9日（土）成田亨展関連企画 記念講演会（榎木野衣氏）

③ 6月13日（土）七尾謙次郎の版画について

④ 7月11日（土）青森EARTHについて

⑤ 8月8日（土）PHASE2015・COMPANY

⑥ 9月12日（土）化け物展

⑦ 10月17日（土）

「人間失格」（太宰治作）～太宰治と青森の美術家たち～

⑧ 11月21日（土）



県美土曜ゼミ③



県美土曜ゼミ⑥

「寺山修司劇場美術館」(寺山修司作)～そのイメージの源泉～

⑨ 12月19日(土)

「板極道」(棟方志功作)～棟方志功の生涯と仕事～

⑩ 1月16日(土)

「鍵」「癡癡老人日記」(谷崎潤一郎作)～棟方志功と文学～

⑪ 2月20日(土)

「修羅の画家」(針生一郎作)～修羅の画家・阿部合成～

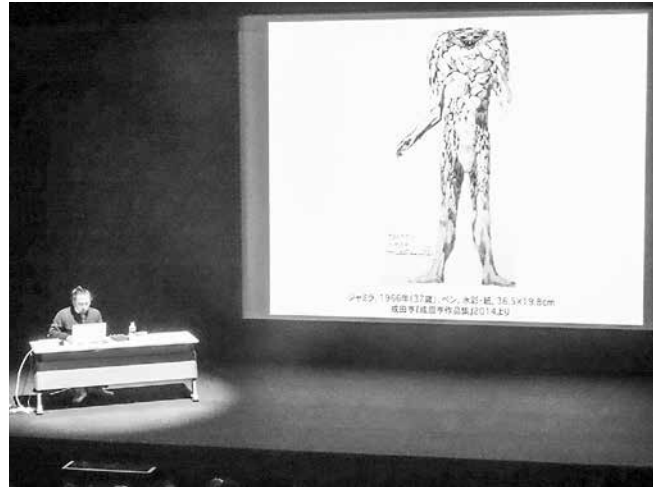
参加者数：295人



県美土曜ゼミ⑩

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：120人



成田展記念講演会② 村上隆氏

(4) 成田亨展映画上映会「麻雀放浪記」

成田亨がオープニングの撮影を手がけた本作品を上映した。

日時：5月5日(火・祝) 10:00 - 11:49 / 13:30 - 15:19

会場：青森県立美術館シアター

参加者数：50人

(5) 成田亨展ギャラリートーク

担当学芸員が、成田亨展において作品等の解説を行った。

講師：工藤健志(青森県立美術館美術企画課 学芸主幹)

日時：5月24日(日)、31日(日) 各日 14:00 - 15:00

場所：青森県立美術館企画展示室

参加者数：67人

(6) 常設展ギャラリートーク

当館職員が、奈良美智、シャガール等の当館主要コレクションや建築・シンボルマークといった青森県立美術館ならではの魅力を20分程度で解説した。

日時：4月18日(土)、25日(土)、5月9日(土)、23日(土)、6月13日(土)、27日(土)、



常設展ギャラリートーク

3 展覧会関連プログラム

(1) 成田亨展記念講演①

長年に渡り成田亨氏と苦楽をともにした夫人の流里氏とご子息カイリ氏を迎え、同氏と芸術について、家族ならではのエピソードを交えながらの講演を開催。

講師：成田流里(成田亨夫人)、成田カイリ(成田亨ご子息・俳優)

日時：4月12日(日) 14:00 - 16:00

場所：青森県立美術館シアター

参加者数：100人

(2) 成田亨展関連企画「県美ワークショップ in 浅虫水族館～水族館でオリジナル怪獣をデザインする～」

水族館を会場に怪獣をデザインするワークショップを開催、水族館のいきものをテーマに、成田亨のコンセプトに基づいた怪獣デザイン画制作を行った。

日時：4月18日(土) 10:00 - 11:30

会場：浅虫水族館

参加者数：26人

(3) 成田亨展記念講演②

世界を舞台に活躍中のアーティスト・村上隆氏に、最も影響を受けた芸術家の一人として挙げる成田亨氏の芸術の神髄について語ってもらった。

講師：村上隆

日時：4月25日(土) 14:00 - 15:30

7月11日(土)、25日(土)、8月22日(土)、29日(土)、
9月12日(土)、
各日13:30 - 13:50
場所：青森県立美術館常設展示室他
参加者数：75人

(7) PHASE2015 アーティストトーク
美術家・奈良美智氏がピックアップするフィンランドのデザイン
ユニットCOMPANY(カンパニー)を迎え、奈良氏と
COMPANYによるトークショーを行った。
トーカー：COMPANY(デザインユニット)
奈良美智(美術家)
日時：8月1日(土)14:00 - 15:30
会場：青森県立美術館シアター
参加者数：112人

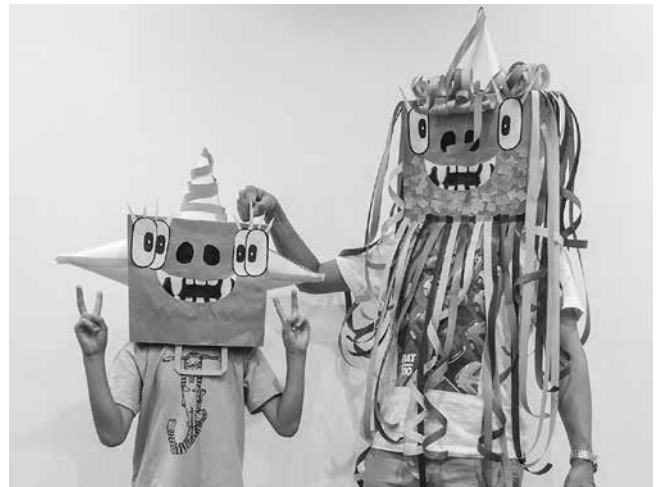
(8) PHASE2015 公開デザインセミナー
COMPANYとモノづくりを学ぶ高校・大学生たちが互いの活
動を発表し合い、デザインを通じて交流した。
日時：8月2日(日)10:00 - 12:00
会場：A-FACTORY 2F ラウンジ
参加者数：56人



PHASE 公開デザインセミナー

(9) 化け物展ワークショップ
「おばけになろう おばけをつくろう」
おばけのお面を作って、こどもから大人まで楽しめる工作ワ
ークショップを行った。
講師：飛内源一郎(クリエイター)
日時：8月9日(日)13:00 - 15:00
会場：青森県立美術館ワークショップA
参加者数：30人

(10) 一日でめぐる！「青森 EARTH 2015」バスツアー
担当学芸員の案内で、「青森 EARTH 2015」全会場をめぐるバ
スツアーを行った。



化け物展ワークショップ「おばけになろう おばけをつくろう」

日時：9月5日(土)10:00 - 17:00
参加者数：29人

(11) 青森 EARTH 2015 みちの奥へ
「展覧会」 関連企画トークイベント
石倉敏明氏(芸術人類学者)の紹介の下、津軽半島に伝わる民
話を、「あおり民話かたりべの会」の方々から聴く夕べを開
催した。

日時：9月11日(金)17:45 - 19:00
出演：石倉敏明(芸術人類学者/秋田公立美術大学アーツ&ルー
ツ専攻講師)
あおり民話かたりべの会の方々
集合：エントランスギャラリー集合
参加者数：30人

(12) 青森 EARTH 2015 みちの奥へ
3作家によるワークショップ「とる、ぬう、きく」
①石川直樹ワークショップ「石川直樹の写真塾」
石川直樹氏と写真について考え、実践を行う連続ワークショ
ップを開催した。
講師：石川直樹(写真家)



青森 EARTH 石川直樹の写真塾

日時：9月19日（土）、10月24日（土）、11月21日（土）
（小中学生コース）11:00 - 12:00
（大人コース）14:00 - 16:00
場所：外ヶ浜町中央公民館
参加者数：54人

②鴻池朋子ワークショップ「物語るテーブルランナー／青森編」
参加者で身近な話を持ち寄り、下絵を描き、布地を選んで布で絵を作り、更にできあがった物語の布絵を一枚一枚つなげて大きな「テーブルランナー」を作った。

講師：鴻池朋子（アーティスト）

（説明会）日時：8月28日（金）13:00 - 15:00

場所：青森県立美術館内

（青森市コース）9月17日（木）、12月12日（土）

各日10:00 - 12:00

場所：青森県立美術館ワークショップA、B

（外ヶ浜町コース）9月17日（木）、12月12日（土）

各日14:00 - 16:00

場所：外ヶ浜町中央公民館

参加者数：87人

③森永泰弘ワークショップ「善知鳥の伝説」

参加者が、街で流れる音を録音し、皆で聴き、どんな音楽にするか話し合い、一つの音楽作品をつくった。

講師：森永泰弘（サウンドデザイナー）

日時：10月25日（日）、11月29日（日）、12月6日（日）

各日14:00 - 16:00

場所：青森県立美術館ワークショップA

参加人数：23人

④作品講評会&トークイベント

「みちの奥へー《手ざわり》と《耳ざわり》をもとに」

「青森 EARTH 2015」参加作家とワークショップ参加者による、制作された作品の講評会と作家によるトークイベントを行った。

日時：2016年3月12日（土）

〔講評会〕13:00 - 13:45 [トークイベント] 14:00 - 15:00

会場：青森県立美術館展示室

出演：鴻池朋子、森永泰弘

参加人数：35人

(13) 青森 EARTH 2015 ギャラリートーク

担当学芸員が、特別展示「青森 EARTH 2015」において作品等の解説を行った。

講師：奥脇嵩大（青森県立美術館学芸員）

日時：3月19日（土）14:00 - 14:30

場所：青森県立美術館常設展示室

参加者数：40人

平成 27 年度 スクールプログラム

概要

未来の青森県を担う感性豊かな人材を育成するためには、多くの子どもたちに対して、優れた美術作品に出会い本物が持つ素晴らしさを体験し、ふるさと青森の芸術文化や先人を学ぶ機会を提供することで、郷土に対する誇りが持てる鑑賞指導を行うことが極めて重要である。

このため、子どもたちが居住地域や家庭環境の違いの影響を受けずに、級友と語り合いながら発達段階に応じた深さで等しく学ぶ機会を提供する学校教育の場を活用して、児童・生徒、教育関係者を対象に、鑑賞指導、研修会、鑑賞教材開発等の多様な事業を行うスクールプログラムを実施した。

学校団体の来館受入れ

多くの子どもたちが優れた美術作品に接し、豊かな感性や能力を伸ばす機会として、学校団体の来館を積極的に受け入れている。特に、作品を見て子どもたちが感じたことや考えたことを大切に、言葉で伝え合うことを通して、主体的に鑑賞する能力を育むことを重視したギャラリートークに力を入れている。

メニュー：

鑑賞プログラム（ギャラリートークコース、自由鑑賞コース）、鑑賞＋遺跡見学プログラム、オリジナルプログラム（学校連携プログラム）

月	常設展 (人数)	企画展 (人数)	団体数				
			合計	小	中	高	特
4月	470	470	8	8	0	0	0
5月	1,428	1,126	22	12	8	0	2
6月	1,063	214	21	13	1	4	3
7月	477	68	11	4	6	0	1
8月	426	368	10	3	5	2	0
9月	193	193	5	3	2	0	0
10月	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0
合計	4,057	2,439	77	43	22	6	6

合計 6,496 人

職場体験

美術館の教育普及活動、学校連携、キャリア教育推進等の観点から、各学校の要望を踏まえながら、中学校・高等学校等からの職場体験、見学等を積極的に受け入れ、美術館の公共施設・観光施設としての役割や仕事を、体験を通じて学ぶ機会を提供した。

受入実績：15校 165人

アートカード

図工・美術の授業及びクラブ活動などの学校教育活動で気軽に使用できる鑑賞教材として、棟方志功、奈良美智、鷹山宇一、豊島弘尚等、本県ゆかりの作家の作品や三内丸山遺跡出土遺物などを50点にまとめた「アートカード」を制作し、平成19年度から県内9施設において学校への貸出しを行っている。

また、平成27年度には県内2つの学校にアートカードを提供し、利用促進を図っている。

貸出し実績：2件

貸出施設一覧

施設・機関名	所在地	電話番号
青森県立美術館	青森市安田字近野 185	017-782-1919 fax 783-5244
青森県総合学校教育センター	青森市大矢沢字野田 80-2	017-739-1251 fax 739-1279
青森市教育研修センター	青森市栄町 1-10-10	017-743-4900 fax 743-4919
つがる市生涯学習交流センター「松の館」 (つがる市教育委員会指導課)	つがる市木造若緑 52	0173-42-5532 fax 42-5542
五所川原市立図書館	五所川原市字栄町 119	0173-34-4334 fax 34-3256
弘前市教育研究所	弘前市末広 4-10-1	0172-26-4802 fax 26-2250
十和田市現代美術館	十和田市西 2 番町 10-9	0176-20-1127 fax 20-1138
むつ市立図書館	むつ市中央 2 丁目 3-10	0175-28-3500 fax 28-3400
八戸市美術館	八戸市番町 10-4	0178-45-8338 fax 24-4531

教員研修

美術館と連携した鑑賞教育について教員の理解を深めるため、当館のコレクションや鑑賞指導法（アートカードの活用、ギャラリートーク演習等）などをテーマに、県総合学校教育センター、市町村教育委員会図工及び美術等教科研究会との連携講座を実施した。

主催	月日	曜日	研修講座の名称	会場	人数
県・市町村教育委員会と共催	8月6日	木	青森県総合学校教育センターと共催 初任者研修（小・中学校）教職一般研修講座	県立美術館	85
	9月2日	水	青森県総合学校教育センターと共催 図画工作・美術科教育講座【鑑賞】	県立美術館	24
教育研究団体等と共催	7月23日	木	南地方小学校教育研究会 図工部会	県立美術館	16
	8月4日	水	西北美術教育研究会	県立美術館	30
	10月6日	火	弘前市中学校教育研究会 美術部会研修	弘前市立第五中学校	22
	10月7日	水	南地方中学校教育研究会 美術部会半日研修会	県立美術館	7
	10月9日	金	五小学校教育研究会 図画工作科部会 冬季研修会	五所川原市立いずみ小学校	22

合計 206 人

鑑賞サポーターの育成

学校団体鑑賞ツアーで来館した児童・生徒の鑑賞指導にあたる鑑賞サポーター（平成22年度までの「ファシリテーター」を呼称変更。）を配置・養成し、多くの学校団体の受入・指導を行った。

平成27年度3月末現在：14人



スクールプログラム（学校団体の来館受入れ オリジナルプログラム）



スクールプログラム（学校団体の来館受入れ ギャラリートーク）



スクールプログラム（教員研修）

サポートスタッフ

概要

青森県立美術館では、県民が美術館の活動に積極的に参加できるよう常に工夫し、「県民とともに活動する」ことを目指している。

その取り組みの一つとして、美術館の様々な事業等の運営に参加、協力するボランティアを「サポートスタッフ」として募集し、各種イベント運営や、管理事務の補助、環境安全整備等、幅広いボランティア活動の展開を図っている。

なかでも、県美コンシェルジュ活動は、青森県立美術館のコンテンツの理解を促したり、来館者に寄り添って多角的なサポートを提供し、来館者の満足度向上に寄与している。

募集・登録

募集概要

募集期間：2015年2月5日～3月20日

募集人数：50人程度

応募条件：

- ・満18歳以上（2015年4月1日現在）。未成年は保護者の承諾が必要。
- ・美術館活動に関心があり、積極的に学び活動する意欲のあること。
- ・美術館に通勤可能なこと。

登録者数：54人（27年度末現在）

※このうち県美コンシェルジュ活動希望者25人

活動内容

1 研修

第1回研修会 4月19日（日）9:30～16:00

内容：平成26年度事業実施概要及び平成27年度活動内容説明

- ・美術館の概要説明
- ・コンシェルジュとは（コンシェルジュ活動希望者のみ対象）

第2回研修会 8月19日（水）13:30～15:30

内容：対話型鑑賞の体験及び三内丸山遺跡の応援隊ガイドによる見学

2 サポート活動

(1) 学芸（企画展関連イベント運営補助）

活動日数：10日

参加人数：延べ73人

(2) 教育普及（おはなし会、スクールプログラム、ワークショップの運営補助）

活動日数：17日 参加人数：151人

(3) 舞台芸術（コンサート、おはなしフェスタの運営補助）

活動日数：39日 参加人数：232人

(4) 運営管理（資料整理等）

活動日数：19日 参加人数：139人

(5) 環境安全整備（県立美術館・三内丸山遺跡周辺の草刈等）

活動日数：25日 参加人数：477人

(6) 自主企画イベント実施（自主企画コンサート）

活動日数：2日 参加人数：50人

(7) 県美コンシェルジュ活動

活動日数：40日 参加人数：102人

対応客数：9,851人



サポートスタッフ（コンシェルジュ研修）



サポートスタッフ（自主企画コンサート）

メンバーシッププログラム

概要

当館では、芸術を、より多くの人に身近に楽しんでいただけるような環境づくりを進めるため、会員制度「青森県立美術館メンバーシッププログラム」を設けている。

入会した会員に対して、当館で開催する展覧会やパフォーミングアーツ事業への招待・優待などの特典付与、会員への情報提供などを行うものであり、本年度展開した事業内容は以下のとおりである。

会員証は奈良美智氏と、当美術館のシンボルマーク、ロゴタイプなど、ヴィジュアル・アイデンティティ(VI)を考案した菊地敦己氏のコラボレーションによるもの。

なお、本プログラムは、平成27年度末で終了し、平成28年度からは、任意団体として発足した「青森県立美術館サポートシップ倶楽部」にその活動を継承し、より多くの法人会員の参加により美術館活動の強化をしていくこととなった。

会員カテゴリ及び年会費（一般・学生・子ども・特別会員は半年間休館のため例年の半額）

一般会員：1,500円

学生会員：1,000円（学生のためのプログラム）

子ども会員：250円（小・中学生のためのプログラム）

特別会員：5,000円（一般会員をさらにすすめたプログラム）

コーポレート会員A：50,000円

コーポレート会員B：30,000円

会員数

（2017年3月31日現在）

一般会員：151人

学生会員：7人

子ども会員：12名

特別会員：11人

コーポレート会員B：1人

計 182人

事業内容

（一般会員・学生会員・子ども会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を2枚配付するほか、いつでも前売料金で観覧可
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（特別会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 いつでも無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を6枚配付するほか、いつでも前売料金で観覧可
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待
- ・上記以外の館内実施プログラム 無料または割引価格で優待

（コーポレート会員）

美術館事業への優待

- ・常設展観覧料 会員証の提示により5名（B会員については3名）まで無料観覧可
- ・企画展観覧料 企画展招待券引換券を20枚配付
- ・館内及びホームページに法人名を掲示（A会員のみ）
- ・企画展の内覧・開会レセプション等に招待（A会員のみ）

会員への情報提供

- ・年に3～4回、美術館スケジュール等の案内を送付

特典

- ・館内ミュージアムショップでの商品購入 5%割引（一部商品を除く）
- ・館内カフェでの飲食代 5%割引（一部商品を除く）

その他事業

- ・研修視察旅行
秋田県立近代美術館ほかを訪ねる日帰り鑑賞・研修ツアーを実施した。
参加者 22人



研修視察旅行（秋田県立近代美術館）

パフォーマンスアート

演劇

ダンス

音楽

映画

演劇

開館 10 周年記念プレ公演 青函交流事業 アレコ 2016 「Tchaikovsky / 小島一郎」

1 事業概要

2016 年 7 月に迎える青森県立美術館の開館 10 周年を記念し、また、同年 3 月の北海道新幹線の開業を契機に今後ますます盛んになる函館市を中心とした北海道道南地方との交流を文化・芸術で推進するため、舞台公演『アレコ 2016 「Tchaikovsky / 小島一郎」』を開催した。

青森県立美術館では、1942 年に上演された「バレエ・シスター」によるバレエ『アレコ』の舞台美術としてマルク・シャガールが制作した縦約 9 m・横約 15 m の巨大な舞台背景画全 4 幕のうち 3 幕を所有し、開館以来現在まで常設展示しており、この 3 幕を展示している空間・アレコホールの魅力を活かした舞台作品『アレコ』を 10 年に渡り多彩な形で上演してきた。

今回の公演では、1942 年のバレエ『アレコ』でも使用された楽曲、チャイコフスキーの「ピアノ三重奏曲イ短調作品 50」を函館市在住の演奏家をはじめとしたピアノトリオが演奏し、青森の風景を撮り続けた写真家・小島一郎の写真、県民が参加した青森県立美術館ドラマリーディングクラブによる方言詩や『アレコ』の原作となるロシアの詩人プーシキン作の詩『ジプシー』のリーディングに加え、日本舞踊、タップダンスなども組み合わせ、これまで青森県立美術館が創作した舞台芸術の要素に新たな取り組みを盛り込んだ作品として上演した。

日時：2016 年 3 月 18 日（金）開演：19:00

開場：18:30 / 受付開始：18:00

2016 年 3 月 19 日（土）開演：18:00

開場：17:30 / 受付開始：17:00

公演時間：130 分（途中休憩 20 分あり）

会場：美術館アレコホール（定員 196 人）

観客動員数：計 412 人（動員率 105%）

（内訳）3 月 18 日（金） 192 人（動員率 98%）

3 月 19 日（土） 220 人（動員率 112%）

入場料金：前売一般 3,000 円 / 前売 60 歳以上 2,000 円

前売学生 1,000 円

※当日は各 500 円増し

ペア 5,000 円（前売のみの販売）

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

・チラシ（A4 版 / カラー・白黒）200,000 枚

・ポスター（B2 版 / カラー）200 枚

広報：

・2016 年 2 月上旬から宣材物配布開始。

・PA 顧客へダイレクトメールの送付。

・青森県内の小学校・中学校の対象児童・生徒へチラシを配布。

・青森県内の高等学校・大学・文化施設・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。

・ドラマリーディング出演者へのチケット先行販売を実施。

・新聞各社において、稽古時および公演の様態を取材依頼。また、チケットプレゼント記事を掲載依頼。

・東奥日報へのチラシ折り込みでの各戸配布を実施。（青森市内全域・弘前市内一部地区）

・青森市営バス待合所へのポスター有料掲示（計 30 ヶ所）

・青森駅・新青森駅・弘前駅の各駅構内の有料広告スペースにポスターを掲示。

・青森県広報枠を利用し、テレビ CM・テレビ生中継・ラジオ生出演にて広報。

3 チケット販売 / 小・中・高校生 無料招待

(1) チケット販売場所

以下の店舗にて 2016 年 2 月 1 日（月）から、各公演前日まで販売し、残席僅少となったため 3 月 14 日（月）付で、3 月 19 日公演分のみ各プレイガイドでの前売チケット販売を終了した。

全 国：ローソンチケット

青森市：サンロード青森、成田本店しんまち店、

イトーヨーカドー青森店

弘前市：ヒロロ、紀伊國屋書店弘前店

イトーヨーカドー弘前店、弘前大学生協

五所川原市：ELM インフォメーション

つがる市：イオンモールつがる柏インフォメーション

八戸市：ラピア、三春屋

※そのほか、青森県立美術館の再オープン（2016 年 3 月 12 日～）に合わせ、青森県立美術館ミュージアムショップでも各公演前日までチケット販売を行った。

(2) 事務局予約

電話・FAX・Eメールのいずれかの方法により、前売チケットの事務局予約を受け付けた。

(3) 小・中・高校生 無料招待

青森県・北海道の小学4～6年生・中学生・高校生を対象に、各公演先着60名までの無料招待を実施。

4 各種サービス

(1) 託児サービス

各公演の開場から終演まで、美術館キッズルームにて託児サービスを無料で実施。

※託児対象は、1歳から小学3年生まで。

(2) 終演後の送迎サービス

各日終演後に、青森駅までの無料送迎を実施。

※美術館と青森駅までの直通運行、途中下車・目的地変更不可。

5 公演詳細

(1) 出演者等

語り：

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

ダンサー：

RONx II (タップダンス)

中村登世之丞 (日本舞踊)

演奏家：

三上亮 (ヴァイオリン)、金子鈴太郎 (チェロ)
高実希子 (ピアノ)

脚本・構成・演出：

長谷川孝治 (青森県立美術館舞台芸術総監督)

(2) プログラム

第1部

・プロローグ

RONx II、高実希子、青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

引用：

プーシキン 訳：蔵原惟人「ジプシー」(『ジプシー・青銅の騎手 他二篇』所収) 1951 岩波文庫 岩波書店

・チャイコフスキー「ピアノ三重奏曲 イ短調 作品50」

三上亮、金子鈴太郎、高実希子、中村登世之丞

— 休憩 20分 —

第2部

・プロローグ

RONx II、中村登世之丞、青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

・「津軽の詩、写真の声」

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ

三上亮、金子鈴太郎、高実希子

写真：小島一郎 © 小島弘子

演奏曲：

バッハ「6つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第1番 アダージョ」

三上亮

ハルヴォルセン「ヘンデルの主題によるパッサカリア」

三上亮、金子鈴太郎

バッハ「6つの無伴奏チェロ組曲 第1番 ト短調」

金子鈴太郎

クライスラー「愛の悲しみ」

三上亮、高実希子

アストル・ピアソラ「タンティ・アンニ・プリマ」

金子鈴太郎、高実希子

エルガー「気まぐれ女」

三上亮、高実希子

アストル・ピアソラ「オブリビオン」

三上亮、金子鈴太郎、高実希子

引用：

一戸謙三、高木恭造、植木曜介 解説：小野正文『津軽の詩』

1986 津軽書房

高木恭造『方言詩集 まるめろ』1988 津軽書房

太宰治『津軽』2004 新潮文庫 新潮社

福士幸次郎「土地の愛」(『郷土と観念』所収) 1942 育生社 弘道閣

(3) 『アレコ』について

ニューヨークに拠点を置くバレエ団「バレエ・シアター」(現在のアメリカン・バレエ・シアター)の作品として1942年上演された。原作はプーシキンの詩『ジプシー』。振付はレオニード・マシーン。音楽はチャイコフスキーの「ピアノ三重奏曲 イ短調 作品50」のオーケストラ用編曲が使用された。舞台美術を依頼されたシャガールは4点の背景画と60点以上のダンサーの衣裳を制作したが、その際、レコードでチャイコフスキーの音楽を聴きながら振付のマシーンと共にこの構想を練ったと伝えられる。

あらすじ：

《第1幕》故郷の都会を捨てた貴族の青年アレコは、ジプシーの娘ゼンフィーラと恋に落ち、ジプシーの長であるゼンフィーラの父親から迎え入れられる。

《第2幕》場所はカーニバル。時が経ち、ジプシーの暮らしに慣れたアレコは芸に加わり、ゼンフィーラが踊る。

《第3幕》ゼンフィーラは若いジプシーの男に恋をする。アレコはゼンフィーラに自分の元に戻るよう懇願するが、ゼンフィーラは拒絶する。

《第4幕》嫉妬に苦しむアレコに悪夢や幻想が襲う。アレコはゼンフィーラが若いジプシーの男と共にいる姿を目にする。怒りにかられたアレコは男を殺し、ゼンフィーラも死んでしまう。そして、アレコはジプシーから追放される。

※「ジブシー」という民族名は、現在は「ロマ」（または単数形の「ロム」という呼称を用いることが一般的だが、本公演では、『アレコ』の原作となったプーシキンの作品題名に則し、「ジブシー」という呼称を使用した。

(4) 出演者プロフィール

青森県立美術館ドラマリーディングクラブ 語り

これまで青森県立美術館が実施してきた、県民参加型演劇等を発展させ、先駆的な舞台芸術を発信するため、2009年に発足。ドラマリーディングを中心に青森県立美術館の他、青森県内の小・中学校等で公演を実施している。

RONx II (ロンロン) タップダンス



日本を代表するタップダンサーの一人として、正統派のタップは勿論、リズムタップダンサーとして、舞台や映画等ジャンルを横断しながら、国内外問わず第一線で活動中。北野武監督の映画『座頭市』(2003)・『TAKESHIS』(2005)への出演をはじめ、近年ではアメリカのダンス大会などで振付にて受賞や、ゲストダンサーとして招聘され総合的なエンターテイナーとして海外でも高い評価を受けている。

国内ではパフォーマンスユニット【REVOTRAP】、音楽ユニット【HALE to KE】、海外では2015年から【151RED】のメンバーとしても活動するなど、幅広いジャンルで活躍をしている。

2年に1度に開催しているプロデュースイベント「TAP & DANCE TOKYO COLLECTION」にて日本のTAP普及にも尽力している。

主な舞台公演出演作品に、橋爪功「菜の花舞台」(2009～2014)、長谷川孝治 作・演出「F.+2」(2010)主演、稲本渡「sound theater」(2011)、芳垣安洋 Duke Ellington Sound of Love feat. スガダイロー「横濱ジャズブロードムナード」(2012～2014)、稲本渡・東儀秀樹「sound theater II」(2012)、串田和美 構成・演出「空中キャバレーII 2013」(2013)、THE CONVOY「One Summer's Day」(2013)、オルケスタ・リブレ+スガダイロー+RONx II「plays Duke Ellington」(2013)、オルケスタ・リブレ ヨーロッパツアー (5カ国)に参加 (2014) など。

中村登世之丞 日本舞踊



8歳で東宝芸能学校に入学、15歳で中等科を卒業するまでバレエ、歌唱、演技、日本舞踊、モダンダンス、タップダンスのレッスンを受ける。昭和38年の新宿コマ劇場で、宮城マリ子主演の新春ミュージカル公演「そばかすマリ子の恋物語」に子役として出演。その他テレビ出演や声優の活動を行う。

18歳まで初代家元、坂本晴江に地唄舞の手ほどきを受け、名取として「黒髪」「鐘が岬」を踊る。現在は十世家元七代目中村虎治のもとで歌舞伎舞踊の研さんを積みながら、県民文化祭や華扇会(於国立劇場)などで「鶯娘」「藤娘」「汐汲」「雁金」「京鹿子娘道成寺」「玉屋」をはじめとする古典演目で出演する一方、青森県立美術館での日本舞踊版「阿礼児」の善比羅や香港の作曲家による「Shadow Dancing」を振付・踊るなど意欲的に活動を続けている。

また、国立音楽大学、ジュリアード音楽院修士課程、マンハイム音楽大学を卒業。ベートーヴェン「32のピアノソナタ全曲」、モーツァルト「全ピアノソナタ」の演奏を含め、ソロリサイタルを中心に演奏活動を行っている。平成6年度青森県芸術文化奨励賞受賞。

本名 浅野清 (ピアニスト・弘前大学教授)

三上亮 ヴァイオリン



東京藝術大学音楽学部首席卒業後、明治安田クオリティオブライフ文化財団、ロームミュージックファンデーションなどから助成金を得てアメリカ南メソディスト大学メドウズ音楽院、ローザンヌ高等音楽院、メニューイン国際音楽アカデミーで研さんを積む。景山誠治、エドゥアルドシュミッター、ピエールアモイヤル、アルベルトリジーに師事。その間、安宅賞、日本音楽コンクール第2位、ブリテン国際ヴァイオリンコンクール特別賞、フォーヴァルスカラシップ・ストラディヴァリ

ウスコンクール第2位など受賞。カメラータリジーや、カメラータローザンヌのメンバーとしてスイス国内を拠点にヨーロッパ各地で演奏した。2007年ルーマニアエネスコ音楽祭にも出演しテレビ放映される。ローザンヌ室内管弦楽団、東京交響楽団などと共演。2007年に帰国後、札幌交響楽団コンサートマスター、東京藝術大学非常勤講師、日本音楽コンクール審査員など歴任。

各地でのリサイタルの他、慰問演奏、チャリティにも積極的に取り組み、2013年に長崎で開催した福島の農業支援団体へのチャリティコンサートは、NHK「おはよう日本」で取り上げられるなど注目された。また同年、オーストリアの巨匠ピアニスト、イェルクデームスと東京王子ホールでデュオリサイタルを開催し好評を博した。その他、NHK-Eテレ「らららクラシック」やNHK-FM「気ままにクラシック」などにも出演。

2014年秋より、チェリスト・金子鈴太郎とデュオを組み全国各地で演奏活動を開始。各地で絶賛されている。

室内楽では、2008年にいわきアリオスホールにて結成されたヴィルタス・クワルテットの第1ヴァイオリン奏者を務める。2013年度からは「いわき室内楽協会」が発足され、毎年4回の定期演奏会を行っている。第2回ウィーン・フィル&セントリー音楽復興祈念賞受賞。その他、東京、仙台、札幌などでの演奏会や、ラ・フォル・ジュルネへの出演など、意欲的に活動している。2015年度からは相模湖交流センターにてベートーヴェン全曲演奏会シリーズを開始する。

オーケストラでは、2013年に和光市民文化センターに創立されたサンアゼリア・フィルハーモニカのコンサートマスターやトウキョウ・モーツァルトプレイヤーズのコンサートマスターを務める他、各地のオーケストラのゲストコンサートマスターとしても度々招かれている。サイトウ・キネン・オーケストラメンバー。

これまでにリリースしたCDは、ソロ『ツィガーヌ』『奏』、室内楽『Decending Dragon』『Dorati, Mendelssohn String Octet』の計4枚。

金子鈴太郎 チェロ



©Nobuo MIKAWA

桐朋学園ソリスト・ディプロマコースを経て、ハンガリー国立ソリスト音楽院に学ぶ。

コンセル・マロニエ、国際ブラームス・コンクール、カルロ・ソリヴァ室内楽コンクールなど、国内外の数々の国際コンクールで優勝、入賞。1999、2000年イタリア・シエナのキジャーナ音楽祭にて名誉ディプロマを受賞。2004年、松方ホール音楽賞大賞受賞。2008年1月のバッハ：無伴奏チェロ組曲

全曲演奏会が高く評価され、音楽クリティック・クラブ奨励賞を受賞。

仙台フィルハーモニー管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団、長岡京室内アンサンブル等とコンチェルトを共演。NHK「名曲アルバム」、NHK-FM「名曲リサイタル」に出演。ソロの他にも室内楽に意欲的に取り組み、安永徹、市野あゆみ、エンリコ・オノフリ、大山平一郎、上田晴子など世界的に活躍するアーティストと多数共演。バロックから現代曲まで幅広いレパートリーを演奏し、これまでに日本やハンガ

リー、オーストリアにおいて数々の世界初演をおこなう。

2001年ハンガリーで現代音楽グループ“shyra”を結成。

2003年～2007年 大阪交響楽団首席チェロ奏者。

2007年～2008年 大阪交響楽団特別首席チェロ奏者。

現在は、各オーケストラにゲスト首席として招聘されるほか、サイトウ・キネン・オーケストラ、ジャパン・ヴィルトゥオオーゾ・シンフォニーオーケストラ等で活躍中。トウキョウ・モーツァルトプレイヤーズ首席、Super Trio 3℃、ZAZA quartet、Quartet MARK、長岡京室内アンサンブル 各メンバー。

高実希子 ピアノ



函館市出身。桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）を経て、桐朋学園音楽大学音楽学部演奏学科を首席で卒業。（財）ロームミュージックファンデーション奨学生として、2008年パリ国立高等音楽院卒業。2006年アンギャン国際ミュージックフェスティバル（ベルギー）でピアノソロ・室内楽のディプロムを取得し、最優秀でコンサートに出演。又、アンギャン市内でリ

サイタルを開催。2007年東京デビューリサイタルをカワイ表参道にて開催。

2010年ショパン生誕200周年記念・オールショパンプログラムリサイタルを函館市芸術ホールにて開催。2010年東京日仏会館で行われた日仏音楽協会主催「フランス音楽のタベ」出演。2010、2011年エクサンプロヴァンス（フランス）国際音楽祭出演。2012年ドビュッシー生誕150周年記念日本ピアノ教育連盟主催「ドビュッシー・フェスティバル2012」メンバーに選出されカワイ表参道にて演奏会出演。ソリストとして、2003年ポーランド国立クラクフ室内管弦楽団とショパンピアノ協奏曲第1番、2009年函館市民オーケストラ創立30周年記念演奏会においてショパンピアノ協奏曲第2番、2011年第21回函館市芸術ホール管弦楽団演奏会においてベートーヴェンピアノ協奏曲第3番を共演。これまでに、マリンスキー歌劇場（ロシア）首席チェロ奏者オレグ・センデツキー氏、パリ管弦楽団（フランス）チェロ奏者・佐藤光氏のリサイタルピアニストを務める。

現在、ソロや室内楽で国内外において積極的に演奏活動を行い、パリ国立高等音楽院卒業生によるJACOBピアノ四重奏団のピアニストとしても活動している。2013年より国内外で活躍中のアーティストと高実希子による新プロジェクト「高実希子 meets」シリーズをスタート。又、ピアニスト蓑田なつきとDuo Noir（デュオ・ノワール）を結成し、精力的に活動している。ピアノを堀川眞智子、田代慎之介、岡本美智子、金澤希伊子、横山幸雄、ジャック・ルヴィエ、ヤヌシュ・オレイニチャク、室内楽をアラン・ムニエ、フランソワ・ギュイ、ブルーノ・パスキエ、レジス・パスキエ、ジャズをグレン・フェリスに師事。

2013年初のCD「高実希子ピアノソロアルバム Vol.1～プリランテ・ア・ラ・カルト～」をリリース。2015年、旧函館区公会堂にて北海道新幹線開業記念コンサート出演。青森県立美術館にてソロリサイタル『アレコホール定期演奏会 2015「COLORS」』（全2回）を開催。

主な受賞歴：

- 日本ピアノ教育連盟オーディション高校の部 奨励賞および本選入賞（1999年・日本）
- 第4回21世紀ピアノコンクール 第1位（2002年・日本）
- 第4回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 大学生部門最高位（2003年・日本）
- 第4回安川加壽子記念コンクール ファイナリスト（2003年・日本）
- 第10回イル・ド・フランス国際ピアノコンクール ドビュッシー特別賞（2008年・フランス）

6 稽古について

以下の日程で、公演稽古・リハーサルを実施。取材希望のメディア各社に対し公開対応とした。

稽古スケジュール：

- ・ドラマリーディング稽古1
日時：2016年2月7日（日）12:30～15:30
会場：美術館シアター
- ・ドラマリーディング稽古2
日時：2016年2月14日（日）12:30～15:30
会場：美術館シアター
- ・ドラマリーディング稽古3
日時：2016年2月21日（日）12:30～15:30
会場：美術館シアター
- ・ドラマリーディング稽古4
日時：2016年2月24日（水）18:30～21:30
会場：美術館シアター
- ・ドラマリーディング稽古5
日時：2016年3月6日（日）12:30～15:30
会場：美術館シアター
- ・全体稽古1
日時：2016年3月14日（月）18:30～21:30
会場：美術館アレコホール
- ・全体稽古2
日時：2016年3月15日（火）18:30～21:30
会場：美術館アレコホール
- ・全体稽古3
日時：2016年3月16日（水）17:00～21:30
会場：美術館アレコホール
- ・全体稽古4
日時：2016年3月17日（木）17:00～21:30
会場：美術館アレコホール



公演チラシ（表）



公演チラシ（裏）

世代間交流舞台芸術創造事業
こどもフェスティバル事業
なつやすみ！おはなしフェスタ 2015

1 事業概要

おはなしフェスタは2012年から開催しており、県内各地域で活動している読み聞かせ団体・昔語り団体・個人が一堂に会して、絵本の読み聞かせや地域に伝わる昔語りを公演している。

子供から大人まで共に鑑賞できる公演を行うことで各世代に舞台公演を鑑賞する機会を提供するとともに、各地の活動を広く伝えることで地域の文化力が向上することを目的としている。また、公演を通じて各地域の団体が相互に交流することで各団体の活動の活性化も図っている。

今年度は、絵本の魅力を高めるため「絵本作家 川端誠 講演会」及び、「なつやすみ！おはなしフェスタ2015」を開催した。

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

助成：公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

コーディネート：秋田敏博（親子ふれあい読書アドバイザー）

(1) 絵本作家 川端誠 講演会

「絵本とともに旅をして」

絵本の魅力を県民に伝えるため、「落語絵本シリーズ」「お化けシリーズ」などで知られる絵本作家・川端誠氏を迎えて絵本の制作過程などをテーマとした講演会を開催した。

日時：2015年8月8日（土）開演 10:30

開場：10:00 / 受付開始 9:30

講演時間：90分

会場：美術館シアター（定員 200人）

観客動員数：131人（動員率 66%）

入場料：無料（往復ハガキによる予約制）



絵本作家 川端誠 講演会 講演の様子

(2) 交流会

なつやすみ！おはなしフェスタ2015に出演する団体が参加し、各団体の活動報告やおはなしフェスタで上演する演目の相互鑑賞など情報交換を行い、各団体の活動の活性化を図った。

日時：2015年8月8日（土）開演 13:00

開場 / 受付開始：12:45

実施時間：160分

会場：美術館シアター、スタジオ

参加団体：9団体（37人）



交流会 シアター会場

(3) なつやすみ！おはなしフェスタ 2015

美術館シアターを主会場に、県内各地域の読み聞かせ団体が出演するドラマリーディング形式での絵本の読み聞かせ、昔語り等を上演した。シアター以外にも図書室、屋外で公演を行った。また、シアター会場での上演は午前・午後で「未就学児向け」「小学校低学年向け」「小学校中学年以上向け」と対象年齢を分けた。

日時：2015年8月22日（土）、23日（日）

午前の部 10:00～12:00

午後の部 13:00～15:00

開場：開演の30分前 / 受付開始：開場の30分前



なつやすみ！おはなしフェスタ2015 シアター会場

公演時間：午前の部・午後の部 各 120 分

会場：美術館シアター（定員 200 人／当日指定）、図書室、エントランス前

観客動員数：計 1,205 人

参加団体：25 団体（計 159 人）

入場料：無料（往復ハガキによる予約制）



なつやすみ！おはなしフェスタ 2015 図書室会場

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

(1) 絵本作家 川端誠 講演会

・チラシ (A4 版／白黒) 5,000 部

(2) なつやすみ！おはなしフェスタ 2015

・チラシ (B4 版／カラー両面二つ折り) 130,000 部

・ポスター (B2 版／カラー) 200 部

広報：

(1) 絵本作家 川端誠 講演会



絵本作家 川端誠 講演会 開催チラシ

(2) なつやすみ！おはなしフェスタ 2015

・7月上旬から宣材物を配布開始。

・県内全ての小学校、保育園、児童館に全児童・幼児分のチラシを送付した。

・県内文化施設・教育機関・観光施設・書店等を中心に配布、

チラシの設置及びポスター掲示を依頼した。

・PA 顧客等へのダイレクトメールの送付を実施した。



なつやすみ！おはなしフェスタ 2015 公演チラシ (表)



なつやすみ！おはなしフェスタ 2015 公演チラシ (裏)



なつやすみ！おはなしフェスタ 2015 公演チラシ (中)

・5月中旬から宣材物を配布開始。

・県内文化施設・教育機関・観光施設・書店等を中心に配布、チラシの設置及びポスター掲示を依頼した。

・PA 顧客等へのダイレクトメールの送付を実施した。

青森県立美術館 ドラマリーディングクラブ公演 「夏目漱石と芥川龍之介」

1 事業概要

県立美術館に県民が積極的に参加できる環境を舞台芸術企画部門からアプローチする。

「青森県立美術館ドラマリーディングクラブ（2009年設立）」は、経験や技術の枠にとらわれない幅広い年齢層の県内在住者を参加対象に、オリジナルの戯曲や詩・小説、その他の文章を用いた朗読形式による公演を実施している。

例年、定期公演や県内小中高等学校での出前公演を開催しているが、美術館主催による各舞台芸術企画公演へのスタッフ参加や出演等の協力も行っている。

本年度は、11名のクラブ員が約1ヶ月間のワークショップ・稽古を通じて、定期公演を実施した。

日時：2015年10月24日（土）開演 18:30

開場：18:00 / 受付開始：17:30

公演時間：80分

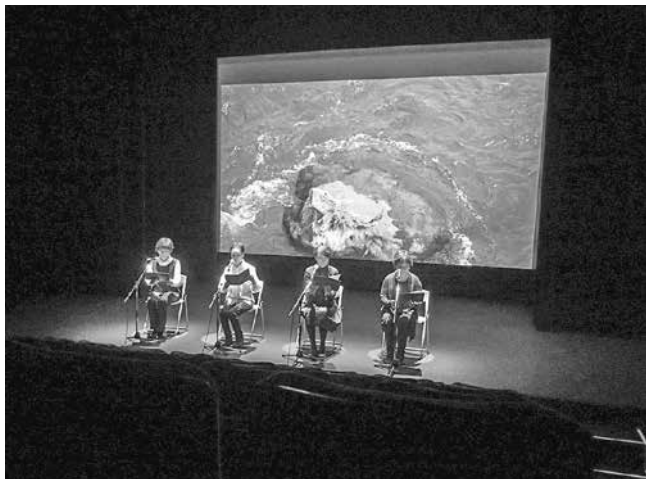
会場：美術館シアター（定員 180人 / 当日指定席）

観客動員数：177人（98%）

入場料：前売一般 1,000円 / 前売学生・60歳以上 500円

※当日は各 200円増し

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館



公演の様子

2 ドラマリーディングクラブ

(1) 設立

2009年度

(2) 参加条件

- ・青森県立美術館での稽古に参加できること
- ・年齢・経験不問（未成年者は保護者の同意が必要）
- ・年間に最低1公演には参加できる
- ・交通費や食費などは自己負担となる

(3) 活動場所

青森県立美術館施設内を基本とする。

(4) 募集期間

募集定員に達するまで随時募集

(5) 定員

50名（欠員が出た場合は補充）

(6) 参加料

無料

(7) 選考方法

書類選考とし、書類受理後に随時面談を行う。

(8) 稽古内容

- ・青森県立美術館パフォーミングアーツ専門スタッフの指導のもと、オリジナルの戯曲や既成の詩・小説、その他の文章を使い、空間を意識しつつ朗読する。
- ・定期公演に向けた稽古を実施する。
- ・青森県立美術館企画サポート公演に向けた稽古を実施する。
- ・その他公演に向けた稽古を実施する。

3 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

- ・チラシ（A4版 / カラー・白黒）8,000枚
- ・ポスター（B2版 / カラー）100枚

広報：

- ・9月中旬からチラシ等配布開始。
- ・県内新聞各社・情報誌において公演告知。
- ・美術館周辺町会にチラシ折り込み配布。
- ・県内高等学校・大学、図書館、文化施設等を中心に宣材物を配布し、掲示を依頼。
- ・県内PA顧客へダイレクトメールの送付。
- ・美術館ホームページ、フェイスブックに公演告知。
- ・県内読み聞かせ団体へ公演告知。
- ・出演者へチケット先行販売の実施。

4 チケット販売

(1) チケット販売場所

青森市：サンロード青森、成田本店しんまち店、青森県民生活協同組合（市内各店舗）、青森県庁消費生活協同組合（本庁東棟店・北棟店）

弘前市：紀伊國屋書店弘前店

五所川原市：ELM インフォメーション

八戸市：八戸ポータルミュージアムはっち

(2) 事務局予約

電話・FAX・Eメールのいずれかの方法により、前売チケット

の事務局予約を受け付けた。

※受付は、公演日の前日 17 時まで。

5 来場者サービス

(1) コーヒーサービス

受付開始から開演までの間、長期休館中に伴う臨時対応として、美術館エントランスホールにて無料のコーヒーサービスを実施。

(2) 託児サービス

公演の開場から終演まで、美術館キッズルームにて託児サービスを無料で実施。

※託児対象は、1 歳から小学 3 年生まで。

6 公演詳細

(1) 出演者等

金恵美子、須藤哲也、田中昌子、田中弘美、
會津悦子、田澤京子、小野寺圭子、阿部留美子、
福田寿枝、鳴海郁子、菊地泰子

(ドラマリーディングクラブ員番号順)

構成・選曲・演出：

長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

舞台監督：野村眞仁

映像：齋藤耕平、廣島創太

(2) 上演作品

芥川龍之介作 「蜜柑」

「女」

「蜘蛛の糸」

「漱石山房の冬」

夏目漱石作 「夢十夜」

7 その他

青森県立美術館ドラマリーディングクラブとして、各舞台芸術企画公演へのスタッフ参加及びアレコ 2016「Tchaikovsky / 小島一郎」の出演を行った。



公演チラシ (表)



公演チラシ (裏)

ダンス

世代間交流舞台芸術創造事業 こどもフェスティバル事業 「Night at the Museum」 (ナイト・アット・ザ・ミュージアム)

1 事業概要

これまであらゆる分野から培ってきた経験・資産を活用し、次代の青森県の文化を担う子供を含めた各世代（子供世代・親世代・祖父母世代）の出演者を県民から募集し舞台作品の制作・公演を行う。

講師であるアーティストと参加者同士が世代を越え交流し、ともに参加する、そして、すべての世代の心に届く作品の公演を行うことで、県民が舞台芸術に触れる新たな機会を創出する。

青森県在住の子供世代・親世代・祖父母世代からそれぞれ、ダンサーを中心とした出演者を公募し、選抜メンバーによるダンス公演（舞台演劇作品）を行った。公募にあたりダンス経験は不問とし、同家族内での応募（母と娘など）も可能とした。出演者決定後、全7回のダンスワークショップ（講習）とリハーサルを重ね本番の公演に臨んだ。

公演演出・ダンス振付・ワークショップ講師は、弘前市を中心に活躍するダンサー・岩淵伸雄氏が担当。

日時：2015年9月5日（土）、6日（日）開演：14:00

開場：13:30／受付開始：13:00

公演時間：80分

会場：美術館シアター（180人／当日指定）

観客動員：計445人

（内訳）9月5日（土）216人（120%）

9月6日（日）229人（127%）

入場料：前売一般500円／前売60歳以上200円

前売高校生以下無料

※当日は各100円増し

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

助成：公益財団法人むつ小川原地域・産業振興財団

監修：長谷川孝治（青森県立美術館舞台芸術総監督）

2 広報宣伝、営業概要

宣材物作成枚数：

(1) 出演者募集

・チラシ（A4版／カラー・白黒）90,000枚

(2) 公演

・チラシ（A4版／カラー・白黒）60,000枚

・ポスター（B2版／カラー）100枚

広報：

(1) 出演者募集

・6月上旬から宣材物配布開始。

・青森県内の小学校・中学校の対象児童・生徒へのチラシの配布。

・青森県内の高等学校・大学・文化施設・各商店街等を中心に広報物を配布し設置を依頼。

(2) 公演

・8月上旬から宣材物配布開始。

・出演者へのチケット先行販売を実施。

・青森県内の小学校・中学校の対象児童・生徒へのチラシの配布。

・青森県内の高等学校・大学・文化施設・各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。

・PA顧客へダイレクトメールの送付。

・新聞各社において、ワークショップ時および公演の様相取材依頼。

3 チケット販売／小・中・高校生 無料招待

チケットの委託販売は行わず、事務局での予約販売のみを実施した。高校生以下の事前予約分については、無料とした。

4 出演者募集

(1) 応募資格

・青森県内在住であること。

・指定するワークショップ・稽古に、原則、全日程参加可能であること。

・ダンスに興味がある方（ダンス経験は一切不問。未経験者・初心者でも、しっかり出演までサポートする）

または、朗読や演技、楽器演奏、詩吟、書道などの経験をお持ちの方。

(2) 募集人数

・子供世代…（小学1年生～大学生）…若干名

・親世代…（20代～40代程度）…若干名

・祖父母世代…（50代～60代程度）…若干名

※選考については当公演の意図により、同家族内での応募（母と娘、祖父と孫など）を優先する場合あり。

※出演料・交通費は、支給されない。

(3) ワークショップ・稽古等の日程

ワークショップ・稽古：

- ① 7月31日(金) 18:00～21:00 スタジオ
- ② 8月10日(月) 18:00～21:00 スタジオ
- ③ 8月22日(土) 13:30～17:30 スタジオ
- ④ 8月23日(日) 13:30～17:30 スタジオ
- ⑤ 8月29日(土) 13:30～17:30 スタジオ
- ⑥ 8月30日(日) 13:30～17:30 スタジオ
- ⑦ 8月31日(月) 18:00～21:00 スタジオ

リハーサル：

9月4日(金) 18:00～21:00 シアター

公演：

9月5日(土) 14:00～ シアター

9月6日(日) 14:00～ シアター

(4) 選考方法

応募時に提出の資料(書類等)により選考を実施。各応募者に電話連絡にて可否を通知する。

(5) 申込方法

①以下の内容を記載し、電話・FAX・Eメールにて連絡する。

- ・氏名(ふりがな)
- ・連絡先(住所/郵便番号/電話番号)

後日、事務局より「申込書」を郵送し、記入後返送する。

②「申込書」を青森県立美術館ホームページ内の当公演のページからダウンロードし、記入・印刷のうえ、FAXまたは郵送にて事務局まで送る。

(6) 募集期間

2015年5月上旬から7月10日(金)まで

(7) 応募人数

62名

(人)	子ども世代	親世代	祖父母世代	計
男	7	4	1	12
女	36	7	7	50
計	43	11	8	62

(8) 合格者

29名

(人)	子ども世代	親世代	祖父母世代	計
男	4	2	0	6
女	19	2	2	23
計	23	4	2	29

5 公演詳細

(1) 出演者等

ダンサー：

北村隆雄、工藤江利加、工藤陽菜子、澤山楽、澤山心、澤山響、杉山由衣、瀬下音羽、瀬下花音、相馬好、相馬笑瑛、相馬瞳、

高橋透友、田代佳菜、玉井帆華、丹代真緒、夏堀瑞希、成田吏里、野呂紫玖真、福士美咲、三澤那奈子、吉原由紀

演奏：

石岡愛花、伊野有咲、田中希有、森下あかね、吉澤あおい

朗読：

田中弘美、鳴海郁子

公演演出、振付：

岩淵伸雄

(2) 演出家プロフィール

岩淵 伸雄 (NOBUO)



FUNKY STADIUM 代表

ひろさき芸術舞踊実行委員会
委員長

岩手県出身。弘前大学入学をきっかけにストリートダンスと出会う。ダンスを通じた多くの経験や出会いをもとに弘前大学大学院卒業後、ダンススタジオFUNKY STADIUM(弘前市)を設立。ダンサーの育成、イベントの主催・演出、県内外でのワークショップ・審査員等で幅広く活躍している。自身もダンサーとして数多くの受賞歴を持つ。

震災をきっかけに、「ダンスで地域を活性化させるために自分たちにできることはないか」という思いから2012年「ひろさき芸術舞踊実行委員会」を発足。これまで、こども達の舞台公演や弘前ダンスフェスティバル、学生を対象にした交流文化祭などを手助け、青森県の舞台芸術発展のための活動もっている。

- ・三沢七夕ダンスコンテスト
優勝4回/準優勝2回
- ・函館ダンスフェスティバル コンテスト部門 優勝2回
- ・WDC北日本大会 優勝4回
- ・「FREE STYLE SESSION」準優勝 他、受賞歴多数
- ・子供達の舞踊公演「DREAMER」主宰(演出・指導)
- ・弘前ダンスフェスティバル 主宰
- ・学生のためのダンス交流文化祭 主宰
- ・土手町まちなかフェス CHROSS CROSS 主宰

《青森県立美術館主催事業》

- ・舞踊劇「アレコ」出演(アレコ役)
- ・県民参加型演劇「MIYAZAWA」出演
- ・青森県日韓演劇交流事業「ソウルの雨」出演
- ・「ダンスアレコ青森 Lab#1」出演

青森県立美術館

心、踊る。

出演者募集 青森県立美術館 9月開催のダンス公演で
世代を越えて、出演してみませんか？
これまでダンスの経験も、ジャンルも一切、ありません。未経験者歓迎！
また、ダンス以外の出演者も募集します。(詳しくは募集要項)

2015年7月10日(金)

公演時間 18時30分～20時30分
会場 青森県立美術館 3F 演劇ホール
観覧料 全席 1,000円(中学生以下 500円)

募集要項
募集人数 10名(ダンス経験者 5名、未経験者 5名)
募集期間 2015年7月10日(金)～7月17日(金)
応募方法 応募用紙をダウンロードし、写真(2枚)を添付して、封筒に入れて応募してください。
応募先 青森県立美術館 企画課 募集係
〒030-0855 青森県青森市中央1-1-1 青森県立美術館 3F 演劇ホール
TEL 017-783-5243 FAX 017-783-5244 E-MAIL gsm@acm-museum.jp

出演者募集チラシ (表)

青森県立美術館では9月に、「心の交流」をテーマにしたダンス公演を開催します。

この公演は、ダンスの経験の有無にかかわらず、年齢も性別も関係なく、誰でも参加できるダンス公演です。ダンスの経験者も、未経験者も、ダンスを通じて、心と心をつなぐ機会を大切にしたいと考えています。また、ダンス以外の出演者も募集します。

募集要項
募集人数 10名(ダンス経験者 5名、未経験者 5名)
募集期間 2015年7月10日(金)～7月17日(金)
応募方法 応募用紙をダウンロードし、写真(2枚)を添付して、封筒に入れて応募してください。
応募先 青森県立美術館 企画課 募集係
〒030-0855 青森県青森市中央1-1-1 青森県立美術館 3F 演劇ホール
TEL 017-783-5243 FAX 017-783-5244 E-MAIL gsm@acm-museum.jp

出演者募集要項

公演日時 2015年9月5日(土)・6日(日)
会場 青森県立美術館 シアター
観覧料 全席 1,000円(中学生以下 500円)

募集要項
募集人数 10名(ダンス経験者 5名、未経験者 5名)
募集期間 2015年7月10日(金)～7月17日(金)
応募方法 応募用紙をダウンロードし、写真(2枚)を添付して、封筒に入れて応募してください。
応募先 青森県立美術館 企画課 募集係
〒030-0855 青森県青森市中央1-1-1 青森県立美術館 3F 演劇ホール
TEL 017-783-5243 FAX 017-783-5244 E-MAIL gsm@acm-museum.jp

出演者募集チラシ (裏)

青森県立美術館

Night at the Museum

ナイト・アット・ザ・ミュージアム

青森県立美術館 9月開催のダンス公演で
世代を越えて、出演してみませんか？
これまでダンスの経験も、ジャンルも一切、ありません。未経験者歓迎！
また、ダンス以外の出演者も募集します。(詳しくは募集要項)

2015年9月5日(土)・6日(日)

公演時間 18時30分～20時30分
会場 青森県立美術館 シアター
観覧料 全席 1,000円(中学生以下 500円)

募集要項
募集人数 10名(ダンス経験者 5名、未経験者 5名)
募集期間 2015年7月10日(金)～7月17日(金)
応募方法 応募用紙をダウンロードし、写真(2枚)を添付して、封筒に入れて応募してください。
応募先 青森県立美術館 企画課 募集係
〒030-0855 青森県青森市中央1-1-1 青森県立美術館 3F 演劇ホール
TEL 017-783-5243 FAX 017-783-5244 E-MAIL gsm@acm-museum.jp

公演チラシ (表)

青森県立美術館では9月に、「心の交流」をテーマにしたダンス公演を開催します。

この公演は、ダンスの経験の有無にかかわらず、年齢も性別も関係なく、誰でも参加できるダンス公演です。ダンスの経験者も、未経験者も、ダンスを通じて、心と心をつなぐ機会を大切にしたいと考えています。また、ダンス以外の出演者も募集します。

募集要項
募集人数 10名(ダンス経験者 5名、未経験者 5名)
募集期間 2015年7月10日(金)～7月17日(金)
応募方法 応募用紙をダウンロードし、写真(2枚)を添付して、封筒に入れて応募してください。
応募先 青森県立美術館 企画課 募集係
〒030-0855 青森県青森市中央1-1-1 青森県立美術館 3F 演劇ホール
TEL 017-783-5243 FAX 017-783-5244 E-MAIL gsm@acm-museum.jp

公演チラシ

公演日時 2015年9月5日(土)・6日(日)
会場 青森県立美術館 シアター
観覧料 全席 1,000円(中学生以下 500円)

募集要項
募集人数 10名(ダンス経験者 5名、未経験者 5名)
募集期間 2015年7月10日(金)～7月17日(金)
応募方法 応募用紙をダウンロードし、写真(2枚)を添付して、封筒に入れて応募してください。
応募先 青森県立美術館 企画課 募集係
〒030-0855 青森県青森市中央1-1-1 青森県立美術館 3F 演劇ホール
TEL 017-783-5243 FAX 017-783-5244 E-MAIL gsm@acm-museum.jp

公演チラシ (裏)

音楽

アレコホール定期演奏会 2015 「COLORS」

1 事業概要

パフォーミングアーツ県民活性化事業の一環として、当館所蔵のマルク・シャガール作『アレコ』舞台背景画を演奏家の背後に据えた演奏会を開催した。(全2回)

本年度の演奏会では、2016年3月の北海道新幹線開業に伴い、青函の文化交流を積極的に推進するため、函館市出身のピアニスト・高実希子氏を招聘し、ソロコンサートを実施した。

日時：

(1) 【vol.1】

2015年5月30日(土) 開演 18:00

開場 17:30 / 受付開始 17:00

公演時間：100分(途中休憩20分あり)

(2) 【vol.2】

2015年8月29日(土) 開演 19:00

開場 18:30 / 受付開始 18:00

公演時間：90分(途中休憩20分あり)

会場：美術館アレコホール(定員200人)

観客動員数：

(1) 【vol.1】 263人(動員率132%)

(2) 【vol.2】 216人(動員率108%)

入場料：前売一般2,000円 / 前売学生1,000円

※当日は各500円増し

ペア券3,000円(前売のみの販売)

2回券(一般)2,700円 / 2回券(学生)1,600円

※事務局予約のみ

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、
青森県立美術館

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数

・チラシ(A4版/カラー・白黒)90,000枚

・ポスター(B2版/カラー)200枚

(2) 広報

・4月上旬から宣材物配布開始。

・青森県内の小学校・中学校・高等学校の対象児童・生徒へのチラシの配布。

・青森県内の大学・文化施設・教育機関・道の駅・音楽教室・

各商店街等を中心に広報物を配布し、掲示を依頼。

・県内各地のコンサート等へのチラシ折り込み。

・PA顧客へダイレクトメールの送付。

・新聞各社において公演告知記事ならびに招待券プレゼントを実施、また公演当日の様態を取材依頼。

・函館市を中心にした北海道道南地域の学校・文化施設等にも広報物を配布し、公演の周知を図った。

3 チケット販売/小・中・高校生 無料招待

(1) チケット販売場所

全 国：ローソンチケット

青森市：サンロード青森、成田本店しんまち店、

青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：ヒロ口、弘前市まちなか情報センター

五所川原市：ELM インフォメーション

八戸市：八戸ポータルミュージアムはっち

(2) 事務局予約

電話・FAX・Eメールで前売券、通し券の予約を行った。

(3) 小・中・高校生 無料招待

青森県内・北海道の小・中・高校生を各回先着60名まで無料招待した。

4 来場者サービス

(1) 託児サービス

各公演の開場から終演まで、美術館キッズルームにて託児サービスを無料で実施。

※託児対象は、1歳から小学3年生まで。

(2) 終演後の送迎サービス

各日終演後に、青森駅までの無料送迎を実施。

※美術館と青森駅までの直通運行、途中下車・目的地変更不可。

(3) カフェ「4匹の猫」臨時営業

各公演日に開場時間まで延長営業を実施した。

5 各公演詳細

(1) 【vol.1】

演奏者：高実希子(ピアノ)

演奏曲目：

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト

きらきら星変奏曲 ハ長調 K.265

「ああ、お母さん、あなたに申しませう」による 12 の変奏曲

ロベルト・アレクサンダー・シューマン

子供の情景 作品 15

第 1 曲：見知らぬ国と人々について

第 2 曲：不思議なお話

第 3 曲：鬼ごっこ

第 4 曲：おねだり

第 5 曲：十分に幸せ

第 6 曲：重大な出来事

第 7 曲：トロイメライ（夢）

第 8 曲：暖炉のそばで

第 9 曲：木馬の騎士

第 10 曲：むきになって

第 11 曲：怖がらせ

第 12 曲：眠りに入る子供

第 13 曲：詩人は語る

フランツ・リスト

『パガニーニによる大練習曲』第 3 番 嬰ト短調

「ラ・カンパネラ」

フレデリック・ショパン

ピアノソナタ 第 2 番 変口短調 作品 35 「葬送」

第 1 楽章：Grave-Doppio movimento

第 2 楽章：Scherzo

第 3 楽章：Marche funèbre:Lento

第 4 楽章：Finale:Presto

スケルツォ 第 2 番 変口短調 作品 31

(2) 【vol.2】

演奏者：高 実希子（ピアノ）

演奏曲目：

クロード・ドビュッシー

ピアノのために

第 1 曲：前奏曲 Prélude

第 2 曲：サラバンド Sarabande

第 3 曲：トッカータ Toccata

『ベルガマスク組曲』より 月の光

『子供の領分』より ゴリウオーグのケーキウォーク

『前奏曲集 第 1 巻』より

西風の見たもの

亜麻色の髪の乙女

モーリス・ラヴェル

『鏡』より 道化師の朝の歌

セルゲイ・プロコフィエフ

悪魔的暗示 作品 4-4

セルゲイ・ラフマニノフ

ヴォカリーズ 作品 34-14（コチシュ・ゾルターン編曲）

セルゲイ・プロコフィエフ

ピアノソナタ第 7 番 変口長調 作品 83 「戦争ソナタ」

第 1 楽章：Allegro inquieto

第 2 楽章：Andante caloroso

第 3 楽章：Precipitato

(3) 演奏家プロフィール

高 実希子 ピアノ



函館市出身。桐朋女子高等学校音楽科（男女共学）を経て、桐朋学園音楽大学音楽学部演奏学科を首席で卒業。（財）ロームミュージックファンデーション奨学生として、2008年、パリ国立高等音楽院卒業。2006年、アンギャン国際ミュージックフェスティバル（ベルギー）でピアノソロ・室内楽のディプロムを取得し、最優秀でコンサートに出演。又、アンギャン市内

でリサイタルを開催。2007年、東京デビューリサイタルをカワイ表参道にて開催。2010年、ショパン生誕 200 年記念・オールショパンプログラムリサイタルを函館市芸術ホールにて開催。同年、東京日仏会館で行われた日仏音楽協会主催「フランス音楽のタベ」出演。2010、2011 年エクサンプロヴァンス（フランス）国際音楽祭出演。2012 年、ドビュッシー生誕 150 周年記念日本ピアノ教育連盟主催「ドビュッシー・フェスティバル 2012」メンバーに選出されカワイ表参道にて演奏会出演。ソリストとして、ポーランド国立クラクフ室内管弦楽団とショパンピアノ協奏曲第 1 番（2003 年）、函館市民オーケストラ創立 30 周年記念演奏会においてショパンピアノ協奏曲第 2 番（2009 年）、第 21 回函館市芸術ホール管弦楽団演奏会においてベートーヴェンピアノ協奏曲第 3 番（2011 年）を共演。これまでに、マリインスキー歌劇場（ロシア）首席チェロ奏者オレグ・センデツキー氏、パリ管弦楽団（フランス）チェロ奏者佐藤光氏のリサイタルピアニストを務める。

現在、ソロ・室内楽で国内外で積極的に演奏活動を行い、パリ国立高等音楽院卒業生による JACOB ピアノ四重奏団のピアニストとしても活動している。2013 年より国内外で活躍中のアーティストと高実希子による新プロジェクト「高実希子 meets」シリーズをスタート。又、函館在住のピアニスト蓑田

なつきと Duo Noir (デュオ・ノワール) を結成し、精力的に活動している。

ピアノを堀川眞智子、田代慎之介、岡本美智子、金澤希伊子、横山幸雄、ジャック・ルヴィエ、ヤヌシュ・オレイニチャク、室内楽をアラン・ムニエ、フランソワ・ギュイ、ブルーノ・パスキエ、レジス・パスキエ、ジャズをグレン・フェリス各氏に師事。2013年初のCD「高実希子ピアノソロアルバム Vol.1 ~ブリランテ・ア・ラ・カルト~」をリリース。

主な受賞歴:

- 1999年 日本ピアノ教育連盟オーディション高校の部 奨励賞および本選入賞 [日本]
- 2002年 第4回21世紀ピアノコンクール 第1位 [日本]
- 2003年 第4回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 大学生部門最高位 [日本]
- 2003年 第4回安川加壽子記念コンクール ファイナリスト [日本]
- 2008年 第10回イル・ド・フランス国際ピアノコンクール ドビュッシー特別賞 [フランス]



公演チラシ (表)



公演チラシ (裏)

映画

映画上映「特集・北野武／成瀬巳喜男」

1 事業概要

青森県立美術館では、「すべての芸術の融合を目指す美術館」として、舞台芸術部門を設け、企画展示のほかに、演劇・ドラマリーディング・音楽・ダンス・映画事業を実施している。前年度の映画事業では、俳優・高倉健の特集上映を行い、各作品ならびに「映画を劇場で観る」ことの価値を改めて提示することに成功した。

今年度は「特集・北野武／成瀬巳喜男」と題し、日本映画史の中でも異彩を放つ2人の監督、北野武と成瀬巳喜男に焦点を当てた。一見、作風の違う両者だが、その根底にあるのは、被写体と近づきすぎず一定の距離を保ち続けることで、“死”“痛み”“孤独”“悲しみ”、あるいは“喜び”や“笑い”でさえも、等価に捉え「人間誰にも起こる現実」として提示していることであり、その視点・手法がもたらす、一寸先に見え隠れし続ける闇と光の存在が独特の緊張感を産み出す作品群を特集上映した。本年は成瀬巳喜男監督の生誕110周年の節目でもあり、その作品に触れる絶好の機会でもあった。

さらに、両監督作品に加え、特別上映として『それぞれのシネマ』を上映した。この作品はカンヌ国際映画祭が第60回の開催を記念して製作したオムニバス作品で、世界各国から32組の映画監督が選出され、日本からは北野武監督が参加。それぞれ3分間で【あなたにとって映画館とは】というテーマで競作した作品で、青森県内では初上映となった。

なお、成瀬巳喜男監督作品は、文化庁と東京国立近代美術館フィルムセンターが、広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供するため日本各地の公立文化施設と連携・協力し、所蔵映画フィルムの巡回上映を全国の会場で実施している「優秀映画鑑賞推進事業」の一環として上映した。

(1) 特集・北野武

日時：2015年7月4日（土）、5日（日）、11日（土）、12日（日）、18日（土）、19日（日）

会場：美術館シアター（定員200席／各回入替制）

観客動員：計247人

※上映日程、動員内訳は「4 公演詳細」参照

入場料：前売一般800円／前売学生・シニア600円

※当日は全て200円増し

通し券：4,000円（特集・北野武／成瀬巳喜男全作品の通し券、事務局での予約販売のみ）

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館

上映協力：株式会社オフィス北野、松竹株式会社、青森映研

(2) 特集・成瀬巳喜男

日時：2015年7月24日（金）、25日（土）、26日（日）

会場：美術館シアター（定員200人／各回入替制）

観客動員：計256人

※上映日程、動員内訳は「4 公演詳細」参照

入場料：前売400円均一

※当日は100円増し

主催：青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会、青森県立美術館、文化庁、東京国立近代美術館フィルムセンター

協賛：松竹ブロードキャスティング株式会社

協力：株式会社オーエムシー

2 広報宣伝、営業概要

(1) 宣材物作成枚数

チラシ（B4版／カラー両面二つ折り） 40,000枚

ポスター（B2版／カラー） 300枚

(2) 広報

- ・6月上旬から宣材物配布開始。
- ・青森県内映画館、PA顧客等へダイレクトメールの配布を実施した。
- ・青森市内全地域に対し回覧板を通して、集中的にチラシ配布を実施した。
- ・近隣市町村の老人クラブ、青森市内の飲食店へも集中的にチラシ・ポスター配布した。
- ・新聞各紙において公演情報・チケットプレゼント記事の掲載を依頼した。
- ・ラジオ番組において公演情報の告知を行った。
- ・各市町村発行の広報誌への情報の掲載を依頼した。
- ・青森県内コンビニエンスストア（ローソン・ファミリーマート）にチラシを設置した。

3 チケット販売

(1) チケット販売場所

全国：ローソンチケット

青森市：サンロード青森、成田本店しんまち店、
青森県立美術館ミュージアムショップ

弘前市：中三弘前店、弘前市まちなか情報センター

五所川原市：ELM インフォメーション

八戸市：八戸ポータルミュージアムはっち

(2) 事務局予約

電話・FAX・Eメールのいずれかの方法により、前売チケット
及び、通し券の事務局予約を受け付けた。

※受付は、各上映日の前日17時まで。

4 公演詳細

上映作品（全11作品）：

(1) 北野武監督作品

『キッズ・リターン』

(1996年 108分 カラー 35ミリフィルム上映)

『菊次郎の夏』

(1999年 121分 カラー 35ミリフィルム上映)

『その男、凶暴につき』

(1989年 103分 カラー 35ミリフィルム上映)

『ソナチネ』

(1993年 94分 カラー 35ミリフィルム上映)

『HANA-BI』

(1997年 103分 カラー 35ミリフィルム上映)

『Dolls [ドールズ]』

(2002年 113分 カラー 35ミリフィルム上映)

【特別上映】

『それぞれのシネマ』

(2007年 114分 カラー ブルーレイ上映)

(2) 成瀬巳喜男監督作品

『めし』

(1951年 97分 白黒 35ミリフィルム上映)

『おかあさん』

(1952年 98分 白黒 35ミリフィルム上映)

『浮雲』

(1955年 123分 白黒 35ミリフィルム上映)

『乱れ雲』

(1967年 108分 カラー 35ミリフィルム上映)

上映日時：

2015年7月4日(土) 10:30 上映『キッズ・リターン』
13:20 上映『菊次郎の夏』

2015年7月5日(日) 10:30 上映『菊次郎の夏』
13:20 上映『キッズ・リターン』

2015年7月11日(土) 10:30 上映『その男、凶暴につき』
13:20 上映『ソナチネ』

2015年7月12日(日) 10:30 上映『ソナチネ』
13:20 上映『その男、凶暴につき』

2015年7月18日(土) 10:30 上映『HANA-BI』
13:20 上映『Dolls [ドールズ]』
15:45 上映『それぞれのシネマ』

2015年7月19日(日) 10:30 上映『Dolls [ドールズ]』
13:20 上映『HANA-BI』
15:45 上映『それぞれのシネマ』

2015年7月24日(金) 10:30 上映『めし』
13:20 上映『おかあさん』

2015年7月25日(土) 10:30 上映『乱れ雲』
13:20 上映『浮雲』
15:45 上映『おかあさん』
18:05 上映『めし』

2015年7月26日(日) 10:30 上映『浮雲』
13:20 上映『乱れ雲』

※開場／受付開始：各回上映の10分前

観客動員数：計503名（全22上映）

【内訳】（カッコ内は上数字に含まれる招待者数）

作品名	上映①	上映②	計
『キッズ・リターン』	18 (4)	16 (0)	34 (4)
『菊次郎の夏』	20 (4)	12 (0)	32 (4)
『その男、凶暴につき』	12 (2)	19 (1)	31 (3)
『ソナチネ』	12 (1)	17 (1)	29 (2)
『HANA-BI』	10 (2)	28 (3)	38 (5)
『Dolls [ドールズ]』	16 (4)	20 (2)	36 (6)
『それぞれのシネマ』	26 (9)	21 (2)	47 (11)
『めし』	34 (1)	24 (2)	58 (3)
『おかあさん』	38 (3)	20 (2)	58 (5)
『浮雲』	35 (3)	37 (7)	72 (10)
『乱れ雲』	28 (3)	40 (3)	68 (6)
計	249 (36)	254 (23)	503 (59)



上映会チラシ (表)

北野武 (TAKESHIMU) 成瀬巳喜男 (NARUSE MISAO)

青森県立美術館 シネマ 特別上映会 青森県立美術館 特別上映会

上映日	上映時間	上映料金	上映回数	上映時間	上映料金	上映回数
7月10日	18:00	1,000円	1回	18:00	1,000円	1回
7月11日	18:00	1,000円	1回	18:00	1,000円	1回
7月12日	18:00	1,000円	1回	18:00	1,000円	1回
7月13日	18:00	1,000円	1回	18:00	1,000円	1回
7月14日	18:00	1,000円	1回	18:00	1,000円	1回
7月15日	18:00	1,000円	1回	18:00	1,000円	1回

青森県立美術館 特別上映会 青森県立美術館 特別上映会

上映会チラシ (裏)

7/4 7/5 7/11 7/12 7/18 7/19 7/24 7/25 7/26

7/4 (土) / 7/5 (日) キッズ・リターン

7/11 (土) / 7/12 (日) その男、凶悪につき

7/18 (土) / 7/19 (日) HANA-BI

7/24 (土) / 7/25 (日) Dolls (ドールズ)

7/25 (土) / 7/26 (日) 浮雲 (うきぐも)

7/4 (土) / 7/5 (日) 高橋忠生が牛コンパの挑戦と脱走

7/11 (土) / 7/12 (日) 監督・北野武の誕生、撮影の秘1作

7/18 (土) / 7/19 (日) フェスタア館開館祝賀会が来賓 名演

7/24 (土) / 7/25 (日) 経緯なことから撮影を始める先陣

7/4 (土) / 7/5 (日) 毎朝朝し作中に出演少年のロドリゴ

7/11 (土) / 7/12 (日) ソナチネ

7/18 (土) / 7/19 (日) それぞれのシネマ

7/24 (土) / 7/25 (日) おかあさん

7/25 (土) / 7/26 (日) 狂れ咲く

悦び、哀しみ、笑い、暴力、絶望、愛、憂き世は、ただの現実

上映会チラシ (中)

サービス等

貸館

図書室

キッズルーム

博物館実習

貸館

使用施設について

(1) 使用目的

展覧会や作品の創作活動、映像、演劇及び音楽などの芸術活動の発表、練習の場として本県の芸術振興に資する使用であること。

(2) 使用料

① 展示施設を使用する場合

■ コミュニティギャラリー

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (148.76㎡)	2,180円	3,480円	1時間 870円
B (60.47㎡)	900円	1,440円	1時間 360円
C (131.30㎡)	1,930円	3,080円	1時間 770円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 コミュニティギャラリーの1室が使用されている場合、他のコミュニティギャラリーが使用できない場合があります。

■ 企画展示室

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)		
	9:30 - 12:00	13:00 - 17:00	左記以外の時間帯
A (182.70㎡)	2,550円	4,080円	1時間 1,020円
B (140.39㎡)	2,050円	3,280円	1時間 820円
C (389.51㎡)	5,650円	9,040円	1時間 2,260円
D (228.06㎡)	3,330円	5,320円	1時間 1,330円
E (105.91㎡)	1,530円	2,440円	1時間 610円
映像室 (70.38㎡)	1,030円	1,640円	1時間 410円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 企画展示室の使用については、県立美術館との共催事業に限ります。

② シアター等を使用する場合

室名 (面積)	使用料 (入場料等を徴収しない場合)
シアター (220席) (348.20㎡)	1時間 2,460円
映写室 (36.36㎡)	1時間 260円
アナウンスブース (6.35㎡)	1時間 50円
ワークショップA (124.38㎡)	1時間 920円
ワークショップB (185.28㎡)	1時間 1,330円
暗室 (22.45㎡)	1時間 160円
スタジオ (100.98㎡)	1時間 740円
映像編集室 (24.77㎡)	1時間 180円
スタジオ映写室 (28.88㎡)	1時間 210円

- ※ 1 入場料等を徴収する場合は、上記使用料の2倍とします。
- ※ 2 暗室は、ワークショップAを利用する場合、又はワークショップAが利用されていないとき使用できます。
- ※ 3 映写室、アナウンスブースは、シアターを利用する場合、使用できます。
- ※ 4 映像編集室、スタジオ映写室は、スタジオを利用する場合、使用できます。

(3) 使用期間

① 展示施設

- ・コミュニティギャラリーは、原則として月曜日始まり、日曜日終わりの1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。
- ・企画展示室については、1週間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き5週間を超えることはできません。

② シアター等

- ・1時間単位での使用期間とし、同一の利用者について引き続き10日を超えることはできません。

* 美術館のすべての施設において

- ・美術館の休館日は、使用できません。(準備、撤去作業の場合は除く。)
- ・毎年度日数を定めて開催している展覧会や上記使用期間では開催目的が達成されない場合において必要と認められるときは、使用期間を変更できるものとします。

(4) 使用時間

- ① 美術館の施設使用時間は、美術館の開館時間〔9時30分から17時まで(7月～9月は、9時から18時)〕とします。なお、施設使用上やむを得ない理由があると認められる場合には、閉館後、1時間単位で21時(シアター利用に限り22時)まで延長することができます。開館時間前の使用については、ご相談ください。
- ② 施設使用時間には、展覧会等の準備の時間及び撤収の時間も含まれます。(延長した場合であっても21時(シアターについては22時)には撤収が完了していなければなりません。)
- ③ 展示施設は、9時30分から12時、13時から17時の使用区分とし、それ以外は1時間単位での使用とします。
- ④ シアター等は、1時間単位での使用とします。

■企画展示室

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
6/4-7/21	青森放送株式会社	誕生 60 周年記念 ミッフィー展	展示室 A B C D E、 ワークショップ A	50,422
3/7-3/31	文化庁メディア芸術祭青森展実行委員会	文化庁メディア芸術祭青森展	企画展示室 ABCD、シアター、映 写室、スタジオ	8,087

■コミュニティギャラリー

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/17-4/19	株式会社社田名部組	第4回未来をのぞく住宅展	コミュニティギャラリー A B C	218
6/7-6/8	株式会社パティーズ	コタスタイリストアワード 2015	コミュニティギャラリー A B C、 スタジオ、シアター	100
6/9-6/21	高野元孝	高野元孝 油絵展	コミュニティギャラリー A B C	392
6/24-6/25	一般社団法人青森県文化振興会議	県展 2015 審査	コミュニティギャラリー A B C	160
6/26-6/28	株式会社社田名部組	第5回未来をのぞく住宅展	コミュニティギャラリー A B C	104
7/2-7/5	木立 将隆	写真展・墓標の名残り	コミュニティギャラリー A	100
7/7-7/14	株式会社ギャラリー睦	ガイドのまなざし展	コミュニティギャラリー A	500
7/16-7/20	柳谷 俊彦	柳谷俊彦作品展 GRAFFITI	コミュニティギャラリー B	100
7/19・7/24-7/26	県県民生活文化課	こども映画館、映像クリエイション講座	スタジオ、コミュニティギャラ リー C	335
7/23	南地方小教研図画工作科部会	南地方小教研図画工作科部会半日研修会	コミュニティギャラリー A B	16
8/5-8/10	一般社団法人青森県文化振興会議	県展 2015 前期	コミュニティギャラリー A B C	1,390
8/12-8/17	一般社団法人青森県文化振興会議	県展 2015 後期	コミュニティギャラリー A B C	968
8/18-8/31	実行委員会 (県立青森第一高等養護学校)	アウトプット展	コミュニティギャラリー A B C	2,000
9/4-9/6	独立行政法人国際協力機構東北支部	国際協力写真展 2015	コミュニティギャラリー A B C	390
9/12-9/13	社会福祉法人平館福祉会	エコル作品展	コミュニティギャラリー A	100
10/7-10/13	青森県高等学校文化連盟	第36回青森県高等学校総合文化祭 美術部門	コミュニティギャラリー A B C、 シアター、スタジオ	1,791
10/18	2016 ミス・ユニバースジャパン青森大会実行委員会	2016 ミス・ユニバースジャパン青森大会写真撮影	コミュニティギャラリー A	25
10/30-11/1	株式会社社田名部組	建築家展	コミュニティギャラリー A B C	100
11/14	鳥谷部 陽子	ヨーコトリヤベム加藤雄一郎 ツーマンライブ	コミュニティギャラリー A	80
11/27-11/28	松岡 康子	フルートときどきオカリナ・マンドリン デュオコンサート	コミュニティギャラリー A	49
12/13	八木 隆	青森ギター愛好者発表会	コミュニティギャラリー B	30
1/21-1/25	協同組合日専連青森	第25回日専連全国児童版画コンクール青森地区選展覧会	コミュニティギャラリー ABC	1,123
2/17	県観光企画課	県広報番組「メッセージ」収録	コミュニティギャラリー A B C	5
2/26-2/28	株式会社社田名部組	建築家展	コミュニティギャラリー A B C	116
3/1-3/2	コンテンツ・ツーリズム実行委員会 (県観光企画課)	リアル謎解きゲーム デバック作業	コミュニティギャラリー A B C	26
3/24-3/25	コンテンツ・ツーリズム実行委員会 (県観光企画課)	リアル謎解きゲーム設営	コミュニティギャラリー A B C	20
3/26-3/27	コンテンツ・ツーリズム実行委員会 (県観光企画課)	リアル謎解きゲーム	コミュニティギャラリー A B C	270

■シアター・映写室・スタジオ

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
4/25-4/26	青森映研	おさるのジョージ	シアター、映写室	230
6/13-6/14	青森映研	劇場版「ムーミン 南の海で楽しいバカンス」	シアター、映写室	140
6/28	(株) ストロボライツ	KANDAFUL WORLD	スタジオ	40
10/17-10/18	特定非営利活動法人弘前劇場	練習	スタジオ	16
10/25	青森映研 福田公	「こびとづかんカクレモジリの秘密の桃園」	シアター、映写室	150
11/21-11/22	ひろさき舞踊芸術実行委員会	次世代ダンサー & パフォーマー "DREAMER"	シアター、映写室	230
12/26-12/30	特定非営利活動法人弘前劇場	舞台稽古	スタジオ	70
1/2-1/7	特定非営利活動法人弘前劇場	舞台稽古	スタジオ	84
1/8-1/11	特定非営利活動法人弘前劇場	「お隣さん」公演	シアター、映写室	315
3/12	コンテンツ・ツーリズム実行委員会 (県観光企画課)	三上枝織トークショー	シアター、映写室	220

■ワークショップ

(単位：人)

使用期間	使用者	展覧会名等	使用施設	入場者数
8/4	西北美術教育研究会	西北美術教育研究会 実技研修会	ワークショップ A	30
8/28-9/1	慶應義塾大学アート・センター	PSI 2015 FLUID STATES 東北大会	ワークショップ B、シアター	476
9/2	県総合学校教育センター	平成 27 年度図画工作・美術家教育講座 (鑑賞)	ワークショップ A	20
10/7	南地方中学校長会南地方中学校教育研究会	南地方中教研 美術部半日研修会	ワークショップ A	7

合計 71,045 人

図書室

概要

図書室は、館の美術情報センターとしての機能を担い、その機能のうち美術に関する図書資料情報を収集、整理、保存、提供することで美術の普及を図ることを目的として、一般開放している。

具体的には、美術に関する専門ライブラリとして、来館者に対し、当館所蔵作品・作家に関するものをはじめ、美術に関する知識を深める図書資料情報の提供、閲覧、美術及び図書資料に関する相談受付（レファレンス）、他美術館等の展覧会情報の提供等を行っている。

また、図書室所蔵の絵本を利用し、当館キッズルームでおはなし会を開催するなど、当館の美術教育普及事業の支援機関としての機能も担っている。

設備：来館者用パソコン端末 1台、図書閲覧席 20席

開館日・開室時間：美術館開館日の10:00 - 16:00

図書資料の収集方針

「青森県立美術館作品収蔵基本方針」に準じ、1) 近・現代の青森県出身作家及びゆかりのある作家に関するもの、2) 青森県以外の近・現代の美術状況に対応するために必要な優れた美術作品に関するもの、3) 今に生きる県民の心の原点に関わり、未来に資するもの、4) 1～3を理解するために必要なものを購入および寄贈により収集した。

蔵書数（平成27年度3月末現在）

- ・美術図書 4,781冊
- ・デザイン・建築関係図書 447冊
- ・写真関係図書 432冊
- ・絵本・イラスト関係図書 1,288冊
- ・民俗・歴史関係図書 445冊
- ・音楽・映画・舞台関係図書 927冊
- ・展覧会カタログ 11,970冊
- ・その他（自然科学、文学など） 2,247冊
- ・雑誌（60タイトル） 10,467冊 ※継続購入は17タイトル

サービス

図書資料閲覧

美術に関する映像ソフトの鑑賞

美術に関する図書資料に係る相談受付（レファレンス）

当館に関する情報の掲載誌の閲覧

実績

開室日数：180日

利用者数：4,307人

レファレンス利用件数：20件

	開室日数(日)		入室者数(人)		レファレンス	
	月計	月計	1日平均	月計	1日平均	
4月	30	198	6.6	1	0.0	
5月	30	594	19.8	2	0.1	
6月	25	559	22.4	2	0.1	
7月	31	650	21.0	3	0.1	
8月	31	1,598	51.5	9	0.3	
9月	13	306	23.5	3	0.2	
10月						
11月						
12月						
1月						
2月						
3月	20	402	20.1	0	0.0	
計	180	4,307	23.9	20	0.1	

事業

1 美術館事業への支援・事業との連携

当館で行う常設展示及び企画展示と連携し、開催期間中、所蔵図書資料のうち展示に関連する資料を展示用書架にて紹介した。

また、当館キッズルームで行ったおはなし会に所蔵絵本を活用した。

2 他の美術館・関係団体等との連携

「新着カタログコーナー」にて、新しく受け入れた他美術館の展覧会カタログを継続的に紹介した。

キッズルーム

概要

絵本やお絵かき、積み木などを親子で楽しむことを通じて、子どもたちの美術への関心を高めることを目的として、地下1階「キッズルーム」を、来館者の多い土日祝日と企画展開催時の平日に無料で開放している。

「キッズルーム」は、約500冊の絵本をはじめとして、スイスのnaef（ネフ）社製やおもり木製玩具研究会「わらはんど」製作の色や形の美しい積み木やお絵かきを自由に楽しめる空間となっている。

また、当館サポートスタッフによる「おはなし会」を定期的で開催し、絵本の読み聞かせや美術体験などを通じて美術や美術館への関心を高める活動を行っている。

利用実績

開室時間：土日祝日及び企画展開催時の平日 10:00 - 15:00

平成27年度キッズルーム利用実績

	開室日数(日)		入室者数(人)		
	月計	子ども	おとな	月計	平均
4月	30	78	86	177	5.5
5月	30	237	278	515	17.2
6月	25	261	300	561	22.4
7月	22	223	229	452	20.5
8月	30	432	443	875	29.2
9月	13	106	110	216	16.6
10月					
11月					
12月					
1月					
2月					
3月	7	162	160	322	46.0
計	157	1,499	1,606	3,118	19.8

「キッズルームおはなし会」実施状況

未就学児とその保護者を主な対象に、美術や美術館に親しみを持つきっかけ作りの場として、絵本読み聞かせ、美術体験などを行う「おはなし会」を開催した。

企画運営は、当館職員及びサポートスタッフが担当した。

- (1) 5月23日(土) 10:30 - 11:30 ヒカリとあそぶ
- (2) 6月27日(土) 10:30 - 11:30 モヨウとあそぶ
- (3) 7月25日(土) 10:30 - 11:30 テンとあそぶ
- (4) 8月22日(土) 10:30 - 11:30 化け物展バージョン

全5回開催 参加者：273人

博物館実習

概要

博物館法施行規則第1条に定められた学芸員資格取得に関する博物館実習を実施した。

実施内容：美術館における諸活動（展示・収蔵・教育普及等）

期間：2015年8月19日（水）－8月23日（日）

実習指導：青森県立美術館職員他

実習生：12名

秋田公立美術大学（2名）、岩手大学（1名）、沖縄県立芸術大学（1名）、上智大学（1名）、東北芸術工科大学（2名）、一橋大学（1名）、弘前大学（4名）

プログラム

平成27年度 博物館（美術館）学芸員実習日程

第1日目 8月19日（水）

- ・オリエンテーション
- ・学芸員の仕事
- ・青森県立美術館の概要
- ・美術館の施設およびサイン計画（＋施設見学）
- ・美術館におけるパフォーミングアーツ活動
- ・実習日誌作成

第2日目 8月20日（木）

- ・コレクションの形成
- ・作品の保存・管理
- ・作品の取扱いおよび調書作成（日本画、油彩画、立体、紙作品）
- ・地域に根ざした美術館活動と発信
- ・実習日誌作成

第3日目 8月21日（金）

- ・展覧会の企画と実施（「化け物」展・常設展 会場実習を含む）
- ・展示デザイン（展示方法、造作、照明、キャプション等）
- ・展覧会の運営および広報活動
- ・美術館の教育普及活動について
- ・実習日誌作成

第4日目 8月22日（土）

- ・来館者対応とホスピタリティー
- ・展示室での監視ポジションの紹介とふるまい方研究（監視員補助実習を含む）
- ・[演習] 展覧会を企画してみよう

- ・実習日誌作成

第5日目 8月23日（日）

- ・[演習] 展覧会を企画してみよう
- ・[演習] 企画した展覧会を発表してみよう
- ・実習日誌作成

資料

広報

広聴

入館者数

運営予算・決算

組織

関係規程等

施設設備概要

広報

県の広報媒体を活用した広報活動や、Twitter・Facebook等のソーシャルメディアネットワークによる活動を展開した。また、平成26年度から運用を開始したスマートフォン・タブレット端末に対応するホームページを引き続き運用した。

(1) 県広報による実績

- ・ABA「メッセージ」
- ・ATV「こんにちは、県庁です」
- ・RAB ラジオ「広報タイム」
- ・エフエム青森「あおもり・ふぁん」
- ・東奥日報、デーリー東北、陸奥新報「広報あおもりけん」
- ・県民だより
- ・県庁ホームページアイキャッチ

(2) ソーシャルメディアネットワーク

- ・Twitter
アカウント：[@aomori_museum_of_art@aomorikenbi](https://twitter.com/aomori_museum_of_art)
- ・Facebook
アカウント：<https://www.facebook.com/aomori.museum>
- ・Youtube
アカウント：<http://www.youtube.com/user/aomorikenbi>

(3) ホームページ

URL：<http://www.aomori-museum.jp> (PC版)
http://www.aomori-museum.jp/ja_mobile (モバイル版)
年間アクセス数 (2015.4 - 2016.3)：518,025件

(4) 雑誌等掲載実績 (主なもの、順不同)

- ・美術手帖
- ・rakra
- ・マッフル
- ・るるぶ
- ・ことりっぶ
- ・C a s a B R U T U S
- ・旅楽
- ・地球のあるき方
- ・日本の美術館 Best200
- ・ノジュール
- ・フランス人がときめいた日本の美術館
- ・大人女子のぶらりのんびり週末旅手帖
- ・日本の模様ものがたり
- ・光の建築をよみとく
- ・和楽 ほか多数

広聴

青森県立美術館アドバイザー・ボード

青森県立美術館のより良い運営を推進するため、美術館の運営に関して専門的及び県民の立場から必要な助言等を行う第三者機関を設置。

アドバイザー（順不同）

座長 建 畠 哲（全国美術館会議会長・多摩美術大学学長・
埼玉県立近代美術館館長）
三上 満良（宮城県美術館副館長）
山田 泰子（八戸市美術館館長）
蜷川 有紀（美術家・女優）
三澤 一実（武蔵野美術大学教授）
大嶋 憲通（株式会社リンクステーション代表取締役
社長）
花田 玲子（県民代表）
松下 三恵（県民代表）

会議開催状況

第1回

開催日：平成28年3月19日（土）

会場：青森県立美術館

青森県立美術館運営諮問会議

平成26年11月27日（木）開催の会議をもって廃止

県民のための美術館づくり懇話会

平成27年3月7日（土）開催の会議をもって廃止

入館者数

(単位：人)

		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度①	27年度②	増減(②-①)
常設展	一般観覧者	193,501	89,229	109,609	190,672	233,192	141,904	177,266	179,793	73,541	137,198	63,657
	スクールプログラム	12,685	6,968	6,668	9,098	11,574	6,777	5,798	3,712	3,845	3,530	△ 315
	常設展計	206,186	96,197	116,277	199,770	244,766	148,681	183,064	183,505	77,386	140,728	63,342
企画展	シャガール展	192,918										
	縄文と現代展	14,894										
	工藤甲人展	1,680	10,950									
	旅順博物館展		30,065									
	舞台芸術の世界展		6,282									
	棟方志功・崔榮林展		4,156									
	寺山修司展			9,533								
	大ナポレオン展			46,609								
	小島一郎展			8,660								
	ウィーン展				36,884							
	(特別展 太宰治と美術展)				(23,191)							
	馬場のぼる展				25,464							
	ラブラブショー				5,160							
	ローマ展					45,622						
	ロボット展					25,076						
	芸術の青森展					3,530						
	印象派展						105,758					
	今和次郎展						4,807					
	フィンランド展							31,876				
	Art and Air 展							18,267				
	奈良美智展							80,275				
	種差展								16,807			
	横尾忠則展								10,516			
	日本の民家展								5,115			
	工藤哲巳展									5,056		
	美少女展									33,866		
	関野準一郎展									8,158		
成田亨展										18,257		
化け物展										32,984		
「青森 EARTH2015 みちの奥へ」 展示											3,022	
	企画展計	209,492	51,453	64,802	67,508	74,228	110,565	130,418	32,438	47,080	54,263	7,183
教育普及	スクールプログラム	18,775	9,905	9,242	7,087	7,272	7,368	6,310	5,792	3,974	4,065	91
	普及プログラム	2,300	2,148	2,873	886	718	11,763	2,565	2,744	1,575	557	△ 1,018
	お出かけ講座	1,196	1,587	1,122	1,119	537	1,250	1,022	1,245	383		△ 383
	展示関係プログラム			625	1,526	7,546	930	909	1,738	932	757	△ 175
	その他	500		464	266	399	387	351	136	440	393	△ 47
	教育普及計	22,771	13,640	14,326	10,884	16,472	21,698	11,157	11,655	7,304	5,772	△ 1,532
パフォーミング アーツ	演劇	2,170	1,821	1,516	1,333	1,085	2,962	3,468	5,255	2,258	2,140	△ 118
	ダンス			1,419	1,089	520			339	699	662	△ 37
	音楽	1,559	471	1,583	1,959	970	979	1,133	810	469	479	10
	映画	975	1,954	1,584	685				240	991	503	△ 488
	パフォーミングアーツ計	4,704	4,246	6,102	5,066	2,575	3,941	4,601	6,644	4,417	3,784	△ 633
貸館		10,268	26,481	194,807	104,625	144,520	20,735	33,410	126,284	26,192	71,045	44,853
図書館		2,552	7,727	12,910	10,012	7,864	6,561	10,688	6,818	4,662	4,307	△ 355
キッズルーム			2,850	3,690	3,127	3,555	20,501	15,889	4,267	2,602	3,118	516
	合計	455,973	202,594	412,914	400,992	493,980	332,682	389,227	371,611	169,643	283,017	113,374

※ キッズルームは平成 19 年 4 月 28 日からオープン

※ 特別展太宰治と美術展入館者数は常設展入館者数に含む

運営予算・決算

平成 27 年度 一般会計予算額

(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	25,283	使用料及び手数料	165,823	職員費	人件費
	575	財産収入			
	15,585	繰入金	429,358	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	85,414	諸収入			
	483,742	一般財源	15,418	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園管理費
合計	610,599		610,599		

平成 27 年度 一般会計決算額

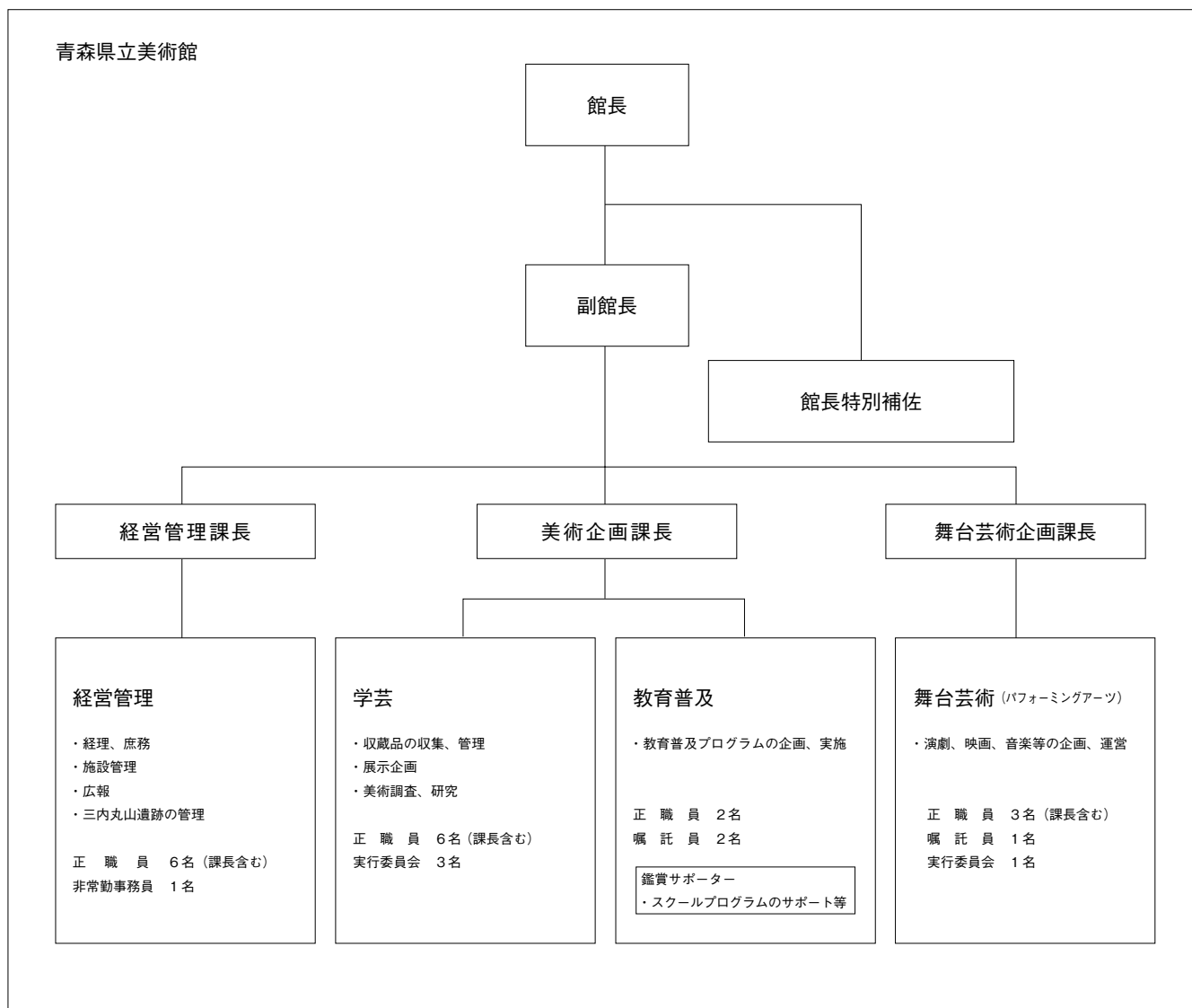
(単位：千円)

事業名	収入	科目	支出	細目	説明
美術館費	31,325	使用料及び手数料	151,136	職員費	人件費
	574	財産収入			
	23,800	繰入金	391,134	美術館運営管理費	管理運営費、調査研究費、美術資料収集費、美術資料保存管理費、展示費、教育普及費、情報事業費、パフォーミングアーツ事業費 他
	74,312	諸収入			
	432,330	一般財源	20,071	公園管理費	三内丸山遺跡等管理費、青森県総合運動公園管理費
合計	562,341		562,341		

組織

- 県立美術館の運営は、運営諮問会議からの助言を得ながら行っている。
- 文化観光の拠点形成を図る観点から、三内丸山遺跡（縄文時遊館を除く）との一体運営を行っている。
- このために館長の下、県職員 19 人、嘱託員及び非常勤事務員 4 人の計 24 人が美術館運営にあっている。
このほか、企画展実行委員会職員 3 名、パフォーミングアーツ実行委員会職員 1 名が配置されている。

(平成 27 年 4 月 1 日現在)



関係規程等

青森県立美術館条例

(設置)

第一条 美術その他の芸術の鑑賞及び学習の機会並びに創作活動の場の提供を行うことにより、県民の芸術に関する活動への参画を支援し、もって文化の振興を図るため、青森市に青森県立美術館（以下「美術館」という。）を設置する。

(業務)

第二条 美術館は、次に掲げる業務を行う。

- 一 美術品その他の芸術に関する資料（以下「美術品等」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- 二 美術品等の利用に関し必要な説明、助言及び指導に関すること。
- 三 美術品等に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- 四 美術品等に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- 五 美術その他の芸術に関する講演会、講習会、映写会、研究会、公演会等の開催に関すること。
- 六 美術その他の芸術に関する情報の収集及び提供に関すること。
- 七 美術その他の芸術に関する創作活動の場の提供に関すること。
- 八 その他県民の芸術に関する活動への参画を支援するために必要な業務

(使用の承認)

第三条 別表第二号又は第三号に掲げる場合において、美術館の施設を使用しようとする者は、知事の承認を受けなければならない。

(使用料)

第四条 美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）は、別表に定める使用料を納入しなければならない。

2 知事は、特別の理由があると認めるときは、前項の使用料の全部又は一部を免除することができる。

(使用の制限等)

第五条 知事は、使用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、当該使用者の美術館の使用を拒み、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

- 一 他の使用者に迷惑をかけ、又はそのおそれがあるとき。
- 二 美術館の施設、設備等をき損し、若しくは汚損し、又はそれらのおそれがあるとき。
- 三 この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。

2 知事は、前項に規定する場合のほか、美術館の管理運営上支障があると認めるときは、美術館の使用を制限することができる。

(委任)

第六条 この条例に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、規則で定める。

附則 この条例は、規則で定める日から施行する。

別表（第三条、第四条関係）

一 美術品等の観覧のための使用の場合

区分	金額（一回につき）
常設展の観覧	一人につき 千円を超えない範囲内で知事が定める額
企画展の観覧	知事がその都度定める額

二 展示施設の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	九時三十分から 十二時まで	十三時から 十七時まで	九時三十分以前、 十二時から十三時 まで及び十七時以降
コミュニティギャラリーA	二千三百十円	三千四百円	八百五十円
コミュニティギャラリーB	八百八十円	千四百円	三百五十円
コミュニティギャラリーC	千八百八十円	三千円	七百五十円
展示室A	二千五百円	四千元	千円
展示室B	二千円	三千二百円	八百円
展示室C	五千五百円	八千八百円	二千二百円
展示室D	三千二百五十円	五千二百円	千三百円
展示室E	千五百円	二千四百円	六百円
映像室	千円	千六百円	四百円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

三 シアター等の使用の場合

イ 入場料その他これに類する料金を徴収しないで使用する場合

区分	金額（一時間につき）
シアター	二千四百円
映写室	二百六十円
アナウンスブース	五十円
ワークショップA	九百円
ワークショップB	千三百円
暗室	百六十円
スタジオ	七百二十円
映像編集室	百八十円
スタジオ映写室	二百十円

ロ 入場料その他これに類する料金を徴収して使用する場合 イの場合の使用料の額の二倍に相当する額

四 食堂施設又は売店施設の使用の場合

知事が定める額

青森県告示第 五百二十五 号

青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号）別表第四号の規定により、青森県立美術館の食堂施設及び売店施設の使用料の額を次のとおり定める。

平成十八年七月十二日

青森県知事 三村申吾

区分	金額（一年につき）
食堂施設	八十三万四千八百円
売店施設	六十六万五千六百円

備考 使用期間が一年に満たないとき、又は使用期間に一年に満たない端数があるときは、その全期間又は端数部分について日割で計算する。

青森県立美術館規則

（趣旨）

第一条 この規則は、青森県立美術館条例（平成十七年十月青森県条例第六十九号。以下「条例」という。）第六条の規定に基づき、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（開館時間）

第二条 美術館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時まで（六月一日から九月三十日までの期間にあっては、午前九時から午後六時まで）とする。

2 美術館の副館長（以下「副館長」という。）は、必要があると認めるときは、前項の開館時間を変更することができる。

第三条 美術館の休館日は、次のとおりとする。

一 毎月第二月曜日及び第四月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和二十三年法律第七十八号）に規定する休日にあたるときは、その翌日）

二 十二月二十七日から同月三十一日までの日

2 副館長は、必要があると認めるときは、前項の休館日に開館し、又は同項の休館日以外の日に休館することができる。

（使用の承認の手続）

第四条 条例第三条の規定による使用の承認（以下「使用の承認」という。）を受けようとする者は、使用申込書を知事に提出しなければならない。

2 知事は、使用の承認をしたときは、当該使用の承認を受けた者に使用承認書を交付するものとする。

（使用料の免除の申請）

第五条 条例第四条第二項の規定による使用料の免除を受けようとする者は、免除申請書を知事に提出しなければならない。

（使用の承認の取消し等）

第六条 副館長は、美術館の施設を使用する者（以下「使用者」という。）が不正な手段により使用の承認を受けたと認めるときは、その使用の承認を取り消し、又はその使用を制限することができる。

（原状回復等）

第七条 使用者は、故意又は重大な過失により美術館の施設、設備、美術品その他の芸術に関する資料等をき損し、又は汚損したときは、原状に復し、又は現品若しくはそれに相当する代価をもって弁償しなければならない。

附則

この規則は、平成十八年七月十三日から施行する。

附則

1 この規則は、平成二十七年四月一日から施行する。

青森県立美術館管理規程

（趣旨）

第1条 この規程は、青森県立美術館条例（平成17年10月青森県条例第69号。以下「条例」という。）及び青森県立美術館規則（平成18年7月青森県規則第72号。以下「規則」という。）に定めるもののほか、青森県立美術館（以下「美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（観覧券の交付）

第2条 条例別表第1号に定める使用料を納入した者に対し、観覧券を交付するものとする。

（使用の承認）

第3条 規則第4条第1項に規定する使用申込書の様式は、第1号様式とする。

2 規則第4条第2項に規定する使用承認書の様式は、第2号様式とする。

3 規則第4条に規定する使用承認の手続きに関し必要な事項は、副館長が別に定める。

（使用料の納付）

第4条 使用の許可を受けた者は、納入通知書により指定する日までに使用料を納入しなければならない。

（使用料の還付）

第5条 納付された使用料は、還付しない。ただし、天災その他利用者の責めによらない理由により美術館を使用できなくなった場合は、この限りではない。

2 前項ただし書きにより使用料の還付を受けようとする者は、使用料還付請求書（第3号様式）を副館長に提出しなければならない。

（使用料等の免除）

第6条 副館長は、条例別表第1号に規定する常設展の観覧が次の各号のいずれかに該当するときは、規則第5条の規定により使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 教育課程に基づく学習活動として観覧する小学校、中学校、中等教育学校前期課程及び特別支援学校の児童、生徒及び引率する教職員が観覧するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年及び引率する当該施設の職員が観覧するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条

第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者、療育手帳の交付を受けている知的障害者及びこれらの付添人が観覧するとき（ただし、免除する付添人は、当該障害者一人につき一人までとする。）使用料の全部の額

五 前各号に掲げるもののほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 使用料の全部の額又は一部の額

2 前項第1号、第2号及び第5号に規定する常設展の使用料の免除を受けようとする者は、常設展の観覧使用料免除申請書（第4号様式）を副館長に提出しなければならない。

3 副館長は、条例別表第2号又は第3号に掲げる施設の使用が美術館の目的にふさわしい資料展示、講習会、研究会等のためであり、かつ、次の各号のいずれかに該当するときは使用料の全部又は一部を免除するものとし、その免除の額は、当該各号に定める額とする。

一 学校教育法（昭和22年法律26号）第1条に規定する学校が教育課程に基づく学習活動として使用するとき 使用料の全部の額

二 児童福祉法（昭和22年法律第164号）第7条に規定する児童福祉施設に入所している少年を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

三 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定による身体障害者手帳の交付を受けている者及びその付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

四 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律123号）第45条第2項の規定による精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及び療育手帳の交付を受けている知的障害者とこれらの付添人を対象とする事業に使用するとき 使用料の全部の額

五 美術館を構成員とする実行委員会等が主催して使用するとき 副館長が事案に即して相当と認める額又は使用料の全額

六 芸術の振興を目的として活動している団体が主体となって、美術館と共催し使用するとき 使用料の2分の1に相当する額を基本として副館長が事案に即して相当と認める額

七 前各号に掲げる場合のほか、副館長が特別の理由があると認めるとき 副館長が定める額

4 前項に規定する施設の使用料の免除を受けようとする者は、施設使用料免除申請書（第5号様式）を副館長に提出しなければならない。

（美術品等の貸出）

第7条 副館長は、別に定めるところにより美術館の資料を貸し出すことができる。

（美術品等の寄託又は寄贈）

第8条 副館長は、別に定めるところにより美術資料の寄託又

は寄贈を受けることができる。

（美術資料の特別観覧）

第9条 副館長は、美術館に収蔵されている美術資料について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術資料の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をさせることができる。

2 前項に規定する特別観覧をしようとする者は、特別観覧承認申請書（第6号様式）を副館長に提出しなければならない。

附則

この規定は、平成18年7月13日から施行する。

この規程は、平成19年6月25日から施行する。

この規定は、平成21年1月19日から施行する。

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

青森県立美術館アドバイザー・ボード設置要綱

（設 置）

第1 青森県立美術館（以下「美術館」という。）のより良い運営を推進するため、青森県立美術館アドバイザー・ボード（以下「アドバイザー・ボード」という。）を設置する。

（所 掌）

第2 アドバイザー・ボードは、美術館の運営に関して必要な助言等を行う。

（構 成）

第3 アドバイザー・ボードは、8名以内のアドバイザーをもって組織する。

2 アドバイザーは、学識経験を有する者その他適当と認められる者から知事が委嘱する。

3 アドバイザー・ボードに座長を置き、アドバイザーの互選により選出する。

4 アドバイザーに欠員を生じた場合の補欠のアドバイザーの任期は、前任者の残任期間とする。

（任 期）

第4 アドバイザーの任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

（会 議）

第5 アドバイザー・ボードは、青森県立美術館長が招集する。

2 アドバイザー・ボードの議長は、座長が務める。

3 座長に事故があるときは、座長が指示するアドバイザーがその職務を代理する。

（庶 務）

第6 アドバイザー・ボードの庶務は、美術館において処理する。

（その他）

第7 この要綱に定めるもののほか、アドバイザー・ボードの運営に関し必要な事項は、美術館が別に定める。

附 則

この要綱は、平成27年8月20日から施行する。

施設設備概要

建設概要

施設名称	青森県立美術館
所在地	青森市大字安田字近野 185
主用途	美術館
事業主体	青森県
設計管理	青木淳建築計画事務所 構造：金箱構造設計事務所 設備：森村設計 音響：永田音響設計 土系素材：I N A X
施工	竹中・西松・奥村・北斗特定建設工事共同企業体 強電：きんでん・五十嵐・野呂特定建設工事共同企業体 弱電：奈良・高田特定建設工事共同企業体 空調：高砂・青木・佐藤設備特定建設工事共同企業体 衛生：芝管・五戸特定建設工事共同企業体 昇降機：三菱電機株式会社
面積	敷地面積：129,536.37㎡ 建築面積：7,223.07㎡ 延床面積：21,222.19㎡ 地下2階：4,736.15㎡ 地下1階：3,965.11㎡ 1階：5,339.02㎡ 2階：2,403.81㎡ 3階（機械エリア）：4,778.10㎡ 建ぺい率：5.58% 容積率：16.38%
階数	地下2階 地上3階
寸法	最高高：16,160 mm 軒高：15,150 mm 階高：地下2階 2,300 - 19,000 mm 地下1階 2,500 - 7,500 mm 1階 2,700 - 11,000 mm 2階 2,500 - 4,000 mm 主なスパン：3,000 mm × 3,000 mm
地域・地区	都市計画区域内 市街化区域
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造（地下1・2階） 鉄骨造（地上1-3階） 杭・基礎：杭基礎（PHC-ST 杭）600φ・700φ、 （PHC 杭）600φ

空調設備	A H U ・定風量単一ダクト方式、一部F C U、空冷パッケージ方式 熱源：冷温水発生機（320USRt、280USRt）、加湿用蒸気ボイラ
照明設備	スポットライト及び蛍光灯（調光設備・紫外線カット付）
消火設備	屋内消火栓、スプリンクラー、不活性ガス（窒素）消火、加圧式粉末 ABC 消火器 設備項目：自火報・防排煙設備、屋内消火栓設備、スプリンクラー設備（開放型、予作動型）、窒素ガス消火設備（一部展示室、収蔵庫、熱源機械室）
排煙設備	機械排煙設備（3系統）
防犯設備	開館時、常時警備員巡回。展覧会開催中は会場内に監視員を置く。展示室内には監視カメラを設置し、監視室にて監視。
衛生設備	給水：受水槽（42 t）+加圧給水ポンプユニット方式 給湯：局所式（電気温水器）、ガス湯沸器（厨房） 排水：ポンプアップ排水
電気設備	受電方式：高圧電力3φ3W 6,600V 1回線受電（業務用電力+融雪電力） 設備容量：2,650 kVA 契約電力：660 kW 予備電源：非常用発電設備 500 kVA、直流電源設備（非常照明用） 設備項目：受変電設備、自家発電設備、幹線設備、動力設備、電灯設備、展示調光設備、避雷設備、外構設備、電話設備、情報設備、インターホン設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、機械警備設備、放送設備、中央監視設備、外構設備、演出照明設備（シアター、スタジオ）、演出音響設備、映写設備（シアター）
昇降機	荷物用エレベータ1台 乗用エレベータ8台
設計期間	1999年12月-2002年3月
施工期間	2002年12月-2005年9月
外部仕上げ	屋根：ウレタン塗膜防水 外壁：煉瓦+アクリルシリコン塗装 外構：コンクリート舗装ほうき目仕上げ
内部仕上げ	展示室（白）

床：カラーモルタル金こて押え t = 20 mm + 防塵
防汚塗装

壁：合板 t = 15 mm × 2 + プラスターボード t = 12
mm + 全面寒冷紗バテ処理 + EP

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

展示室（土）

床：タタキ t = 50 mm

壁：版築 t = 200 mm

天井：合板 t = 12 mm + プラスターボード t = 9 mm
+ EP

コミュニティホール

床：クリフローリング t = 15 mm

壁：プラスターボード 12 mm × 2 + スタッコ

天井：人工木材ローズウッド練り付け

シアター

床：フェルト t = 8 mm + カーペット t = 7 mm

壁：プラスターボード t = 15 mm + グラスウール
ボード + エキスパンダメタル t = 6 mm（樹
脂コーティング処理）

天井：グラスウール + プラスターボード t = 15 mm
+ エキスパンダメタル t = 6 mm（樹脂コー
ティング処理）

オフィス

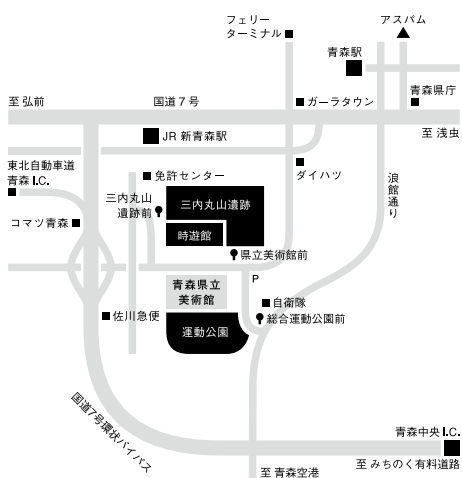
床：システム根太ユニット 600 mm × 600 mm +
コンパネ t = 12 mm + クリフローリング t =
15 mm

壁：プラスターボード t = 12 mm × 2 + EP

天井：プラスターボード t = 12 mm + 吸音板 t = 12
mm + EP

アクセス

- JR 新青森駅から車で約 10 分
- 青森駅から車で約 20 分
- 青森空港から車で約 20 分
- 東北縦貫自動車道青森 I.C. から車で約 5 分
- (八戸方面から) 青森自動車道青森中央 I.C. から車で約 10 分
- 市営バス青森駅前 6 番バス停から三内丸山遺跡行き「県立美術館前」下車 (所要時間約 20 分)
- ルートバスねぶたん号新青森駅東口バス停から乗車「県立美術館前」下車 (所要時間約 11 分)



青森県立美術館年報

平成 27 年度

編集・発行：青森県立美術館

青森市安田字近野 185 038-0021

017-783-3000

表紙デザイン：菊地敦己

印刷：青森オフセット印刷株式会社

発行日：2017 年 3 月